

# ＜健康食品等に関する 記事情報（日本語サイトより） 統合版＞

2024 年後半（7 月号 No.1～12 月号 No.2）

本資料は、公益財団法人日本健康・栄養食品協会 学術情報部が、概ね隔週で会員向けに配信している「健康食品等に関する記事情報（日本語サイトより）」の 2024 年 7 月から 12 月配信分を統合したものです。

公益財団法人日本健康・栄養食品協会 <https://www.jhnfa.org/>

内容についてのお問合せ：学術情報部 E-mail：[gakuj@jhnfa.org](mailto:gakuj@jhnfa.org)

## 健康食品等に関する 記事情報（日本語サイトより）2024 年 7 月号 No.1

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

### ○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

### ■ ピックアップ情報

スルーして頂きたい記事情報を、編者の見識・感性（多少の思い入れ）に基づきピックアップしたセクションとご理解下さい。

随分前の「記事情報」の中でも言及しましたが、以前の所属企業時代から十数年興味を持ち続けていた海外トピック（当時は PFAS の代表的物質 PFOS や PFOA としての報道）

が、今や日本のテレビ・新聞・週刊誌・ネット記事の見出しで頻繁に見られるようになりました。恐怖を煽るようなヒステリックな見出しが気になりますが、冷静に状況把握する姿勢が必要だと思います。現状では、一部の地域の飲料水汚染の話題が中心ですが、農作物中、更に食品原料中といった形で拡大しないかどうか注視する必要があります。

こういったリスク情報には、10年以上の“熟成”期間もありうることを意識して記事情報をご覧頂ければ幸いです。

## 「有機フッ素化合物（PFAS）」の評価に関する情報

食品安全委員会 - 2024/6/25 [https://www.fsc.go.jp/osirase/pfas\\_health\\_assessment.html](https://www.fsc.go.jp/osirase/pfas_health_assessment.html)

食品安全委員会では、「有機フッ素化合物（PFAS）」の健康影響について、令和6（2024）年6月25日に開催した第944回食品安全委員会において評価書を取りまとめました。

それを受けて評価書、Q&A（更新版）、パブリックコメント募集結果、評価書の概要、評価及びパブリックコメントの要点等を掲載しました。

-----

## PFASのリスク評価、その意味は？ 姫野誠一郎座長インタビュー

食品安全委員会 - 2024/6/26 [https://www.fsc.go.jp/osirase/pfas\\_interview.html](https://www.fsc.go.jp/osirase/pfas_interview.html)

PFAS（有機フッ素化合物）の食品健康影響評価が2024年6月25日、まとめられました。食品安全委員会が、自らの意思で評価を行うと決定し（自ら評価）、ワーキンググループ（以下、WG）を設置したのが23年2月。10人の専門委員と12人の専門参考人が、PFASに関する論文や各国政府機関の報告書など数百の文献に目を通し、計9回の会合で意見を述べ議論しました。姫野誠一郎座長が、全体像を把握しながら議論を促し評価をまとめあげました。

科学に基づき多岐にわたる項目を検討した緻密な評価です。それ故に、と言うべきか、一般の人たちにはその意味合いがわかりにくい面があるのもたしか。そこで、姫野座長からわかりやすく語っていただく、とこのインタビューを企画しました。指標値の意味は？ 発がん性は？ 血液検査が必要な？ ずばり、お尋ねします。

-----

## ■ 安全性関連情報

### 食品安全情報（化学物質）No. 13/ 2024（2024. 06. 26）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfo202413c.pdf>

別添（「世界食品安全の日 2024」関連記事

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202413ca.pdf>

以下、気になった見出しです。

【WHO】

1. WHO、健康的な食生活を促進する財政政策に関する新ガイドラインを発表

【EC】

1. 加盟国、食品接触物質におけるビスフェノール A の禁止を支持

【EFSA】

1. ビタミン及びミネラルの耐容上限摂取量に関する科学的意見

2. アレルギー誘発性予測のための新戦略：革新的なタンパク質のアレルギーリスクを評価するためのランキング法とスクリーニングツールの開発

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

## ■ 海外公的機関情報

以下、食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2024/6/26、7/6 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

2024/6/26 更新確認分

5. [米国国立衛生研究所\(NIH\)、幼児期にピーナッツを与えると、青年期までピーナッツアレルギーを予防するとの研究について公表](#)
10. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、ホルモン活性化学物質の用量の問題に関する研究論文を紹介](#)
16. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、アズの種子に含まれる有毒なアミグダリンについて消費者に警告](#)
40. [カナダ保健省\(Health Canada\)、臭素化植物油を「その他の許容された用途の許可済み食品添加物リスト」から削除する提案を通知](#)
41. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2024年5月20日~5月24日\)](#)

2024/7/6 更新確認分

4. [欧州委員会\(EC\)、加盟国が食品接触材料におけるビスフェノール A\(BPA\)の禁止を承認した旨を公表](#)
5. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのビタミン D2 マッシュルーム粉末の安全性に関する科学的意見書を公表](#)
6. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、鉄の耐容上限摂取量\(UL\)に関する科学的意見書の平易な言葉による要約を公表](#)
7. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、鉄の耐容上限摂取量\(UL\)に関する科学的意見書を公表](#)
9. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、「アレルゲン性予測に向けた新たな戦略: 革新的タンパク質のアレルギーリスクを評価するためのランキング手法及びスクリーニングツールの開発」に関する外部機関による科学的報告書を公表 \(後半 2/2\)](#)
10. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、「アレルゲン性予測に向けた新たな戦略: 革新的タンパク質のアレルギーリスクを評価するためのランキング手法及びスクリーニングツールの開発」に関する外部機関による科学的報告書を公表 \(前半 1/2\)](#)
15. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、FDA 及び連邦政府関連機関が、小児の成長及び発達における海産物摂取の役割に関する研究について結論を出したと公表](#)
26. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、既成ビタミン A 及び β-カロテンに関する耐容上限摂取量\(UL\)について科学的意見書を公表](#)

## ■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

[景品表示法に基づく法的措置件数の推移及び措置事件の概要の公表\(令和 6 年 5 月 31 日現在\)](#)

消費者庁 - 2024/6/28 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/024740/>

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

[食品表示の適正化に向けた取組について](#)

消費者庁 - 2024/6/27 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/038469/>

**以下、3 件は機能性表示食品関連の改正です。**

## 食品表示基準の一部を改正する内閣府令（案）に関する意見募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/6/27

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235080074&Mode=0>

## 食品表示法に基づく食品表示基準の一部改正に係る消費者委員会への諮問について

消費者庁 - 2024/6/27 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/038499/>

## 食品衛生法施行規則の一部を改正する省令案に関する御意見の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/6/27

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495240076&Mode=0>

## 食品又は農産物における相対モル感度を利用した定量法に関する一般要求事項の日本農林規格案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/7/1

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003965&Mode=0>

## 「有機加工食品の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/7/1

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=550003820&Mode=1>

## 「有機農産物の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/7/1

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=550003819&Mode=1>

## 「有機畜産物の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/7/1

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=550003821&Mode=1>

## 「有機飼料の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/7/1

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=550003822&Mode=1>

### ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は、特に見当たりませんでした。

### ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）

#### 【カロテノイド】エビデンスベースの提案進む

健康メディア.com - 2024/7/1 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19258](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19258)

天然の着色料として食品業界で、注目されるカロテノイド。高い抗酸化力を持ち、様々な健康機能が解明される中、アスタキサンチン、ルテイン、リコピン、β-カロテン、クロセチンなどが健食用途で利用が進む。原料サプライヤーサイドでは、アイケア、美肌、抗疲労、認知機能改善など、様々なエビデンスデータを蓄積。機能性表示食品では、独自表示や複数表示での差別化を図る提案が加速している。近年は、デジタル化による、目の健康意識の高まりや、外出機会増に伴う、アイケア、UV対策、抗ストレスを謳う製品が市場を牽引している。アスタキサンチンでは、今年に入り「視力」に関する新規表示も認められた。また、スポーツ用途へ展開する企業も出てきており、各社の新分野への展開が期待-----

## **【NMN】インバウンドで市場拡大**

健康メディア.com - 2024/7/1 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19254](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19254)

エイジングケア向け原料としてNMNが躍進している。本紙が本号で行った健康食品受託製造企業への調査で、今年上期・人気受注素材ランキングでは1位に返り咲いた。市場では、インバウンド需要により4万円程度のNMNサプリメントが一店舗で毎月数千万も売れ、6万円のサプリメントが約300の医療機関で販売されている。昨年末には、第一号となる機能性表示食品も上市され話題となった。原料価格も下がり、商品販路の幅が広がった。一方、国内の一般消費者にはまだ認知度が低く、ボリュームゾーンへいかにリーチするかが課題となっている。定番のサプリメント素材に向けて各社研究開発が活発化して……

## **青森発の機能性成分「プロテオグリカン」にいま注目の理由**

ウェルネス総研オンライン - 2024/7/9 <https://wellnesslab-report.jp/3380/>

コラーゲン、ヒアルロン酸に続く、第3の美容成分として市場を広げている「プロテオグリカン」。美容成分のほかにも、抗炎症作用や細胞増殖促進作用、免疫調節機能など様々な機能性成分が発見され、その機能性の多さから「夢の成分」ともいわれています。

また、プロテオグリカンの抽出法を確立した青森県は、青森生まれのプロテオグリカンを「あおもりPG」と称し、弘前大学や地元企業などとともに産学官の連携体制を構築。プロテオグリカン研究を20年近く牽引してきました。全国各地で進められている産学官連携プロジェクトの中でもその歴史は長く、プロテオグリカンの研究のほか、商品開発のサポート、PR活動などを続けて……

## **■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報**

### **「未来型食品工場コンソーシアム」結成のお知らせ**

～国内食品メーカー複数社と調理ロボット/業務用ロボット開発会社で食品工場の非競争領域の共通課題解決を目指す～

カゴメ株式会社 - 2024/7/4

<https://www.kagome.co.jp/library/company/news/2024/img/2024070401.pdf>

カゴメ株式会社（代表取締役社長：山口 聡 本社：愛知県名古屋市）、キューピー株式会社（代表取締役社長執行役員：高宮 満 本社：東京都渋谷区）、株式会社永谷園（代表取締役社長：成田 健一 本社：東京都港区）、株式会社ニチレイフーズ（代表取締役社長：竹永 雅彦 本社：東京都中央区）、株式会社日清製粉グループ本社（代表取締役 取締役社長：瀧原 賢二 本社：東京都千代田区）（※以上五十音順）及び TECHMAGIC 株式会社（代表取締役社長：白木 裕士 本社：東京都江東区）は、食品工場が抱える非競争領域の共通課題の

問題解決を目標として、共同で『未来型食品工場コンソーシアム』を結成したことを発表いたしました-----

## カレーから日本を考える。ハウス食品もニッポンフードシフト

農林水産省 - 2024/6/27 <https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/anpo/240627.html>

～全国の夏野菜×カレー 新企画をスタート～

農林水産省は、食と農のつながりの深化に着目した国民運動「食から日本を考える。ニッポンフードシフト」を展開しています。本日、ハウス食品株式会社(ハウス食品)と連携し、身近なカレーをテーマに「カレーから日本を考える。ハウス食品もニッポンフードシフト」企画をスタートします。

ニッポンフードシフトの推進パートナーであるハウス食品は、ニッポンフードシフトのロゴを活用したこれまでのプロモーション活動に加え、今年度は新たにテレビCMの放映や店頭POPの掲出、ニッポンフードシフト公式サイトとの連携等による取組を強化します。これらにより、国産食材についての興味や関心を喚起し、日本の食について考えるきっかけの場を創出-----

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### [31105] 食の安全に関するアンケート調査（第8回）

マイボイスコム株式会社

[https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product\\_id=31105](https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=31105)

### [31111] 免疫力に関するアンケート調査

マイボイスコム株式会社

[https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product\\_id=31111](https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=31111)

## ■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

### 忘れた記憶を再び思い出す脳のスイッチ「ヒスタミン神経細胞」発見ー 名古屋市大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2024/6/27

<https://www.qlifepro.com/news/20240627/histamine.html>

▼関連リンク・名古屋市立大学 プレスリリース

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/press-news/202406201000/>

## **脳内のどの細胞を活性化すれば記憶を思い出せるようになるのかは不明だった**

名古屋市立大学は6月20日、脳内のヒスタミン神経細胞の活性化によって、忘れた記憶を再び思い出せるようになることを発見し、そのメカニズムの一端を明らかにしたと発表した。この研究は、同大学院医学研究科 脳神経科学研究所の野村洋寄附講座教授らと、北海道大学大学院薬学研究院の南雅文教授との共同研究によるもの。研究成果は、「Molecular Brain」に掲載されて-----

## **唾液緩衝能、「うま味」感受性に影響する可能性－岡山大**

QLifePro 医療ニュース - 2024/7/1

<https://www qlifepro.com/news/20240702/salivary-buffering-capacity.html>

▼関連リンク・岡山大学 プレスリリース

[https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id1249.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1249.html)

### **学生 87 人の安静時唾液分泌量・唾液緩衝能・5 基本味認知閾値を測定、関連性を検討**

岡山大学は6月25日、健常な日本人学生における唾液の緩衝能と味覚の感受性との関連を調べ、緩衝能と関連すると考えられる酸味の感受性は唾液緩衝能と明確な関連がなく、うま味感受性のみ唾液緩衝能と関連することを発見したと発表した。この研究は、同大学術研究院医歯薬学域（歯）口腔生理学の吉田竜介教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Achieves of Oral Biology」に掲載されて-----

## **「脳内マリファナ類似物質」が脳発達のタイミングを調整していると判明－鳥取大ほか**

QLifePro 医療ニュース - 2024/7/3

<https://www qlifepro.com/news/20240703/cannabinoid-2.html>

▼関連リンク・鳥取大学医学部 プレスリリース

<https://www.med.tottori-u.ac.jp/files/56538.pdf>

### **脳発達の臨界期のタイミングがどのように決定されているのかは不明だった**

鳥取大学は6月25日、内因性カンナビノイドが脳発達のタイミングを調節していることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大医学部生命科学科神経科学分野の畠義郎教授、生理学研究所の米田泰輔助教らの研究グループによるもの。研究成果は、「iScience」に掲載されて-----

## **乳児用ミルクの脂質構造を母乳に近づけることで脂肪酸の便中排泄を抑制－順大ほか**

QLifePro 医療ニュース - 2024/7/8

<https://www.qlifepro.com/news/20240708/triglyceride.html>

▼関連リンク・順天堂大学 ニュース&イベント

<https://www.juntendo.ac.jp/news/19098.html>

### 生後1か月児における栄養方法の違いがPAの吸収に及ぼす影響は？

順天堂大学は6月28日、乳児用ミルクの主な脂質であるトリグリセリド（triglyceride：TG）の構造を母乳に近づけることで、脂肪酸の一種であるパルミチン酸（palmitic acid：PA）の便中排泄が母乳栄養児と同様に抑えられることを見出したと発表した。この研究は、同大大学院医学研究科小児思春期発達・病態学の清水俊明特任教授、同大医学部小児科学講座の東海林宏道先任准教授と、東京大学医学部小児科、東邦大学医学部新生児学教室、明治ホールディングス株式会社、株式会社明治との共同研究グループによるもの。研究成果は、「Nutrients」オンライン版に掲載されて……

### ～森永製菓の研究成果～

#### 森永製菓の独自素材 “パセノール™” 中の有効成分がサーチュインを介してヒアルロン酸合成酵素発現を増強する可能性を発見

森永製菓株式会社 - 2024/6/19

<https://www.morinaga.co.jp/company/newsrelease/detail.php?no=2689>

森永製菓株式会社（東京都港区芝浦、代表取締役社長・太田 栄二郎）は、機能性関与成分として「ピセアタンノール」を含有する森永製菓独自の機能性表示対応食品素材“パセノール™”の研究開発を進めております。この度、ピセアタンノールに関する新しい研究成果が、国際学術誌「Biochemistry and Biophysics Reports」に掲載され……

#### 酵素分解ローヤルゼリーが老化症状の予防に貢献する可能性 - 山田養蜂場の研究

マイナビニュース - 2024/6/26

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240626-2973684/>

#### 東北大、死細胞が老化を抑制する物質を分泌していることを動物実験で確認

マイナビニュース - 2024/7/3 <https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240703-2978039/>

#### 乳児用ミルクの脂質構造を母乳に近づけると乳児に好影響 - 順天堂大などの研究

マイナビニュース - 2024/7/1

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240701-2976924/>

## 名大、食品成分が身体に作用する機能性を推定できる AI システムを開発

マイナビニュース - 2024/7/3

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240703-2978532/>

## ヒト体内でタンパク質がビタミン C を認識・輸送する仕組みを東大が解明

マイナビニュース - 2024/7/8

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240708-2981748/>

## パセリ油に含まれる不飽和脂肪酸に抗黄色ブドウ球菌作用 京都工繊大など解明

Science Portal - 2024/7/8

[https://scienceportal.jst.go.jp/newsflash/20240708\\_n01/index.html](https://scienceportal.jst.go.jp/newsflash/20240708_n01/index.html)

以下の 5 件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2024 年 6 月 26 日～7 月 9 日）から選定したものです。

## プロテイン補給にまつわる、ありがちな誤解とよくある質問 科学的エビデンスのまとめ

<https://sndj-web.jp/news/002836.php> (2024/6/27)

プロテイン補給に関連する、よくある質問や誤解を 11 項目にまとめ、それぞれについて現時点での科学的エビデンスに基づき回答をまとめた形式のレビュー論文が、国際スポーツ栄養学会の「Journal of the International Society of Sports Nutrition」に掲載された。一部を抜粋して紹介……

## 必須アミノ酸（BCAA）で筋肉痛や筋損傷マーカーを抑制できるか？ 18 件の研究のメタ解析

<https://sndj-web.jp/news/002837.php> (2024/6/28)

運動による筋損傷や筋肉痛に対する必須アミノ酸／分岐鎖アミノ酸（branched-chain amino acid ; BCAA）の有用性に関する、システマティックレビューとメタ解析の結果が報告された。筋損傷のマーカーであるクレアチンキナーゼや筋肉痛に対しては有意な効果が確認され、摂取量が高用量、長期間であるほうが、より有効性が高いことが示唆され-----

## **暑熱環境で長時間にわたる運動時の水分補給戦略 アイソトニック飲料は水よりも有効か？**

<https://sndj-web.jp/news/002844.php> (2024/7/4)

暑熱環境下での長時間の運動時に、用いる水分摂取戦略によって身体的負担が異なるのかどうかを、男性アスリート対象に検討した研究結果を紹介する。水やアイソトニック飲料を摂取する条件では、客観的な評価での身体的負担が抑制されること、および、主観的な熱的不快感は水よりもアイソトニック飲料のほうが、より抑制されることなどが報告されて-----

## **低 GI 食・高 GI 食・低炭水化物／高脂肪食をアスリートで比較し、基質代謝・グリコーゲン・パフォーマンスの変化を調査**

<https://sndj-web.jp/news/002846.php> (2024/7/6)

男性アスリートを対象に、自由行動下で低 GI 食、高 GI 食、低炭水化物／高脂肪食という三つの食事パターンにした場合に、持久力パフォーマンスやエネルギー基質、グリコーゲン貯蔵にどのような影響が現れるのかを、無作為化比較試験で検討した研究結果を紹介する。オーストリアで行われた、介入期間 10 週間の無作為化非盲検比較対照試験の-----

## **不健康な食品は課税の対象になる？ WHO が健康的な食生活を促進するためのガイドラインを公表**

<https://sndj-web.jp/news/002852.php> (2024/7/9)

世界保健機関（World Health Organization ; WHO）は 6 月 14 日、加盟国からの要請に応え、健康的な食生活を促進するための財政政策を新たに策定・実施したり、既存の政策を強化したりする際の支援を強化・効率化するために、ガイドラインを策定した。実質的に、不健康な食品への課税に関する初のガイドラインと-----

## **■ その他の食品関連科学・技術情報**

## NTT データ経営研究所と CAN、香り人間情報を分析する AI モデルの研究会を発足

IoTNews - 2024/6/28 <https://iotnews.jp/ai/250973/>

株式会社 NTT データ経営研究所と一般社団法人応用脳科学コンソーシアム（以下、CAN）は、香りに対する消費者の官能評価と人間特性の分析・予測を可能とした AI モデルを活用する「香り×人間情報データベース研究会」（以下、研究会）を発足……

## ユアサ商事、異物の動きを AI でトラッキングする飲料異物検査装置を開発

IoTNews - 2024/7/4 <https://iotnews.jp/manufacturing/251250/>

ユアサ商事株式会社と connectome.design 株式会社は共同で、「AI 外観検査装置 F[ai]ND OUT シリーズ 3」を開発した。

「AI 飲料異物検査 F[ai]ND OUT 3」は、飲料物製造の現場で、飲料内に異物混入がないか AI で自動検知するソリューションだ。製造ラインに設置することで、一升瓶の中の異物と泡や傷の差を AI が見分け、1mm以下の異物を検知することが可能……

## 横国大、コーヒー粕から 52%という高収率で CNF の一種を得ることに成功

マイナビニュース - 2024/7/1

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240701-2977001/>

### ■ その他の科学・技術情報

今回は、特に見当たりませんでした。

### ■ その他

英文情報サイト *Foodnavigator-asia* に、7月8日付けで英文記事の和訳版が掲載されましたのでご紹介いたします。タイトルのクリックで記事本文が閲覧できます。

[今が旬：インドの香辛料汚染スキャンダル、中国の包装前表示、EUDR 論争、その他のトレンドストーリー](#)

[代替プロテインに注目：タイの Buono 社、培養プロテイン市場の統合、日本の NEXT MEATS など](#)

[ポリシー ピック：タイの代替タンパク質政策、韓国の新しい培養肉規則、専門家が非難する EUDR 分析など](#)

[チャイナ フォーカス：ココナッツヨーグルトブランド「Yeyo」、新しい包装ルール、ケージフリー卵など](#)

[ジャパンフォーカス：発酵食品の摂取、サントリーのミストサプリメント、トラフィックライト食品表示など](#)

以上

## 健康食品等に関する

### 記事情報（日本語サイトより）2024 年 7 月号 No.2

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

## ○ 記事一覧

**基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。**

## ■ ピックアップ情報

**スルーして頂きたい記事情報を、編者の見識・感性（多少の思い入れ）に基づきピックアップしたセクションとご理解下さい。**

**[機能性表示食品のうち天然抽出物等を原材料とする錠剤、カプセル剤等食品の製造又は加工の基準（案）に関する意見募集について](#)**

e-Gov パブリック・コメント - 2024/7/12

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235080075&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235080075&Mode=0)

## 「特定保健用食品の表示許可等について」の一部改正（案）に関する意見募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/7/19

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235080076&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235080076&Mode=0)

受付締切日時 2024年8月18日23時59分

意見提出が30日未満の場合その理由

“紅麹関連製品に係る事案を受けた機能性表示食品制度等に関する今後の対応の一環として、機能性表示食品制度に係る食品表示基準等を改正することに伴い、特定保健用食品についても消費者の健康被害の拡大を防止するための措置を迅速に講ずる必要がある中で、特定保健用食品の許可等の要件が変更されることに鑑みて、当該変更の影響を事業者へ周知する期間を可能な限り確保する必要があることから、意見提出期間の短縮により公布を早めて周知期間を確保させていただくものです。”

## 日本人の子ども 1,318 人の食事調査 超加工食品の摂取量が多いほど「食事の質」が低い傾向 東京大学

スポーツ栄養 WEB - 2024/7/20 <https://sndj-web.jp/news/002875.php>

日本の子どもを対象とした食事調査のデータをもとに、超加工食品の摂取量と食事の質との関連を検討した結果、超加工食品からのエネルギー摂取量は27～44%を占めていて、その割合が高い子どもほど食事の質が低いことがわかった。東京大学の研究グループによる研究であり、論文が「Journal of the Academy of Nutrition and Dietetics」に掲載されるとともに、同大学のサイトにプレスリリースが掲載された。著者によると、この研究は子どもの超加工食品の摂取量を割り出し、食事の質との関連を評価した日本で初めての研究であり、今後の国内での超加工食品に関連する疫学研究の発展や、公衆栄養政策の決定に貢献することが期待され……

## ■ 安全性関連情報

### 食品安全情報（化学物質）No. 14/ 2024（2024. 07. 10）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202414c.pdf>

## 全リスト

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった情報は以下の通りです。

### 【WHO】

1. 世界的なトランス脂肪排除に関する WHO の 5 年間のマイルストーン報告書は 2023 年までの最新の進捗状況を示す

### 【EFSA】

1. 食品中の低分子有機ヒ素化合物のリスク評価

### 【FSA】

1. 羅漢果（ラカンカ）の非選択的水溶性煎じ液：規則（EU）2015/2283 第 4 条 2 項に基づく新規食品としての位置づけの判断

### 【BVL】 ドイツの政府機関

1. 「フードサプリメント」作業部会の第一次報告書

*記事情報（英語サイトより）の 6 月号 No.2 でも取り上げた内容ですが、今回の食品安全情報（化学物質）の注目情報として冒頭で紹介されていましたので、転記いたします。*

### 【BVL】 「フードサプリメント」作業部会の第一次報告書

EU の Heads of Food Safety Agencies (HoA) が 2019 年に設立したフードサプリメントワーキンググループ (HoA WG FS) が、ヒトの健康に対する潜在的リスクを踏まえ、フードサプリメントへの添加が禁止または制限されるべき物質のリストを含む第一次報告書を発表した。WG は、ドイツ連邦消費者保護食品安全庁 (BVL) とオランダ食品消費者製品安全庁 (NVWA) が議長を務め、26 名のメンバーからなる。2020 年から作業を開始し、本報告書では 117 物質が分類され、優先順位が付けられた。

\*ポイント： EU では、フードサプリメントに添加できるビタミン・ミネラルとその化合物、並びにその他の物質を Regulation (EC) No 1925/2006 で規制しています。本報告書では、当該規則のもとフードサプリメントへの添加を禁止または制限する候補物質として最終的に 13 物質（植物含む）を提案しています。さらに 65 物質は新規食品制度の対象となることも指摘しています。EU では新規食品と判断されたものについては、EFSA の評価で安全性が確認され、EC による認可を取得できなければ食品（フードサプリメント含む）及び食品の原材料として使用することはできません。

### 【BfR】

1. 高レベルのカプサイシンには健康リスクがある

### 【VKM】

1. ルチンとケルセチン-フードサプリメント摂取の健康リスク

## 【FDA】

1. FDA は食品への臭素化植物油(BVO)の使用を認める規則を取り下げる

## ■ 海外公的機関情報

以下の 13 件は、[食品安全委員会 食品安全総合情報システム](#)

(<https://www.fsc.go.jp/fscis/>) の更新情報 (2024/7/17 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

4. [ドイツリスク評価研究所\(BfR\)は 6 月 25 日、植物性飲料に含まれるマイコトキシンのリスク評価に関する見解を公表](#)
9. [世界保健機関\(WHO\)、アルコールに関するファクトシートを更新](#)
10. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2024 年 6 月 17 日~6 月 21 日\)](#)
14. [世界保健機関\(WHO\)、健康的な食事を世界的にモニタリングするためのガイダンスを公表](#)
15. [世界保健機関\(WHO\)、世界的なトランス脂肪酸の排除 2023 に関する 5 年の節目となる報告書を公表](#)
16. [スイス連邦食品安全獣医局\(BLV\)、内分泌かく乱物質に関するファクトシートを公表](#)
19. [ドイツ消費者保護食品安全庁\(BVL\)は 6 月 6 日、栄養補助食品を対象とした欧州の統一規則に関するプレスリリースを公表](#)
20. [ドイツリスク評価研究所\(BfR\)、マイクロプラスチックの事実、研究、未回答質問に関する Q&A を更新 \(2/4\)](#)
21. [ドイツリスク評価研究所\(BfR\)、マイクロプラスチックの事実、研究、未回答質問に関する Q&A を更新 \(4/4\)](#)
22. [ドイツリスク評価研究所\(BfR\)、マイクロプラスチックの事実、研究、未回答質問に関する Q&A を更新 \(1/4\)](#)
23. [ドイツリスク評価研究所\(BfR\)、マイクロプラスチックの事実、研究、未回答質問に関する Q&A を更新 \(3/4\)](#)
26. [世界保健機関\(WHO\)、特定の食品添加物の安全性を評価した WHO 食品添加物シリーズ 87 を公表](#)

41. [フランス食品環境労働衛生安全庁\(ANSES\)、「研究評論 No. 23: 内分泌かく乱物質-研究の現状を理解する」を公表](#)

## ■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は、特に見当たりませんでした。

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

「ピックアップ情報」に記載した2件以外、特に見当たりませんでした。

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は、特に見当たりませんでした。

## ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）

### 【ポストバイオティクス】第3の領域として脚光

健康メディア.com - 2024/7/17 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19332](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19332)

ハンドリングや加工特性の良さからあらゆる食品に利用されるようになった殺菌乳酸菌。健康食品やサプリメントはもとより、一般食品や、中食・外食産業でも採用が広がるなど、手軽に健康価値を付与できる食品素材として定着している。昨今の乳酸菌ブームの功労者の素材だ。その殺菌菌体が現在、国内のみならず海外からも注目されるようになってきた。近年、腸内細菌研究が飛躍的に進んだことで、殺菌体による健康効果や、菌が代謝した代謝物にも有益な機能があることが知られるようになった。従来、世界的には生きた菌を摂取することで体に有益な効果をもたらす「Probiotics（プロバイオティクス）」が主流だったが、殺菌などにより不活化した微生物（死菌）やその成分を指す「Postbiotics（ポストバイオティクス）」に関心が-----

### 【吸収性向上素材・技術】吸収性向上で「サプリカ」強化

健康メディア.com - 2024/7/17 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19330](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19330)

吸収性向上素材・技術は「体感性アップ」「コスト削減」の両建てを実現することから、サプリメントのエンハンス開発に欠かせないパーツになっている。素材分野では、（発酵、還元型、微粒、乳化、酵素処理など）有効成分の吸収性を高めたオリジナルバルクや、主剤

の吸収性をサポートする機能性素材のための機能性素材がある。技術分野では、ナノリポソーム、フィットソーム、コーティングビーズ、高分散型ソフトカプセルなど、独自技術を活用することで、有効成分の高吸収を訴求する OEM・ODM 供給や、素材の一次加工を提案する受託製造企業も……

## 【抗糖化】糖化ストレスの新たな概念も

健康メディア.com - 2024/7/17 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19320](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19320)

国内で「抗糖化」の関連商品が登場してから 10 年以上が経過。消費者認知調査では約 80%が「抗糖化を知っている」状態になった。一方で日本以上に糖化に感心を寄せているのが中国だ。ここ数年は中国や台湾をはじめとしたアジア圏で抗糖化商品のニーズが広がりをみせている。海外向けに展開するメーカーでは、「日本では薬機法の観点から抗糖化を伝えるのが難しいが、中国ではもう少し踏み込んだ説明ができるので消費者が理解しやすい」と話す。抗糖化原料を供給するサプライヤーもアジア圏への展開を視野に入れた動きが活発となっており、今後は国内外での抗糖化市場拡大が必至だ。また、糖化ストレスの新たな概念も。糖化について長年研究する同志社大学教授の八木雅之氏は「良い AGEs と悪い AGEs に分けられることがわかってきた。糖化ストレスの概念を見直す時期かも」と指摘する。同氏に最新の糖化ストレスについて聞いて……

## ■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

### 大正製薬と森永乳業がビフィズス菌の啓発活動で協業 「Bkins(ビーキンズ)」 ~20代に向けた取り組み開始~

森永乳業株式会社 - 2022/7/16

<https://www.morinagamilk.co.jp/release/newsentry-4424.html>

森永乳業株式会社 [本社：東京都港区、社長：大貫 陽一]（以下、森永乳業）は、大正製薬株式会社 [本社：東京都豊島区、社長：上原 茂]（以下、大正製薬）と、ビフィズス菌の認知拡大や特徴の理解促進に向けて協業し、7月16日より20代の社会人を中心としたコミュニケーション活動の共同プロジェクト「Bkins（ビーキンズ）」を開始し……

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### 森永乳業、大腸（おなか）の健康に関する意識調査、2人に1人が大腸（おなか）の健康を意識している

マイライフニュース - 2024/7/11 <https://www.mylifenews.net/health-medical/58817/>

森永乳業は、来年日本国際博覧会（以下、大阪・関西万博）の“大阪ヘルスケアパビリオン”において、「腸からつくるウェルビーイング」をテーマに出展参加する。今回大阪・関西万博に先駆け、全国の20代から60代の男女（計6983人）を対象として、健康管理や大腸（おなか）に対する健康意識と健康対策を明らかにする「大腸（おなか）の健康に関する意識調査」を行った。その結果、定期検診受診率は全国平均37.8%で、1位は東北地方だった。2人に1人が大腸（おなか）の健康を意識していた。定期健診受診率や大腸（おなか）の健康意識は、地方によって最大約7%の差があることが明らかに----

**定期検診受診率 全国平均 37.8%、1位は東北地方 2人に1人が大腸（おなか）の健康を意識している**

### **<大腸（おなか）の健康に関する意識調査>**

～定期健診受診率や大腸（おなか）の健康意識は、地方により最大約7%の差があることが明らかに～

森永乳業株式会社 - 2024/7/11

<https://www.morinagamilk.co.jp/release/newsentry-4422.html>

森永乳業は、2025年日本国際博覧会（以下、大阪・関西万博）の“大阪ヘルスケアパビリオン”にて、「腸からつくるウェルビーイング」をテーマに出展参加します。このたび大阪・関西万博に先駆け、全国の20～60代の男女（計6,983人）を対象として、健康管理や大腸（おなか）に対する健康意識と健康対策を明らかにする「大腸（おなか）の健康に関する意識調査」を行いました。

調査結果からうかがえる傾向や取るべき対策については、京都府立医科大学 内藤裕二教授にコメントをいただきました。また、各地方の特徴については、県民性診断を行うディグラム・ラボの木原誠太郎所長に分析を依頼し、県民性の観点からコメントをいただき-----

### **日本腎臓病協会と協和キリン、慢性腎臓病（CKD）の疾患認知度に関するアンケート調査、疾患認知度は全体で44.6%に**

マイライフニュース - 2024/7/16 <https://www.mylifenews.net/health-medical/59140/>

日本腎臓病協会と協和キリンは、2019年5月に締結した「腎臓病の疾患啓発活動に関する連携協定」に基づき、腎臓病に対する啓発活動の一環として、慢性腎臓病（CKD）の疾患認知に関するアンケート調査を継続的に実施している。今回は昨年11月に実施した最新の調査結果について発表した。その結果、疾患認知度は全体で44.6%、年齢層が上がるにつれ認知度は向上している。20～40代の認知度は3割程度であったが、年代とともに向上し、70代では72.0%であった。「症状を含めてよく知っている」は、全体で7.0%から7.5%に上昇して-----

## ■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

### 免疫疾患に関わるヘルパーT細胞の分子メカニズム、1細胞レベルで解明—理研ほか

QLifePro 医療ニュース - 2024/7/11

<https://www qlifepro.com/news/20240711/enhancers-helper-t-cell.html>

▼関連リンク・理化学研究所 プレスリリース

[https://www.riken.jp/press/2024/20240705\\_1/index.html](https://www.riken.jp/press/2024/20240705_1/index.html)

#### 多くの疾患の発症に関わるエンハンサー、1細胞レベルでの解析は少ない

理化学研究所（理研）は7月5日、ヒトの多様なヘルパーT細胞の遺伝子プロモーターやエンハンサーを1細胞レベルで調べることに成功し、多様なヘルパーT細胞がさまざまな免疫疾患の発症にどのように関与するのかを系統的に解明したと発表した。この研究は、理研生命医科学研究センター理研-IFOMがんゲノミクス連携研究チームの小口綾貴子リサーチアソシエイト（京都大学高等研究院ヒト生物学高等研究拠点 WPI-ASHBi 特任研究員）、小松秀一郎客員研究員、村川泰裕チームリーダー（京都大学高等研究院ヒト生物学高等研究拠点 WPI-ASHBi 教授）、自己免疫疾患研究チームの鈴木亜香里上級研究員、山本一彦チームリーダー（生命医科学研究センターセンター長）、ゲノム解析応用研究チームの寺尾知可史チームリーダーらの研究グループによるもの。研究成果は、「Science」にオンライン掲載されて……

### 見た物を記憶する脳の仕組みをサルで解明、世界初—量研ほか

QLifePro 医療ニュース - 2024/7/18

<https://www qlifepro.com/news/20240718/fronto-temporal.html>

▼関連リンク・量子科学技術研究開発機構 プレスリリース

<https://www.qst.go.jp/site/press/20240710.html>

#### 側頭皮質前方部がネットワークを形成し、視覚短期記憶を実現するメカニズムは不明

量子科学技術研究開発機構は7月10日、見た物についての記憶を保持する脳ネットワークを霊長類で特定し、その作動原理を明らかにすることに、世界で初めて成功したと発表した。この研究は、同機構量子医科学研究所脳機能イメージング研究センターの平林敏行主幹研究員・南本敬史次長らと、京都大学ヒト行動進化研究センター 高田昌彦教授らとの共同研究によるもの。研究成果は、「Nature Communication」オンライン版に掲載されて……

### 運動時のエネルギー消費（痩せやすさ）を左右するタンパク質の発見 神戸大学と徳島大学

大学ジャーナルオンライン - 2024/7/22 <https://univ-journal.jp/246994/>

神戸大学、徳島大学の研究グループは、運動時のエネルギー消費（脂肪燃焼）を促すタンパク質を同定することに成功した。運動をすると筋肉がエネルギーを消費するため、脂肪がエネルギー源として燃やされて体重が減少する。しかし、同じ運動をしても痩せやすい人と痩せにくい人がおり、その個人差を決めるメカニズムは明らかとなっていなかった……

## **血中アルブミン酸化還元バランスが高齢者の低たんぱく質栄養状態の指標となる可能性**

森永乳業株式会社 - 2024/7/19

<https://www.morinagamilk.co.jp/release/newsentry-4420.html>

森永乳業グループは、日本の重要な社会課題である、高齢者の低栄養とこれに伴う様々な健康リスクの低減に向けて研究を進めています。今回、地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターとの共同研究において、高齢者のたんぱく質摂取量と血中アルブミン酸化還元バランスとの間に関連があり、血中アルブミン酸化還元バランスが高齢者の低たんぱく質栄養状態を反映する指標となり、新しい健康のものさしとなる可能性が示されました。これらの研究成果が学術雑誌『Clinical Nutrition ESPEN』に2024年6月22日に掲載されましたので、ご報告いたします……

## **【研究報告】NMNの肥満に対する効果と、そのメカニズムを解明した論文を発表**

株式会社阿部養庵堂薬品は静岡県立大学食品栄養科学部との共同研究で、NMNの肥満に対する有効性メカニズムを解明しました。

株式会社 阿部養庵堂薬品 - 2024/6/28

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000058.000037884.html>

ニコチンアミドモノヌクレオチド（NMN）のパイオニア企業である株式会社阿部養庵堂薬品（東京都足立区、代表取締役：阿部朋孝）は、2022年より静岡県立大学食品栄養科学部と「加齢による筋萎縮及び肥満に対するニコチンアミドモノヌクレオチド（NMN）の効果とメカニズムの検証」をテーマに共同研究を進めておりました。このたび、NMNの肥満に対する有効性メカニズムを解明し、その研究成果についての論文が静岡県立大学より国際的な学術雑誌「Science Direct」にて発表され……

## **“グアーガム分解物”と酪酸産生菌の組み合わせ効果を検証 シンバイオティクスとしての有用性を確認**

太陽化学株式会社 - 2024/7/11

<https://www.taiyokagaku.com/uploads/2024/07/9e080358f22de4b7cc8d44368b272315.pdf>

太陽化学株式会社(本社：三重県四日市市、代表取締役社長：山崎 長宏)は、グアーガム分解物をはじめとする各種食物繊維や構成糖について、酪酸産生菌 Clostridium butyricum との組み合わせ効果を比較検証し、学術誌「Functional Foods in Health and Disease」に発表し-----

## 東北大、血液中の代謝物「ケトン体」が認知機能の低下と関連することを確認

マイナビニュース - 2024/7/16

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240716-2986496/>

## 筑波大、普段は眠っている骨格筋細胞が活動を開始するスイッチ分子を解明

マイナビニュース - 2024/7/16

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240716-2986608/>

## 阪大、心の動きと全身の代謝や炎症応答などを結びつける因子の同定に成功

マイナビニュース - 2024/7/18

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240718-2987344/>

*以下の6件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2024年7月10日～23日）から選定したものです。*

## 社員食堂の調味料を低 Na/K 比製品に変更して牛乳を追加すると、1日の Na/K 比が 0.8 低下する

<https://sndj-web.jp/news/002855.php> (2024/7/12)

国内の社員食堂の調理に使われている調味料や麺つゆを低 Na/K 比製品に変更し牛乳を追加することの影響をシミュレーションした結果、1食の Na/K 比（モル比）は 2.39 低下し、1日でも 0.8 低下する可能性のあることが明らかになった。京都府立大学大学院生命環境科学研究科の奥田奈賀子氏らの研究であり、「Nutrients」に論文が掲載され-----

## 皮膚カロテノイド値が心血管イベントリスクと逆相関 日本人健診データの解析結果

<https://sndj-web.jp/news/002853.php> (2024/7/10)

非侵襲的に測定可能な皮膚カロテノイドレベルが、動脈硬化性心血管疾患のリスクと逆相関するという、日本人対象横断研究の結果が報告された。聖隷浜松病院眼科の尾花明氏らの研究によるもので、「Scientific Reports」に論文が掲載された。同氏は、この検査方法が非侵襲であることから、臨床や公衆衛生対策の現場で、カロテノイドの豊富な野菜や果物の摂取を奨励するためのツールとして利用可能ではないかと述べて-----

## 健康的な日本の食事習慣は、欧米の食事習慣と比較して老化を遅らせる 高齢男性 144 名を調査 早稲田大学

<https://sndj-web.jp/news/002857.php> (2024/7/14)

高齢男性を対象に、健康的な日本型食事パターンおよび欧米型食事パターンと生物学的老化との関係を調査した結果、欧米型の食事パターンは生物学的老化と関連しないことが示唆された一方で、健康的な日本型食事パターンは、日本人高齢男性における生物学的老化の遅延と関連することが明らかになった。早稲田大学などの研究グループによる研究であり、論文が「Frontiers in Nutrition」に掲載されるとともに、同大学のサイトにニュースリリースが掲載され-----

## ランニング後は低脂肪で高炭水化物の甘い物が食べたくなる 若年男性における報酬系の急性変化の検討

<https://sndj-web.jp/news/002865.php> (2024/7/19)

中強度の有酸素運動を行う前後で、食べ物に対する欲求の変化を検討した研究から、運動後には低脂肪（高炭水化物）で甘い物への欲求が高まることが明らかになった。早稲田大学スポーツ科学学術院運動代謝学研究室の宮下政司氏らが、健康な日本人若年男性を対象に行った無作為化クロスオーバー試験の結果であり、「Appetite」に論文が掲載され-----

## 主食・主菜・副菜が揃った食事の頻度が高いと栄養バランスが良好 ただし、塩と食物繊維は別

<https://sndj-web.jp/news/002866.php> (2024/7/22)

主食・主菜・副菜がそろっている食事の摂取頻度が低い人は、摂取量が推定平均必要量未満である栄養素の数が有意に多いという関連を示したデータが報告された。ただし、生活習

慣病の予防のための目標量との関係は有意でないという。神戸学院大学栄養学部公衆栄養・衛生学部門の鳴海（百武）愛子氏らが行った研究の結果であり、「Nutrients」に論文が掲載された。主食・主菜・副菜がそろっている食事の摂取頻度の多寡にかかわらず、食塩の過剰摂取や食物繊維の過少摂取が蔓延している実態も明らかにされて-----

## 微量の汗を正確に連続測定可能、発汗量や速度を視覚化できるウェアラブルパッチを開発 筑波大学

<https://sndj-web.jp/news/002876.php> (2024/7/21)

筑波大学の研究グループは、活動時のみならず安静時の微量な発汗（体表面からの水の蒸散）も、正確に連続モニタリング可能な先進的ウェアラブルデバイスを開発したと発表した。運動や暑熱などに伴う脱水状態だけでなく、日常生活における心身の健康管理や疾患診断など幅広い分野への応用が期待されるという。論文が「Advanced Science」に掲載されるとともに、同大学のサイトにニュースリリースが掲載され-----

## ■ その他の食品関連科学・技術情報

今回は、特に見当たりませんでした。

## ■ その他の科学・技術情報

### パーフェクト、高画質画像で肌状態を解析する「肌解析 HD モード」を発表

IoTNews - 2024/7/12 <https://iotnews.jp/ai/251623/>

パーフェクト株式会社は、肌状態や肌年齢をチェックできるオンライン肌測定器「肌解析 HD モード」のリリースを発表した。

同ソリューションは、従来の2倍の解像度の高解像度画像でトレーニングされた新しいAIモデルを採用している。これにより、従来よりも高い精度で肌の分析をすることができ-----

### 生きた皮膚を持つロボットの顔を開発

MONOist - 2024/7/10 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2407/10/news023.html>

東京大学は2024年6月26日、培養皮膚組織を人工物へスムーズに固定するアンカリング手法を開発し、細胞由来の生きた皮膚を持つ顔型のロボットを作製したと発表した。

今回開発したアンカリング手法は、人間の皮膚支帯に着想を得ている。皮膚支帯は皮下組織に存在し、主にコラーゲンを主成分とする網目状の繊維構造だ。皮膚を所定の位置に固定して移動を制限する役割や、表情筋によるスムーズな表情の形成に関わって-----

## 1-ブタノールが植物の乾燥耐性を高めることを発見 –アルコールによるストレス耐性強化の分子機構の解明に期待–

理化学研究所 - 2024/7/18 [https://www.riken.jp/press/2024/20240718\\_2/index.html](https://www.riken.jp/press/2024/20240718_2/index.html)

理化学研究所（理研）環境資源科学研究センター 植物ゲノム発現研究チームの関 原明チームリーダー、ドゥ・ティ・ヌ・クイン 国際プログラム・アソシエイト、戸高 大輔 研究員らの共同研究グループは、アルコールの一種である 1-ブタノールを植物に投与することにより、植物の乾燥ストレス耐性が強化されることを発見しました。

本研究成果は、アルコールによって乾燥耐性が強化される作用機序を解明する上で重要な知見であるといえ-----

### ■ その他

今回は、特に見当たりませんでした。

以上

## 健康食品等に関する

### 記事情報（日本語サイトより）2024年8月号 No.1

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

## ○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

## ■ ピックアップ情報

スルーして頂きたい記事情報を、編者の見識・感性（多少の思い入れ）に基づきピックアップしたセクションとご理解下さい。

### 機能性表示食品等に係る健康被害の情報提供義務化等に関する説明会（食品関連事業者向け）の開催について

消費者庁 - 2024/7/23 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/038785/>

## ■ 安全性関連情報

「6月号 No.2」で別のサイトの記事をご紹介しましたが、あらためて。

### ミネラルの一種「テルル」の体内濃度が高いほど高血圧になりやすい可能性

スポーツ栄養 WEB - 2024/7/28 <https://sndj-web.jp/news/002879.php>

食品等に含まれるミネラルの1種である「テルル（Te）」の体内濃度が高い人ほど、高血圧になりやすい可能性のあることを示す研究結果が報告された。名古屋大学と藤田医科大学の研究グループによる研究であり、論文が「Environment International」に掲載されるとともに、大学のサイトにプレスリリースが掲載された。穀類/豆類の過剰摂取が、テルルの体内濃度を上昇させる可能性があるものの、穀類/豆類の摂取自体は高血圧リスクとの関連がないという。著者らは、「高血圧の予防のためには、個別の食品に含まれるテルル濃度をより慎重かつ継続的にモニタリングしていく必要がある」と述べて……

### オランダ国立公衆衛生環境研究所(RIVM)、ムクナ(mucuna pruriens)種子抽出物を含有するハーブ調合品のリスク評価に関する報告書を公表

食品安全委員会 食品安全総合情報システム 更新情報より

<https://www.fsc.go.jp/fscis/foodSafetyMaterial/show/syu06320960164>

#### 一部抜粋

“ムクナに含まれる物質の一つ(レボドパ(levodopa))は、パーキンソン病の治療に使用される医薬品の有効成分であることが知られている。これらのハーブ調合品から摂取するレボドパの量は、これらの医薬品を服用し始めたパーキンソン病患者の量と同程度かそれ以上であ

る。胃腸症状、不随意運動(ジスキネジア)、精神症状等のこれらの医薬品の副作用も、本ハーブ調合品の使用者に起こる可能性がある。”

## 食品安全情報（化学物質） No. 15/ 2024（2024. 07. 24）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202415c.pdf>

**全リスト**

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

【BfR】 ドイツ連邦リスク評価研究所

1. 動物由来食品に含まれる PFAS の最大基準値の遵守は、飼料がカギとなる

【RIVM】 オランダ国立公衆衛生環境研究所

1. フッ素系ガスを含む PFAS 排出のリスク-REACH 規制案の根拠のまとめ
2. RIVM：ムクナプルリエンスを含むサプリメントを使用する際は注意すること

【EPA】 米国環境保護庁

2. EPA はより多くの州、部族及び準州が魚類中の PFAS への暴露を削減できるよう科学的根拠に基づく新たな勧告を発表

## ■ 海外公的機関情報

### ジェットロ、米政府による食品トレーサビリティ規則に関するウェビナー開催（米国、日本）

日本貿易振興機構 - 2024/8/2

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2024/08/130834fcd14a1439.html>

以下は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2024/8/8 確認) の中から、気になったものを選定しました。

見出しのクリックで内容をご覧ください。

1. [英国毒性委員会\(COT\)、ビスフェノール A に関するポジションペーパーを公表（前半 1/2）](#)
2. [英国毒性委員会\(COT\)、ビスフェノール A に関するポジションペーパーを公表（後半 2/2）](#)
16. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、フードチェーンにおける新興の化合物リスクに関するスクリーニング結果を外部委託機関による科学的報告書として公表](#)

22. [世界保健機関\(WHO\)、食品中の特定の汚染物質の安全性を評価した WHO 食品添加物シリーズ 84 を公表](#)
  32. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのヒトと同一のミルクオリゴ糖類の EFSA による安全性評価に向けた準備作業に関する外部機関による科学的報告書を公表 \(前半 1/2\)](#)
  33. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのヒトと同一のミルクオリゴ糖類の EFSA による安全性評価に向けた準備作業に関する外部機関による科学的報告書を公表 \(後半 2/2\)](#)
  52. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、飼料は動物性食品中の PFAS の最大基準値を遵守するための鍵であるとの意見書を公表](#)
- 「■ 安全性関連情報」にも記載**
80. [オランダ国立公衆衛生環境研究所\(RIVM\)、ムクナ\(mucuna pruriens\)種子抽出物を含有するハーブ調合品のリスク評価に関する報告書を公表](#)
  81. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、シチコリンと記憶機能の支援:健康強調表示の評価に関する科学的意見書を公表](#)
  82. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、Joselito\(登録商標\)と LDL コレステロール濃度、血圧及び心血管系疾患リスクの低減:健康強調表示の評価に関する科学的意見書を公表](#)
  83. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、EFSA の科学的評価において用いる、疫学研究から得られたエビデンスの評価及び統合に関する科学委員会のガイダンスを科学的意見書として公表](#)
  89. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、臭素化植物油\(BVO\)の食品への使用を認可する規則を取り消すことを公表](#)
  90. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品中の低分子量の有機ヒ素化合物のリスク評価に関する平易な言葉による要約を公表 \(前半 1/2\)](#)
  91. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品中の低分子量の有機ヒ素化合物のリスク評価に関する科学的意見書を公表](#)
  92. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品中の低分子量の有機ヒ素化合物のリスク評価に関する平易な言葉による要約を公表 \(後半 2/2\)](#)
  95. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2024 年 7 月 1 日~7 月 12 日\)](#)

## ■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

## 16,000 件のインターネット広告を監視！153 事業者に対し、改善指導を行いました！ 令和 5 年度インターネット広告表示監視事業 実施報告

東京都生活文化スポーツ局 - 2024/7/18

<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2024/07/18/12.html>

### ■ 行政・法令関連情報（その他）

#### 「食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（案）」（添加物（二炭酸ジメチル及びメチルセルロース）に係る改正）に関する御意見の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/7/29

<https://public-comment.e>

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235110003&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235110003&Mode=0)

#### 「生鮮トマト中のリコペンの定量－吸光光度法の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/7/31

<https://public-comment.e>

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=550003757&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=550003757&Mode=1)

#### 「ほうれんそう中のルテインの定量－高速液体クロマトグラフ法の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/7/31

<https://public-comment.e>

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=550003756&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=550003756&Mode=1)

#### 景品表示法に基づく法的措置件数の推移及び措置事件の概要の公表(令和 6 年 6 月 30 日現在)

消費者庁 - 2024/7/31 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/024740/>

#### 健康増進法に規定する特別用途表示の許可等に関する内閣府令の一部を改正する内閣府令（案）等に関する意見募集について

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

### 富士経済、メンタル・脳機能ケア食品市場の調査、2030年国内市場はメンタル・脳機能ケア食品 5698 億円と予測

マイライフニュース - 2024/7/29 <https://www.mylifenews.net/health-medical/60427/>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、睡眠の質向上やストレス緩和、脳機能の活性化などをサポートするメンタル・脳機能ケア食品市場を調査した。その結果を「メンタルケア・ブレインヘルスフーズ市場最新調査」にまとめた。2030年国内市場予測（2023年比）では、メンタル・脳機能ケア食品が、睡眠の質向上やストレス緩和を目的とした商品の需要が伸長し 5698 億円（61.1%増）を-----

### カゴメやキューピーらがロボットによる食品工場自動化へコンソーシアム結成

MONOist - 2024/7/30 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2407/30/news060.html>

カゴメは 2024 年 7 月 4 日、同社を含む国内の食品メーカーと調理、業務用ロボット開発会社の 6 社で、「未来型食品工場コンソーシアム」を結成したと発表した。同社のほか、キューピー、永谷園、ニチレイフーズ、日清製粉グループ本社、TechMagic が共同で食品工場の非競争領域における共通課題の解決を目指-----

## ■ 消費者意識等の調査・分析

## **独自調査「2024 年下半期の消費トレンド予測」発表、時間帯で変わる消費行動に注目、前年比で夜に甘いものを食べる消費者は2割増、求めるのは「チョコレート・ココア味」が6割**

ミヨシ油脂株式会社 - 2024/7/31

<https://www.miyoshi-yushi.co.jp/news/2024073110001459/>

ミヨシ油脂は、独自調査などを活用し、「消費者意識からひも解く 2024 下半期トレンド予測」を発表しました。2024 年下半期のトレンドキーワードは時間帯で変わる消費行動「タイムゾーン消費」。その解説を、新事業・商品開発に役立つ情報を発信する Web サイト「ミヨシ未来プラットフォーム」で 2024 年 7 月 19 日から公開、専用フォームから資料のダウンロードもできます。

詳細な解説 URL : <https://bit.ly/3LvvgMI>

資料ダウンロード URL : <https://bit.ly/3SdUDy1>

-----

## **【雪印メグミルク「骨の健康」への意識調査を実施】**

### **気を配れていない身体の部位の第1位は「骨」 ～専門家が解説！骨は3年で生まれ変わる（骨代謝）、「しわ・たるみ」の原因にも～**

雪印メグミルク株式会社 - 2024/7/30 <https://www.meg-snow.com/news/2024/23028/>

骨の健康を通じて人々の挑戦を応援する『骨太な未来プロジェクト』の取り組みを行っている雪印メグミルク株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：佐藤 雅俊）は、2024 年 6 月に 20 代から 80 代までの男女 1,000 人を対象に「骨の健康」についての調査を行いました。その結果、多くの人々が骨の健康に対する意識が低く、骨の正しい知識や健康の維持方法について知っている人が少ないことがわかり-----

## **デロイトトーマツグループ、2024 年度国内消費者意識・購買行動調査、外食や旅行などの外向き消費に対する支出が増加**

マイライフニュース - 2024/7/31 <https://www.mylifenews.net/study-work/60538/>

デロイト トーマツ グループ（以下、デロイト トーマツ）は、消費者の価値観・マインド、購買行動の決定要因などを調査した 2024 年度「国内消費者意識・購買行動調査」を公開した。その結果、消費行動において約 3 割が「コスパ」「節約と贅沢のメリハリ」意識が増加したと回答した。また、外食（15.1%）や旅行（14.5%）などの外向き消費に対する支出が増加。「サステナビリティに取り組む企業を応援したい」と 63.6%の人が回答する一方で、実際にその企業の商品やサービス購入に至る人は 14.6%だっ-----

## ■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

### 運動による細胞老化抑制、筋組織から産出の重要分子をマウスで発見— 都長寿研ほか

QlifePro 医療ニュース - 2024/7/24 <https://www.qlifepro.com/news/20240724/pedf.html>

▼関連リンク・東京都健康長寿医療センター研究所

<https://www.tmg Hig.jp/research/release/2024/0718.html>

#### 運動療法が慢性疾患病態を軽減、その生化学的メカニズムは？

東京都健康長寿医療センター研究所は7月18日、動物モデルを用いた研究から、運動によって筋組織から産出される PEDF (Pigment epithelium-derived factor ; 色素上皮由来因子) と呼ばれる因子が末梢組織の細胞老化を抑制する働きを持つことが明らかになったと発表した。この研究は、同研究所老化細胞研究の津島博道氏 (日本学術振興会特別研究員)、杉本昌隆研究副部長らの研究グループによるもの。研究成果は、「Aging」に掲載されて...

### 徹夜後に長く深く眠る「リバウンド睡眠」が起こるメカニズムを解明— JST ほか

QLifePro 医療ニュース - 2024/7/26

<https://www.qlifepro.com/news/20240726/parvalbumin.html>

▼関連リンク・科学技術振興機構 (JST) プレスリリース

<https://www.jst.go.jp/pr/announce/20240722/index.html>

#### PV 発現神経は「睡眠恒常性の制御」に寄与するのか？

科学技術振興機構 (JST) は7月22日、長時間の覚醒後に生じる長く深い睡眠 (リバウンド睡眠) に大脳皮質の主要な抑制性神経であるパルブアルブミン (PV) 発現神経の活動の適切な調節が重要であることを解明したと発表した。この研究は、JST 戦略的創造研究推進事業において、東京大学 大学院医学系研究科 機能生物学専攻 システムズ薬理学分野の上田泰己教授 (理化学研究所 生命機能科学研究センター 合成生物学研究チーム チームリーダー兼任)、昆一弘研究員 (研究当時、現 Johns Hopkins University 博士研究員) らの研究グループによるもの。研究成果は、「nature communications」オンライン版に掲載されて.....

### タウリン摂取量が多いほど膝伸展筋力が増加、中高年対象の研究で—長 寿研ほか

QLifePro 医療ニュース - 2024/7/30

<https://www.qlifepro.com/news/20240730/taurine-intake-physical-fitness.html>

▼関連リンク・国立長寿医療研究センター 研究実績

<https://www.ncgg.go.jp/ri/report/20240725.html>

### 食事由来のタウリンと体力に関する報告はほとんどなかった

国立長寿医療研究センターは7月25日、食事からのタウリン摂取量が多いと、8年後の脚の筋力（膝伸展筋力）が維持される傾向にあることを見出したと発表した。この研究は、同センター老化疫学研究部の大塚礼部長らの研究グループ、大正製薬株式会社、北翔大学との共同研究によるもの。研究成果は、「Frontiers in Nutrition」に掲載されて……

## 老化による腎臓病、メカニズムや新規治療法などをまとめた総説発表ー 阪大

QLifePro 医療ニュース - 2024/8/2

<https://www qlifepro.com/news/20240802/ckd-aging.html>

▼関連リンク・大阪大学 ResOU

[https://resou.osaka-u.ac.jp/ja/research/2024/20240730\\_3](https://resou.osaka-u.ac.jp/ja/research/2024/20240730_3)

### 高齢化を背景に増加するCKD、加齢による腎機能低下の正確なメカニズムは未解明

大阪大学は7月30日、加齢に伴う腎臓病の病的メカニズムと、その早期診断や治療法に関する最新の研究報告をまとめ、将来の臨床応用を見据えた視点から解説した総説を発表したと報告した。この研究は、同大大学院医学系研究科の山本毅士特任助教（常勤）、猪阪善隆教授（腎臓内科学）らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nature Reviews Nephrology」にオンライン掲載されて……

## 「おいしさの誘惑」を乗り越えるには前頭前野の活動が重要な可能性ー 群馬大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2024/8/6

<https://www qlifepro.com/news/20240806/healthy-dietary-choices.html>

▼関連リンク・群馬大学 新着情報 <https://www.gunma-u.ac.jp/information/183960>

### 健康を重視する食品選択を行う際、ヒトの脳はどう機能しているか

群馬大学は7月30日、「おいしいけど健康によくない食べ物」に対して「健康にいいけどおいしくない食べ物」を選ぶとき、ヒトの前頭前野が活動し、その活動は長期的な利益を最大にする自制心の強いヒトほど大きくなることを発見したと発表した。この研究は、同大情報学部の竹鼻愛研究員（研究当時）と地村弘二教授、生理学研究所の定藤規弘教授（兼任）、株式会社アラヤの近添淳一チームリーダー、同志社大学大学院脳科学研究科の松井鉄平教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Cerebral Cortex」に掲載されて……

## 高齢者低タンパク質栄養発見に血中アルブミン酸化還元バランスが寄与 —都長寿研ほか

QLifePro 医療ニュース - 2024/8/6

<https://www qlifepro.com/news/20240806/albumin.html>

▼関連リンク・東京都健康長寿医療センター研究所

<https://www.tmg Hig.jp/research/release/2024/0719.html>

### 高齢者 1,011 人のタンパク質摂取量と血中アルブミン酸化還元バランスとの関連を検討

東京都健康長寿医療センター研究所は 7 月 19 日、血中アルブミン酸化還元バランスが、高齢者の低タンパク質栄養状態の指標となる可能性を明らかにしたと発表した。この研究は、同研究所 自立促進と精神保健研究チームの本川佳子研究員らの研究グループと、森永乳業株式会社との共同研究によるもの。研究成果は、「Clinical Nutrition ESPEN」に掲載されて……

## 【名城大学】海苔のもつ抗酸化作用～季節変動と加工工程による増強を 発見～

大学プレスセンター - 2024/7/26 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-53996.html>

名城大学 大学院総合学術研究科の景山伯春教授（分子生物学）のグループは、海苔として現在最も広く食用されているスサビノリが示す抗酸化作用が収穫時期によって変動し、加工処理によって増強されることを発見しました。アンチエイジングに寄与する抗酸化作用の増強を活かして、付加価値をプラスした新たな食材開発や調理方法への貢献が期待されます。本研究成果は、2024 年 7 月 25 日（日本時間）にアメリカの生化学・分子生物学の国際誌「AIMS Molecular Science」に掲載され……

## エイコサペンタエン酸が心筋細胞の機能を正常化させる仕組みを発見 食事による不整脈の予防法開発に期待

大学プレスセンター - 2024/8/6 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-54093.html>

近畿大学農学部（奈良県奈良市）食品栄養学科准教授 森島真幸、近畿大学大学院農学研究科（奈良県奈良市）博士後期課程 1 年 堀井鴻佑、大分大学（大分県大分市）名誉教授 小野克重（大分下郡病院 副院長）、徳島大学先端研究推進センター（徳島県徳島市）教授 堀川一樹らの研究グループは、魚油に豊富に含まれる多価不飽和脂肪酸であるエイコサペンタエン酸（EPA）が、心筋細胞の機能を正常化させることを発見しました。また、EPA には、高脂肪食などに含まれる飽和脂肪酸によって心筋細胞に生じた酸化ストレスを除去する作用があることも明らかにしました。本研究成果により、食事によって不整脈を予防する手法の確立に繋がると期待されます。

本件に関する論文が、令和6年（2024年）7月10日（水）に、欧米の基礎医学研究の学術雑誌である"International Journal of Molecular Sciences（インターナショナル ジャーナル オブ モレキュラー サイエンス）"に掲載され-----

## マルチタスクで頭がパンクしそうな時の脳活動ネットワーク 明治大学と北海道大学が発見

大学ジャーナルオンライン - 2024/7/24 <https://univ-journal.jp/247082/>

明治大学と北海道大学大学院の共同研究グループは、日常生活でのマルチタスク状態や臨床での認知機能トレーニングで生じる「二つのことを同時に行おうとしてうまくいかなくなる状態」（二重課題干渉：DTi）に着目し、認知機能の維持・向上のエビデンス構築につながる神経メカニズムを明らかに-----

## 精油の嗅覚刺激で、男性ホルモン「テストステロン」の分泌量が増加。長崎大学大学院との共同研究（1/2）

NELOS - 2024/7/24 <https://melos.media/news/205896/>

### 精油の香りでテストステロン濃度の有意な増加が見られた

公益社団法人 日本アロマ環境協会（略称：AEAJ）と、長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 神経機能学の篠原一之教授が共同研究を行い、精油の吸入がテストステロン（男性ホルモン）に与える影響を確認しま-----

## 早大など、進化の過程で失われた可能性がある幻のタンパク質構造を発見

マイナビニュース - 2024/7/23

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240723-2991259/>

## 産総研、神経細胞の活動を非侵襲的で迅速かつ正確に評価するシステムを開発

マイナビニュース - 2024/7/30

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240730-2995792/>

## 大阪公大、食品中のヌクレオシドががん細胞の増殖抑制効果を有することを解明

マイナビニュース - 2024/7/30

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240730-2995764/>

## 東北大、野菜に含まれる硝酸塩がむし歯の抑制に寄与する可能性を発見

マイナビニュース - 2024/8/3 <https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240802-2997719/>

以下の7件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2024年7月24日～8月7日）から選定したものです。

## 機械学習で食品の機能性が予測可能に 876食品の新たな機能性とそのメカニズムの推定に成功

<https://sndj-web.jp/news/002878.php> (2024/7/27)

名古屋大学と九州工業大学は、ハウス食品グループ本社との共同研究により、生命医薬ビッグデータを用いて、食品の機能性を網羅的に予測する新しい機械学習手法を開発したと発表した。約5万種類の食品成分化合物と約4,800種類のヒトタンパク質の間の相互作用を探索し、疾患に関与するタンパク質群の制御を考慮するのが特徴で、この手法を用いて876種類の食品が有する新しい機能性や、その作用メカニズムの推定に成功したという。論文が米国化学会のジャーナル「Journal of Chemical Information and Modeling」に掲載されるとともに、プレスリリースが発表された。研究グループでは、本研究の提案手法は、疾病予防に対する食品の効率的な活用を促し、健康寿命の延伸へとつながることが期待されると……

## 唾液緩衝能が高いと「うま味」を強く感じる？ 唾液と5基本味の関連についての研究 岡山大学

<https://sndj-web.jp/news/002880.php> (2024/7/29)

健康な日本人学生の唾液の緩衝能と味覚の感受性との関連を調べた結果、緩衝能と関連すると考えられる酸味の感受性は唾液緩衝能と明確な関連がなく、うま味感受性のみが唾液緩衝能と関連することが明らかになった。岡山大学の研究グループの研究によるもので、論文が「Achieves of Oral Biology」に掲載されるとともに、同大学のサイトにプレスリリースが掲載された。うま味は食べ物のおいしさに関係する味覚であり、しっかりと唾液が出ると唾液緩衝能も高まることから、唾液分泌を促すことで食べ物をよりおいしく感じるができるかもしれない……

## 高齢になるほど身体活動不足による心血管疾患リスクが高くなる 日本人 110 万人の追跡研究

<https://sndj-web.jp/news/002881.php> (2024/7/30)

高齢になるほど、身体活動不足に伴う心血管疾患リスクへの関与が強まることを示唆する、日本人対象研究のデータが報告された。東京大学医学部附属病院循環器内科の金子英弘氏、上野兼輔氏らが、100 万人以上の医療データを追跡して明らかにしたもので、「Canadian Journal of Cardiology」に論文が掲載され-----

## 野菜摂取量を表す皮膚カロテノイドレベルが高いほどメタボ有病率が低い 久山町研究

<https://sndj-web.jp/news/002882.php> (2024/7/31)

皮膚のカロテノイドレベルが高いほど、メタボリックシンドローム (MetS) の有病率が低いという負の関連のあることが、久山町研究から報告された。九州大学大学院医学研究院衛生・公衆衛生学分野の二宮利治氏らの研究の結果であり、「International Journal of Obesity」に論文が掲載された。BMI で調整後にもメタボ構成因子との関連が有意であることから、皮膚のカロテノイドは健康的な食行動のマーカーという側面を有する可能性がある-----

## スケソウダラタンパク質は筋肉の神経活性を高める 対ホエイプロテインの RCT で有意差

<https://sndj-web.jp/news/002885.php> (2024/8/2)

スケソウダラのタンパク質 (Alaska pollack protein ; APP) が筋肉の神経活性を高めるという点で、ホエイプロテインより優れていることを示唆するデータが報告された。中京大学スポーツ科学部の廣野哲也氏らが行った、若年成人対象の無作為化二重盲検試験の結果であり、本研究に関する論文は、「Journal of Nutritional Science and Vitaminology」に掲載され-----

## ポリフェノールが持久力を高める可能性 スポーツパフォーマンスへの影響を検討した系統的レビュー

<https://sndj-web.jp/news/002890.php> (2024/8/3)

ポリフェノール摂取により、有酸素性持久力が向上するのではないかとする、システマティックレビューの結果が報告された。ポリフェノールについては、運動誘発性筋損傷

(EIMD) の抑制という視点での研究が豊富だが、それにとどまらず、パフォーマンス上のメリットも期待できる可能性を示唆する-----

## プロバイオティクスでランナーのパフォーマンスや消化器症状などが改善

<https://sndj-web.jp/news/002891.php> (2024/8/5)

プロバイオティクスの摂取により腸内細菌叢の組成が改善し、マラソンのパフォーマンス向上や消化器症状の抑制といった変化が生じるとする、二重盲検試験の結果が報告され----

## ■ その他の食品関連科学・技術情報

### 自然からの着想で安定糖化合物の合成を促進 シンガポール

サイエンスポータルアジアパシフィック - 2024/7/23

[https://spap.ist.go.jp/asean/news/240704/topic\\_na\\_03.html](https://spap.ist.go.jp/asean/news/240704/topic_na_03.html)

## ■ その他の科学・技術情報

### ロート製薬、AI を活用したサイバーフィジカルシステム (CPS) により工場のスマート化へ

日刊工業新聞 - 2024/7/29 <https://www.nikkan.co.jp/articles/view/00719641>

*(情報源の意向により、記事見出しの直接表示不可のため、上記の見出しは元記事の見出しとは異なります)*

以上

## 健康食品等に関する

### 記事情報 (日本語サイトより) 2024 年 8 月号 No.2

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、(公財) 日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

(例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等)

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

## ○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

## ■ ピックアップ情報

スルーして頂きたい記事情報を、編者の見識・感性（多少の思い入れ）に基づきピックアップしたセクションとご理解下さい。

### 明治栄養プロファイリングシステム（Meiji NPS）による食事指数が生活習慣病のリスクとなる複数の指標と関連することを示唆～疫学研究で日本初の検討、国際学術誌“Frontiers in Nutrition”に論文掲載～

株式会社明治 - 2024/8/8

[https://www.meiji.co.jp/corporate/pressrelease/2024/0808\\_02/index.html](https://www.meiji.co.jp/corporate/pressrelease/2024/0808_02/index.html)

株式会社 明治（代表取締役社長：松田 克也）は、国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター（理事長：荒井 秀典）との共同研究により、明治栄養プロファイリングシステム（以下、Meiji NPS）のうち、成人向けに策定された Meiji NPS（以下、成人 NPS）による食事指数と生活習慣病のリスクとなる複数の指標との関連を明らかにしました。当研究結果は 2024 年 7 月 3 日に国際学術誌“Frontiers in Nutrition”に掲載されました（Yu, et al. Front. Nutr., 2024, doi: 10.3389/fnut.2024.1413980）。

本成果は日本で初めて、栄養プロファイリングシステム（以下、NPS）と健康リスクとの関連性を報告した研究です。

今後も Meiji NPS に関する研究活動により、食品を通じて健康課題と向き合い、人々が健やかな毎日を過ごせる社会の実現に貢献してまいり……

## ■ 安全性関連情報

食品安全情報（化学物質）No. 16/ 2024（2024. 08. 07）

## 全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

今回気になった情報は以下の通りです。

### 【FAO】

1. 会議報告書：食品安全性化学物質リスク評価における腸内マイクロバイオーームに関する FAO 技術会議

### 【EFSA】

1. 食品に含まれるテトラブロモビスフェノール A (TBBPA) とその誘導体に関する科学的意見の更新
2. 飼料に含まれる汚染物質のリスク評価における動物の食餌暴露
3. フードチェーンにおける新興化学物質リスクのスクリーニング(SCREENER)
6. 食品や飼料の成分へのリードアクロス法の適用
7. システムティックレビューの自動化を支援するデータ基準の開発戦略
8. 公衆衛生とリスク評価を背景としたバイアスのリスクに焦点を当てたヒトの観察的疫学研究の根拠の迅速な評価のためのツールの開発

### 【BfR】

1. マイクロプラスチック粒子は脳卒中のリスクを高める？ BfR は血管の沈着物（プラーク）に含まれるマイクロ及びナノプラスチックに関する研究を評価した

### 【FDA】

1. 食品中のマイクロプラスチック及びナノプラスチック

## ■ 海外公的機関情報

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

## 令和6年度第2回日本版包装前面栄養表示に関する検討会の開催について

消費者庁 - 2024/8/15 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/038897/>

## 「第112回コーデックス連絡協議会」の開催及び一般傍聴について

消費者庁 - 2024/8/9 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/038969/>

## 「トマト加工品の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/8/16

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003713&Mode=1>

## 「パン粉の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/8/15

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003715&Mode=1>

## 「ジャム類の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/8/19

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003712&Mode=1>

## 「醸造酢の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/8/19

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003718&Mode=1>

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は、特に見当たりませんでした。

## ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報

### 糖質に代わるエネルギーとして話題の健康素材 大阪ガスが手掛ける天然ケトン体原料「OKETOA®」とは

健康メディア.com - 2024/8/8 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19416](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19416)

2010年代より米国で流行したケトジェニックダイエットを契機に、現在世界的にケトン体への関心が高まっている。なかでもケトン体の一種「β-ヒドロキシ酪酸（BHB）」は食品として利用できることから、先行して市場が形成される米国ではサプリメントや粉末飲料、グミなどへの配合が進み、1,000t以上が流通しているという。BHBの最大の特長が、体内の糖質に代わりエネルギー源になること。これにより糖質制限を行わずとも、血中のケトン体が増加するケトosis状態に切り替わり、内臓脂肪や体重の減少が期待できる。ここに目を付け、国内でケトン体市場の創出を図っているのが大阪ガス(株)を含む Daigas グループ（大阪市中央区、bhb-info@ml.ogc.co.jp）だ。同社が持つ発酵技術を応用した新規研究開発の過程で天然のケトン体を製造することに成功。量産化できる体制を整え、本格的に原料販売に乗り出す。BHBに関する研究ではミトコンドリアの活性作用など新たな知見も出てきており、新時代の食品成分として大きな注目が集まって……

### 【フェムケア・フェムテック】サプリ・食品が続々、チャンネルも拡大

健康メディア.com - 2024/8/7 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19380](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19380)

「フェムテック」は、女性特有の健康課題をテクノロジーで解決しようとする製品・サービス、「フェムケア」は、サプリメント、化粧品、吸水ショーツ含むサニタリー製品はじめ、月経カップなどテクノロジーに依存しない製品を指す。女性の社会進出に伴い注目を集め、2021年以降、急成長を続けるフェムケア・フェムテック市場。原料サプライヤーによる機能性データの蓄積が進む中、食品CROもフェムケアのエビデンス取得に向けた試験デザインを拡充している。最終製品が増えると共に、消費者認知も向上。ECを中心とした販売から、量販店、ドラッグストアへと拡大している。さらに最近では、男性特有の健康課題を解決する「メンテック」というワードも登場、相乗効果による市場拡大にも期待……

### 【オーラルヘルス】口腔領域のサプリメント開発が活発化

健康メディア.com - 2024/8/7 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19378](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19378)

食事による栄養補給はもちろん、ウイルス・細菌の侵入阻止、会話等の社会的コミュニケーションなど、口腔機能の果たす役割は大きいですが、最近では国民の3人に2人が歯周病とされる。加齢に伴い歯周病やドライマウス罹患者は増加する傾向にあり、口腔の虚弱性「オーラルフレイル」対策は喫緊の課題だ。さらに近年の研究では、う蝕（虫歯）と歯周病の口腔2大疾患が、糖尿病や心疾患、がん、アルツハイマー病などのトリガーになるとの研究も報告されている。政府も健康寿命の延伸を実現する施策の1つとして2025年から「国民皆歯科健診制度」の導入を予定する。フレイル対策、生活習慣病予防、健康寿命延伸の観点からもオーラルヘルスケアの重要性が高まりつつ……

## 【医家向けサプリメント】免疫調整から栄養療法まで活用増

健康メディア.com - 2024/8/7 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19376](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19376)

かつてがんの免疫療法などで使われていた医家向けサプリメントは、栄養療法やエイジングケア分野まで拡大。キノコやフコイダン、玄米由来原料などを活用したサプリメントの需要は安定しており、栄養療法などを行うクリニックでは、ビタミン・ミネラル他、NMNなど新規成分を扱うクリニックも増えている。厚労省の「医療機関におけるサプリメント等の食品の販売を明確化する事務連絡」から10年が経過し、この間、各メーカーは医師に向けて、学会でのブース出展やセミナー開催、サポート体制の充実などを行い、医家向けサプリメントの利用がますます拡大している。紅麴問題の影響は限定的で市場は拡大傾向に……

## 【胃腸サポート】「胃の不調」、2人に1人に

健康メディア.com - 2024/8/7 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19374](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19374)

胃腸トラブルに悩む人は多い。暴飲暴食、疲労、睡眠不足をはじめとした生活習慣の乱れに加え、日常生活における様々なストレスが原因とされる。新型コロナに対する不安は解消されつつある一方、物価上昇による生活への不安などが増す中、胃の不調を感じている男女が5割を超えといった民間調査も。薬に依存しない日常的にケアできるサプリメントや健康食品の利用が広がっている。“胃の健康”分野では、健胃作用、胃粘膜の保護作用、抗ピロリ菌作用などを有する機能性素材が流通。機能性表示食品では、ヤクルト本社、明治が乳酸菌を機能性関与成分に「胃の負担を和らげる」飲料やヨーグルトを展開する。腸に関しては、腸内フローラのバランスを整えることの重要性が浸透。脳腸相関研究が進み、「第二の脳」としても注目されている。乳酸菌をはじめとした定番素材以外にも、各社によるエビデンスデータを兼ね備えた原料提案が活発……

## ■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

## 日本 IBM、キリンビールの製品にブロックチェーンを導入しサプライチェーンの可視化を実現

IoTNEWS - 2024/8/5 <https://iotnews.jp/manufacturing/252876/>

日本アイ・ビー・エム株式会社（以下、日本 IBM）は、キリンビール株式会社（以下、キリン）の製品製造において、原料の流通から製造過程の情報を見える化するため、IBM のブロックチェーン・ソリューションである「IBM Supply Chain Intelligence Suite」を活用し、トレーサビリティ・プラットフォームの導入を支援……

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### 令和 5 年度食品表示に関する消費者意向調査報告書

消費者庁 - 2024/8/13

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/food\\_labeling/information/research/2023/assets/food\\_labeling\\_cms201\\_240813\\_01.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/information/research/2023/assets/food_labeling_cms201_240813_01.pdf)

※本報告書は、消費者庁の委託を受け、株式会社ロイヤリティマーケティングが調査を行い、取りまとめたものです。

### 18～34 歳の若年層に聞く

#### 「若者の心と体の健康に関する実態調査」実施

#### 若年層の半数が「健康・体調」に悩みあり

— 不調により仕事のパフォーマンスが 3 割低下しているという実態も —

サントリー食品インターナショナル株式会社 - 2024/8/19

<https://www.suntory.co.jp/softdrink/news/pr/article/SBF1506.html>

### 豆乳に関する調査、直近 1 年間に豆乳の飲料や食品を摂取した人は 5 割強

マイライフニュース - 2024/8/19 <https://www.mylifenews.net/column02/62558/>

マイボイスコムは、6 回目となる「豆乳」に関するインターネット調査を 7 月 1 日～7 日に実施した。豆乳の摂取状況や期待する効果などについて聞いている（調査対象：MyVoice のアンケートモニター、調査方法：インターネット調査、調査時期：7 月 1 日～7 月 7 日、回答者数：9314 名）。

……

## [31201] 炭酸飲料に関するアンケート調査（第13回）

マイボイスコム - 2024年8月

[https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product\\_id=31201](https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=31201)

## ■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

### 座りながらフレイル予防、運動神経活動を活性化させるシート開発—金沢大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2024/8/19

<https://www qlifepro.com/news/20240820/local-vibration-muscle.html>

▼関連リンク・金沢大学 プレスリリース

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2024/08/20240809-1.pdf>

#### 健康寿命延伸に重要なフレイル予防、負担少なく持続しやすい方法の開発が必要

金沢大学は8月9日、脳からの指令を筋肉へ伝える神経である運動神経を、座った状態で活性化させるシートの開発に成功したと発表した。この研究は、同大学理工研究域フロンティア工学系の西川裕一助教、小松崎俊彦教授、茅原崇徳准教授、融合研究域融合科学系の田中志信特任教授、設計製造技術研究所の坂本二郎教授、トヨタ紡織の川野健二主査、永安秀隆主担当員、森香子係員、中京大学の渡邊航平教授、広島大学の前田慶明准教授、University of Maribor のAleš Holobar 教授、Marquette University のAllison Hyngstrom 教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「European Journal of Applied Physiology」にオンライン掲載されて----

### 「退屈」や主観性を含む包括的なストレス評価指標 筑波大学が開発

大学ジャーナルオンライン - 2024/8/16 <https://univ-journal.jp/247729/>

筑波大学の研究グループは、統合情報理論を用いて生体信号を包括的に定量化することでストレスを評価する新たな手法を開発し、このストレス値が「退屈」の感情と相関することを発見-----

### 短鎖脂肪酸を多く生み出すビフィズス菌 Bifidobacterium animalis subsp. lactis GCL2505 とイヌリンによる「基礎代謝量」の向上効果を確認 ~ 国際科学雑誌「Nutrients」に掲載されました ~

江崎グリコ株式会社 - 2024/8/1

<https://www.glico.com/jp/newscenter/pressrelease/46486/>

江崎グリコ株式会社は、短鎖脂肪酸を多く生み出す当社独自のビフィズス菌 *Bifidobacterium animalis* subsp. *lactis* GCL2505（以下、GCL2505 株）と水溶性食物繊維 イヌリンによる、基礎代謝量と相関する安静時エネルギー消費量の向上効果を確認しました。本研究成果は 2024 年 7 月 20 日（土）に国際科学雑誌「Nutrients」に掲載されました。当社は「タンサ脂肪酸プロジェクト」として短鎖脂肪酸の研究と啓発活動を積極的に進めており、今後も GCL2505 株と短鎖脂肪酸の可能性を探ってまいります……

## 広島大、甘味カフェイン飲水が体内時計を大きく狂わせることを確認

マイナビニュース - 2024/8/21

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240821-3009410/>

*以下の 3 件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2024 年 8 月 8 日～21 日）から選定したものです。*

## カフェインガムでバスケのシュート精度が向上する可能性 対プラセボ二重盲検交差試験

<https://sndj-web.jp/news/002914.php> （2024/8/8）

カフェイン入りチューインガムを噛むことで、バスケットボールのシュート精度を含む、複数のパフォーマンス指標が有意に改善するとする研究結果が報告された。カフェイン入り飲料を飲んだ場合よりも効果発現が速く、消化器症状を抑制できるというメリットを期待できるという。台湾の研究者によるプラセボ対照二重盲検クロスオーバー試験の……

## どのタイプの断続的断食が最も効果的か？ 2 種の時間制限食と隔日断食を直接比較した RCT

<https://sndj-web.jp/news/002918.php> （2024/8/11）

2 種類の時間制限食と隔日断食という 3 タイプの断続的断食の効果を、無作為化比較試験で直接的に比較した研究結果が報告された。BMI が最も低下したのは隔日断食だが、遵守率は最も低かったと……

*前号（8 月号 No.1）で、別の情報サイトの記事を紹介済みですが、あらためて。*

## 食べ物を選択する際の脳の働き 健康的な食生活を継続するには前頭前野が重要か？ 同志社大学

<https://sndj-web.jp/news/002923.php> (2024/8/17)

人が「おいしいけれども健康によくない食べ物」に対して、「健康によいけれどもおいしいけれども健康によくない食べ物」を選ぶときに、前頭前野が活動し、その活動は長期的な利益を最大にする自制心の強い人ほど大きくなることが報告された。群馬大学、同志社大学、自然科学研究機構生理学研究所、株式会社アラヤの共同研究の結果であり、「Cerebral Cortex」に論文が掲載されるとともにプレスリリースが発表された。研究者らは、「この知見は、人が健康を優先して食品の選択をする際、前頭前野の自製の機構が重要な役割を果たしていることを示唆している」と述べて……

## ■ その他の食品関連科学・技術情報

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ その他の科学・技術情報

### カブクのイノベーションで変革起こす、ロボットの手に目を与える視触覚センサー

MONOist - 2024/8/5 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2408/02/news003.html>

「ロボット×DX」をテーマに、さまざまな領域でのロボットを活用したDXの取り組みを紹介する本連載。第8回は、視触覚センサーを用いた独自のエンドエフェクターを開発する Finger Vision を取り上げ……

## ■ その他

英文情報サイト *Foodnavigator-asia* に、8月12日付けで英文記事の和訳版が掲載されましたのでご紹介いたします。タイトルのクリックで記事本文が閲覧できます。

[サステナビリティ 抜粋： Mondelez のケージフリーエッグ戦略、Nescafe China のアップサイクル カスカラドリンク、植物由来セクターの将来など](#)

[チャイナフォーカス：PepsiCo、Nescafe、植物性乳製品の需要など](#)

[ASEAN フォーカス：Carlsberg Malaysia、Carabao Thailand、ベトナム飲料税など](#)

## トレンド トラッカー：Coca-Cola India の持続可能なマンゴー、Oatly の植物性ミルクの成長、PepsiCo の積極的な水分補給など

以上

### 健康食品等に関する

#### 記事情報（日本語サイトより）2024年9月号 No.1

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

### ○ 記事一覧

**基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。**

### ■ ピックアップ情報

**スルーして頂きたい記事情報を、編者の見識・感性（多少の思い入れ）に基づきピックアップしたセクションとご理解下さい。**

**機能性表示食品のうち天然抽出物等を原材料とする錠剤、カプセル剤等食品の製造又は加工の基準(案)に関する意見募集の結果の公示について**

消費者庁 - 2024/8/30 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/039174/>

**食品表示基準の一部改正及び食品表示基準別表第26の5の項の規定に基づき内閣総理大臣が定める届出の方法を定める告示の制定について**

消費者庁 - 2024/8/23

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/food\\_labeling/food\\_labeling\\_act/#display\\_guideline](https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/food_labeling_act/#display_guideline)

## 食品表示基準

令和6年8月23日付けの食品表示基準の一部改正については、紅麹関連製品に係る事案を受け、制度の信頼性を高めることを趣旨としていることを踏まえ、速やかに改正後の規定に基づく対応をお願いします。

## 厚生労働省主体で推進する

### 「健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ」

### 令和6年度参画事業者第2回募集を開始

株式会社NTTデータ経営研究所 - 2024/9/2

<https://www.nttdata-strategy.com/newsrelease/news/240902/>

株式会社NTTデータ経営研究所（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：山口 重樹、以下 当社）は、厚生労働省が2022年3月に設立した、産学官等連携の組織体「健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ（以下：本イニシアチブ）」への参画事業者の募集を開始します。

本イニシアチブは日本の重要な栄養課題である ①食塩の過剰摂取、②若年女性のやせ、③経済格差に伴う栄養格差の改善に向け、環境面にも配慮しながら、より良い食環境を産学官等の連携を通じて築くことを目的として-----

## ■ 安全性関連情報

### 食品安全情報（化学物質）No. 17/ 2024（2024. 08. 21）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202417c.pdf>

#### 全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった見出しは以下の2件です。

【EFSA】

1. ビタミンEの耐容上限摂取量に関する科学的意見

【COT】

1. 植物性飲料の健康上のベネフィットとリスクの評価（報告書案）

## ■ 海外公的機関情報

今回、特に見当たりませんでした。

## ■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

### インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示に対する改善指導について(令和6年4月~6月)

消費者庁 - 2024/8/29

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/extravagant\\_advertisement/assets/representation\\_cms213\\_240829\\_01.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/extravagant_advertisement/assets/representation_cms213_240829_01.pdf)

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

### **機能性表示食品関連**

### 食品表示基準の一部改正案に関する意見募集の結果の公示について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/8/23

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=235080074&Mode=1>

### 「特定保健用食品の表示許可等について」の一部改正（案）に関する意見募集の結果の公示について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/8/23

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=235080076&Mode=1>

### 「農産物缶詰及び農産物瓶詰の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/8/30

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003553&Mode=1>

## 「畜産物缶詰及び畜産物瓶詰の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/8/30

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003554&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003554&Mode=1)

## 「水産物缶詰及び水産物瓶詰の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/8/30

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003555&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003555&Mode=1)

## 「ドレッシングの日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/8/30

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003714&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003714&Mode=1)

## 栄養士法施行規則等の一部を改正する省令案に関する御意見の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/8/30

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMSTDETAIL&id=495240153&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMSTDETAIL&id=495240153&Mode=0)

## 加工食品のカーボンフットプリント（CFP）の算定ガイド案と実証結果について

農林水産省 - 2024/8/23 [https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/b\\_kankyo/240823.html](https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/b_kankyo/240823.html)

気候変動による食料生産の不安定化といったリスクがある中、食品産業は生産と消費をつなぐ大きな役割を果たすプレイヤーとして、サプライチェーン全体での環境負荷低減に対応していくことが求められています。加工食品業界においても温室効果ガス（GHG）の排出削減に取り組む企業が増加しており、CFP 算定の必要性を求める声が高まっています。

このような環境の下、「みどりの食料システム戦略」の実現等に向け、「持続可能な食料生産・消費のための官民円卓会議」の下に「温室効果ガスの見える化作業部会」を設置し、フードサプライチェーン全体での脱炭素化の実践と、その「見える化」を進めるための食品産業の取組について議論され、実行可能かつ信頼性を担保できる加工食品業界共通の CFP 算定のルール作りが重要との認識が共有され、業界の自主算定ルールの方向性が提案され……

### 指定成分等含有食品に関する留意事項について（令和6年8月23日健生食監発 0823 第5号・消食基第 190号）

<https://www.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T240830H0020.pdf>

### いわゆる「健康食品」・無承認無許可医薬品健康被害防止対応要領について（令和6年8月23日健生食監発 0823 第4号・医薬監麻発 0823 第1号）

<https://www.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T240830H0030.pdf>

### 機能性表示食品等に係る健康被害の情報提供について（令和6年8月23日健生食監発 0823 第3号）

<https://www.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T240830H0040.pdf>

### 食品衛生法施行規則の一部を改正する省令の公布について（通知）（令和6年8月23日健生発 0823 第8号）

<https://www.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T240830H0050.pdf>

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）

### 【海外進出サポート】「Made in Japan + α」武器に展開

健康メディア.com - 2024/9/2 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19470](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19470)

国内市場成熟、コロナ収束、消費の冷え込みなどを背景に、海外市場に活路を見出す動きが加速している。ここ数年は、中国ビジネス主体から台湾、東南アジア、欧米など、他の国・地域によるビジネス展開が目立つ。特に、経済発展が著しく、日本商材の認知度が高いベトナムビジネスに注目が集まっている。進出国が広がる中、海外進出をサポートする事業が活発化。現地関連法規への対応や輸入申請手続き、認証マーク取得支援、マーケティング調査、EC ポータルなどの出店支援、翻訳代行—— など、多様なサービスを提供。“Japan 製品”の架け橋を-----

## **【CBD】THC 基準値、各社準拠の姿勢**

健康メディア.com - 2024/9/2 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19468](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19468)

新規性・機能性・体感性を持つ大麻草由来原料の CBD。様々な有用性を持ちながらも、違法成分 THC を併せ持つことから、常に麻薬と表裏一体に見られてきた。実際、大手メーカーは製品開発や販売に慎重な姿勢を崩さない。一方、初の国際的カンファレンスの開催、業界団体の設立、原料サプライヤーやメーカーによるトレーサビリティ、抽出技術、安全性検査など、THC 除去に対する徹底した取り組みを背景に、安心安全な CBD 市場が形成されつつある。さらなる普及には、間もなく発表される「大麻取締法等の一部を改正する法案」に準拠した原料および製品開発が必須となり、改正法が施行される 10 月以降の市場動向に注目され-----

## **【男性サポート商材】男性更年期の健食活用に期待**

健康メディア.com - 2024/9/2 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19466](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19466)

男性特有の悩みに着目したサプリメントや飲料が活躍の場を広げている。活力系商材は、コロナ収束に伴い、外出機会が増え、前年比 2 ケタ増の売上を達成した販売メーカーも。近年は、「活力+肉体改造」「男性の妊活サポート」をコンセプトにした商品が増え、ユーザーの裾野が広がっているほか、暑さ疲れ メンタル不調の解消としての利用も進む。排尿トラブル対策商材は、高齢者の支持が高く安定市場を形成する。代表格のノコギリヤシをはじめ、シーベリー、シークワーサーなど注目素材が流通。機能性表示食品の届出を進める動きもみられる。さらに近年、男性更年期における対策の重要性が指摘される中、伝承的薬効にエビデンスデータの蓄積が進むこれら男性サポート商材への注目度が増して-----

## **■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報**

## 「一般社団法人 短鎖脂肪酸普及協会」を設立 ～腸内環境からヘルスケア・ウェルビーイングに貢献する重要物質「短鎖脂肪酸」の認知拡大と理解促進により、業界発展と国民の健康維持増進施策を加速～

株式会社メタジェン - 2024/8/28 <https://metagen.co.jp/2024/08/28/20240827-2313/>

株式会社メタジェン（本社：山形県鶴岡市、代表取締役社長 CEO：福田真嗣、以下、当社）は、腸内細菌が産生する主要な代謝物質の一つであり、その健康機能性が続々と明らかになっている「短鎖脂肪酸」の認知拡大・理解促進に向けて、当社代表の福田が代表理事に就任し「一般社団法人 短鎖脂肪酸普及協会」を2024年8月20日に設立したことをお知らせ-----

### ■ 消費者意識等の調査・分析

#### [31301] 炭酸水に関するアンケート調査（第3回）

マイボイスコム - 2024年9月

[https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product\\_id=31301](https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=31301)

#### [31302] 青汁に関するアンケート調査

マイボイスコム - 2024年8月

[https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product\\_id=31302](https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=31302)

### ■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

#### 非必須栄養素が寿命や代謝生理を制御する

##### — チロシンの摂取制限で寿命延長 —

理化学研究所 - 2024/8/31 [https://www.riken.jp/press/2024/20240831\\_1/index.html](https://www.riken.jp/press/2024/20240831_1/index.html)

理化学研究所（理研）生命機能科学研究センター 栄養応答研究チームの小坂元 陽奈 基礎科学特別研究員、小幡 史明 チームリーダーらの共同研究チームは、食餌に含まれる10種類の非必須アミノ酸が個体の健康状態に与える影響をショウジョウバエを用いて網羅的に解析し、チロシンの欠乏が寿命や代謝生理に関わることを発見しました。

本研究成果は、栄養素が持つ生理機能の基礎的理解につながり、また健康寿命の延長に向けた栄養介入法の開発に貢献すると期待でき-----

## チーズ摂取量が多い母の子、3歳時点の神経発達遅れが少なくなる可能性－富山大

QLifePro 医療ニュース - 2024/8/27

<https://www qlifepro.com/news/20240827/childrens-study-3.html>

▼関連リンク・富山大学 プレスリリース

<https://www.u-toyama.ac.jp/wp/wp-content/uploads/20240820-1.pdf>

### 母から子へ引き継がれる腸内細菌、妊娠中の発酵食品摂取量と子の神経発達との関連は？

富山大学は8月20日、「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」のデータを用いて、妊娠中の母親の発酵食品の摂取量と、生まれた子どもの3歳時点の神経発達との関連を調べた結果を発表した。この研究は、同大学術研究部医学系小児科学講座の平井宏子医師（現：富山赤十字病院小児科医員）の研究グループによるもの。研究成果は、「PLOS ONE」に掲載されて----

## 遺伝的に肥満になりやすい人、運動量増でリスク低減の可能性－岩手医科大

QLifePro 医療ニュース - 2024/9/5

<https://www qlifepro.com/news/20240905/obesity-polygenic-score.html>

▼関連リンク・岩手医科大学 プレスリリース

[https://www.iwate-med.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2024082901\\_press-release.pdf](https://www.iwate-med.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2024082901_press-release.pdf)

### 肥満は体質的になりやすい／なりにくい人あり、遺伝的な影響も

岩手医科大学は8月29日、遺伝的な肥満リスクを表す肥満ポリジェニックスコア（obPGS : obesity polygenic score）を日本人で計算するための新たな計算式（モデル）を開発したと発表した。この研究は、同大いわて東北メディカル・メガバンク機構（IMM）生体情報解析部門の須藤洋一特命准教授、同部門長の清水厚志教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Journal of Human Genetics」に掲載されて----

## 毛髪中のストレスホルモンが身体的負荷量を反映 新潟医療福祉大学と群馬大学が発見

大学ジャーナルオンライン - 2024/8/27 <https://univ-journal.jp/247964/>

新潟医療福祉大学健康科学部健康スポーツ学科の佐藤茉由さん（2023年度卒業）、佐々木美悠さん（2023年度卒業）、同大学の越智元太講師および群馬大学共同教育学部の島孟留准教授らの研究グループは、毛髪中のストレスホルモンが長期トレーニングにより受けた身体的負荷量変化と関連することを明らかに-----

## 月経前の不調（PMS）へのトドマツ精油の香りによる緩和効果を確認

大学プレスセンター - 2024/9/4 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-54247.html>

エステー株式会社と近畿大学東洋医学研究所は、共同研究において、月経前の不調（PMS）に対するトドマツ精油の香りによる緩和効果を世界標準の症状評価方法により科学的に確認しま……

## 不老長寿テックスタートアップ TAZ Inc.が、安全性の高い食品成分による老化細胞除去効果を実証し 『Senolytic food(老化細胞を除去する食品)』の概念を国際会議 ARDD で研究発表

TAZ Inc. - 2024/8/26 <https://www.atpress.ne.jp/news/407252>

不老長寿テックの研究開発を展開する TAZ Inc.(代表取締役社長：高橋 祥子、本社：東京都文京区、以下 TAZ)は、安全性の高い食品成分による老化細胞除去効果を実証し、2024年8月26日よりデンマークのコペンハーゲン大学で行われる国際会議 Aging Research and Drug Discovery(ARDD)で『Senolytic food(老化細胞を除去する食品)』の概念について研究成果を発表し……

## 発毛成分ミノキシジルの作用メカニズムの一端を解明

MONOist - 2024/8/27 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2408/27/news049.html>

大正製薬は、高性能質量分析計で AGA 患者の毛髪を解析し、発毛成分ミノキシジルがタンパク質 BMP7 など発毛や育毛に寄与する因子を変動させることで、薄毛を改善するメカニズムを明らかに……

## 東北大、緑茶中のカテキンが主要な歯周病関連細菌を死滅させることを確認

マイナビニュース - 2024/8/22

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240822-3010252/>

## 明薬大など、バイオ医薬品の製剤でコストを削減できる新システムを開発

マイナビニュース - 2024/8/26

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240826-3012515/>

## 日本メナード化粧品など、非侵襲的に皮膚の幹細胞の加齢変化の把握に成功

マイナビニュース - 2024/8/30

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240830-3015520/>

## 順天堂大、細胞老化研究のためのガイドラインを作成～ 老化細胞を標的とした抗老化治療開発に期待 ～

日経バイオテク ONLINE - 2024/8/29

<https://bio.nikkeibp.co.jp/atcl/release/24/08/29/21430/>

羊土社のライフサイエンス最新トレンド

## 精密栄養学を支える基盤技術：食の評価（in vitro 腸内細菌培養システム）

日経バイオテク ONLINE - 2024/9/5

<https://bio.nikkeibp.co.jp/atcl/column/16/052700070/082700033/>

*以下の6件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2024年8月23日～9月5日）から選定したものです。*

## COVID-19 後の日本人の食習慣の特徴 2.7万人の全国調査に基づくクラスター分析

<https://sndj-web.jp/news/002935.php> (2024/8/27)

日本国民の食習慣の特徴に関する最新の調査結果が報告された。慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュートの野村周平氏らが、一般社団法人 Data for Social Transformation (DST) の協力のもとで行った全国規模での web 調査の結果であり、「Nutrients」に論文が掲載された。クラスター分析により、日本人の食事パターン、および、栄養や健康に関する態度は四つに分類され、クラスター間でウェルビーイングや社会的孤立の程度に差が認められるという。また、冷凍食品の位置付けが過去の報告から変化するなど、COVID-19 パンデミック後の現在の日本人の食生活の実態が示され……

## 【あじこらぼ】“うま味”を活用し、高齢者の「味わう力」を取り戻す 高齢者の栄養指導に役立つ資料と動画を公開

<https://sndj-web.jp/news/002947.php> (2024/8/27)

食と栄養の情報サイト「あじこらぼ」（味の素株式会社）が、2018年に発行した『Ajico News Vol.2』では、高齢者の味覚障害の実情やメカニズムを紹介し、“うま味”を活用して「味わう力」を改善する研究を紹介しました。この研究結果は、“うま味”が持つ潜在的な力を示しており、今後の高齢者の健康管理において、味覚に関するアプローチがさらに注目されることが期待されて-----

## **毛髪のストレスホルモン量で身体的負荷の客観的・非侵襲的な評価が可能に 疲労蓄積やオーバートレーニング予防に期待**

<https://sndj-web.jp/news/002941.php> (2024/8/30)

髪の毛に含まれているストレスホルモンを測定することで、アスリートのトレーニングによる身体的負荷量を客観的に評価可能であることが報告された。新潟医療福祉大学健康スポーツ学科と群馬大学共同教育学部の研究グループの研究結果であり、応用生理学の国際的専門誌「European Journal of Applied Physiology」に論文が掲載されるとともに、大学のサイトにニュースリリースが発表され-----

## **高タンパク食によって腸管バリア機能が低下 その影響は男性に比べて女性でより大きい**

<https://sndj-web.jp/news/002943.php> (2024/9/1)

高タンパク質の食事を是としがちなアスリートの栄養という視点では、やや気になる研究結果が報告された。タンパク質の摂取量の多いことが腸管のバリア機能の低下をもたらし、そのような影響には性差があって、男性に比べて女性ではよりバリア機能低下が大きい可能性があるという。著者らは、タンパク質の摂取量に関する将来の推奨事項には、腸内環境が関与している慢性疾患の予防という観点も考慮する必要があると述べて-----

## **短期間の夜間糖質制限法は精神的な負担を抑えてパフォーマンスを向上する可能性 国内大学アスリート対象 RCT**

<https://sndj-web.jp/news/002956.php> (2024/9/2)

低グリコーゲン状態にすることで運動中のエネルギー効率を高め、持久力を向上させ得るとされる Sleep-Low 法を短期間限定で行うことで、精神的ストレスに影響を与えることなく、そのメリットを得られる可能性を示唆するデータが報告された。森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科の坂本拓巳氏らの研究によるもので、「Nutrients」に論文が掲載され---

## 高用量のビタミンD摂取で欠乏リスクは低下するも身体パフォーマンスへの影響は限定的

<https://sndj-web.jp/news/002944.php> (2024/9/3)

男性兵士を対象に、ビタミンDの投与量を2パターン設定して介入し、ビタミンD欠乏や身体的パフォーマンスへの影響を調査した、無作為化三重盲検試験の結果が報告された。高用量群ではビタミンD欠乏のリスクが有意に低下したものの、パフォーマンス指標に関しては群間差がなく、効果は限定的だったと……

## ■ その他の食品関連科学・技術情報

*咀嚼時の食感、香り、音の変化等の応用例が考えられるとのことです。*

## 酸性で割れて気体を放出、シナモン粒子使ったシャボン玉開発 大阪工業大

サイエンスポータル（科学技術振興機構） - 2024/8/29

[https://scienceportal.jst.go.jp/newsflash/20240829\\_n01/index.html](https://scienceportal.jst.go.jp/newsflash/20240829_n01/index.html)

## ■ その他の科学・技術情報

## グレースイメーシングと慶大、皮膚に貼ることで汗の乳酸値を測定できるバイオセンサを用いた運動評価法を開発

IoT NEWS - 2024/9/3 <https://iotnews.jp/medical-healthcare/254396/>

## 他人の選択を考慮する意思決定の脳回路

ー他人のありそうな選択となさそうな選択を区別する脳の仕組みー

理化学研究所 - 2024/8/24 [https://www.riken.jp/press/2024/20240824\\_1/index.html](https://www.riken.jp/press/2024/20240824_1/index.html)

理化学研究所（理研）脳神経科学研究センター 学習理論・社会脳研究チームの中原 裕之チームリーダー、ニン・マ 研究員（研究当時、現客員研究員）らの研究チームは、他人の選択を予測して自らの意思決定に生かす脳回路の働きを明らかにしました。

本研究成果は、他者を考慮する社会的な意思決定の脳の働き、その脳内情報処理の理解、ひいては社会性脳機能に関わる脳疾患の機序の解明と治療法開発あるいは社会知性を持つエージェントの実現を目指す AI 研究の基礎に貢献すると期待でき……

## 九大が毛髪からの細菌分離法を確立し分離菌を獲得、毛髪化粧品開発に期待へ

マイナビニュース - 2024/8/22

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240822-3010203/>

以上

### 健康食品等に関する 記事情報（日本語サイトより）2024年9月号 No.2

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

#### ○ 記事一覧

**基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。**

#### ■ ピックアップ情報

**スルーして頂きたい記事情報を、編者の見識・感性（多少の思い入れ）に基づきピックアップしたセクションとご理解下さい。**

#### ■ 安全性関連情報

##### 食品安全情報（化学物質）No. 18/ 2024（2024. 09. 04）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202418c.pdf>

**気になった見出しは、以下の通りです。**

**【FAO】**

1. FAO/WHO 合同食品添加物専門家会議（JECFA）第 99 回会合（特定の食品添加物の安全性評価）概要報告書
2. ブリーフィングノート：限られた食料の中での食品安全

**【EFSA】**

1. 食品及び飼料中の新興化学物質リスク

**【FSS】**

1. 加工食品と超加工食品について知っておくべき 5 つの事実

**【FDA】**

1. FDA はナトリウム削減の取組みにおける進捗状況を発表し、特定の食品の目標を引き下げたガイダンス案を公表する

**【USDA】**

1. FSIS 公開 Q&A：アレルギーに関する質問と回答

**食品安全情報（化学物質）No. 19/ 2024（2024. 09. 18）**

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202419c.pdf>

**気になった見出しは、以下の通りです。**

**【WHO/IARC】**

IARC モノグラフ 134 巻：アスパルテーム、メチルオイゲノール、イソオイゲノール

国際がん研究機関（IARC）がモノグラフ 134 巻を発表した。モノグラフは IARC ウェブサイトで PDF 版をダウンロード可能である。対象はアスパルテーム（ヒトに対して発がん性がある可能性がある：グループ 2B）、メチルオイゲノール（ヒトに対しておそらく発がん性がある：グループ 2A）、イソオイゲノール（グループ 2B）である。それらのうちアスパルテームについては、公衆衛生上の要求に応じて、2024 年 4 月 29 日に他の物質より先んじてモノグラフを発表していた。

**【NTP】**

1. フッ化物暴露と神経発達および認知についての科学の現状に関する NTP モノグラフ：システムティックレビュー

**【EPA】**

5. EPA は農業における PFAS への暴露と削減に関する研究に 1,500 万ドルを助成

**全リスト**

## ■ 海外公的機関情報

以下、食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2024/9/12、19 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

9月12日確認分

37. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2024年7月29日~8月2日\)。\(前半 1/2\)](#)
38. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2024年7月29日~8月2日\)。\(後半 2/2\)](#)
42. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのヨーロッパ・イエコオロギ粉末の安全性に関する科学的意見書を公表](#)
47. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)は7月25日、穀類製品中の麦角アルカロイドに関するQ&Aを更新](#)
49. [国連食糧農業機関\(FAO\)は、食品安全・品質シリーズ No.26「化学物質の食品安全リスク評価における腸内微生物叢に関する FAO 技術会議」の報告書を公表](#)
53. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、飼料添加物としてのエッセンシャルオイルに関する動物種間の代謝の違いを探索するための NAM の使用についての EFSA プロジェクトに関する外部機関による科学的報告書を公表](#)
55. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、全動物種に使用する飼料添加物\(セロリ\(\*Apium graveolens\* L.\)の果実由来の精油\(セロリ種子油\)からなる\)の安全性及び有効性に関する科学的意見書を公表](#)
58. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、「食品中のマイクロプラスチック及びナノプラスチック」と題する新たなウェブページを公表](#)
65. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2024年7月22日~7月26日\)。](#)
72. [英国毒性委員会\(COT\)、「母体の食事におけるラズベリー・リーフ茶の潜在的な健康影響に関する第一次声明案」を公表 \(後半 2/2\)](#)
73. [英国毒性委員会\(COT\)、「母体の食事におけるラズベリー・リーフ茶の潜在的な健康影響に関する第一次声明案」を公表 \(前半 1/2\)](#)

[76. ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、CBD オイル中のカンナビノイドの含有量に関する考察を公表](#)

### 9月19日確認分

[14. 米国食品医薬品庁\(FDA\)、ナトリウム削減の取り組みについて次のフェーズを開始すると公表](#)

[25. カナダ保健省\(Health Canada\)、カナダの飲料水の水質に関するパーフルオロ及びポリフルオロアルキル化合物\(PFAS\)の目標を公表](#)

[29. スペイン食品安全栄養庁\(AESAN\)、米国産の食品サプリメントにおけるヨヒンビン、スルブチアミン、1,3-ジメチルアミルアミン等の検出に関する警告通知\(Ref. ES2024/400\)を公表](#)

[30. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのグルコシルヘスペリジンの安全性に関する科学的意見書を公表](#)

[36. ドイツ連邦栄養センター\(BZfE\)、子供向けの食品サプリメントは一般的に不要であるとの見解を公表](#)

## ■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

[厚生科学審議会食品衛生監視部会機能性表示食品等の健康被害情報への対応に関する小委員会（第1小委員会及び第2小委員会）合同会議 配付資料](#)

厚生労働省 - 2024/9/17 [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_43349.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_43349.html)

[「食薬区分における成分本質（原材料）の取扱いの例示リスト」の一部改正に関する意見募集について](#)

e-Gov パブリック・コメント - 2024/9/9

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495240157&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495240157&Mode=0)

## 「異性化液糖及び砂糖混合異性化液糖の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/9/18

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003716&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003716&Mode=1)

## 第 113 回コーデックス連絡協議会(開催案内)

厚生労働省 - 2024/9/12

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_43505.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_43505.html)

### ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は特に見当たりませんでした。

### ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）

今回は特に見当たりませんでした。

### ■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

#### 阪急阪神 HD・日立・おいしい健康他、シニア層に向けてデジタルとリアルで食事・運動を支援するサービスの実証を実施

IoT NEWS - 2024/9/13 <https://iotnews.jp/medical-healthcare/255055/>

株式会社おいしい健康、阪急阪神ホールディングス株式会社（以下、阪急阪神 HD）、株式会社ウェルビーイング阪急阪神（以下、WB 阪急阪神）、株式会社日立製作所（以下、日立）は、経済産業省が推進する実証事業において、シニア層に向けてデジタルとリアルで食事・運動を支援するサービスの実証を実施-----

#### 資生堂と NTT、化粧品の触り心地を遠隔・非接触で体験できる技術開発に向けた共同研究を開始

～両社の強みを活かし一人ひとりの多様なニーズに応え、新たな体験の機会創出をめざす～

株式会社資生堂 - 2024/9/18

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003887>

株式会社資生堂（本社：東京都中央区、代表執行役 会長 CEO：魚谷雅彦、以下「資生堂」）と日本電信電話株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：島田明、以下「NTT」）は、資生堂の感性科学研究の知見と NTT の非接触情報提示技術を融合し、遠隔・非接触でも、化粧品の触り心地を視覚や聴覚を通して体験できる、革新的な技術の開発をめざし、共同研究を開始しま-----

## 武田薬品工業が製造 DX の事例を紹介、2023 年は作業時間を年間 11 万時間削減

MONOist - 2024/9/6 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2409/06/news080.html>

武田薬品工業は 2024 年 9 月 5 日、東京都内で記者会見を開き、グローバルプログラム「Factory of the Future」の一環で進める製造デジタルトランスフォーメーション（DX）の取り組みを発表-----

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### [31305] たんぱく質の摂取に関するアンケート調査（第 2 回）

マイボイスコム [https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product\\_id=31305](https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=31305)

## ■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

### 皮膚内部幹細胞の加齢変化を AI システムで非侵襲的に確認ーメナード化粧品

QLifePro 医療ニュース - 2024/9/6

<https://www qlifepro.com/news/20240906/development-of-a-noninvasive-and-label-free-imaging-system.html>

▼関連リンク・藤田医科大学 プレスリリース

<https://www.fujita-hu.ac.jp/news/j93sdv000000wqe9.html>

皮膚を摘出せず内部や表皮幹細胞状態を予測する AI システムを開発していた

藤田医科大学は 8 月 29 日、非侵襲的に、皮膚内部の幹細胞の数や分布を可視化する独自 AI システムを開発し、世界で初めて皮膚内部の幹細胞の加齢変化を非侵襲的手法でイメージとして捉えることに成功したと発表した。この研究は、日本メナード化粧品株式会社、同大医学部応用細胞再生医学講座の赤松浩彦教授ら、皮膚科学講座の杉浦一充教授らの研究グ

ループによるもの。研究成果は、「Skin Research and Technology」オンライン版に掲載されて-----

## **幼児期の衝動性や外向性などに「腸内細菌叢」が関連—京大ほか**

QLifePro 医療ニュース - 2024/9/12

<https://www qlifepro.com/news/20240912/intestinal-flora-temperament.html>

▼関連リンク・京都大学 最新の研究成果を知る

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2024-09-06-2>

### **幼児の不快情動やストレス反応特性は「腸内細菌叢」と関連するのか？**

京都大学は9月6日、幼児期の気質が腸内細菌叢と関係することを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院教育学研究科の明和政子教授、上田江里子元博士後期課程院生、大阪大学大学院医学系研究科の松永倫子研究員らの研究グループによるもの。研究成果は、「Developmental Psychobiology」にオンライン掲載されて-----

## **食品の摂取頻度・嗜好の違い、日本人の男女別特徴を明らかに—藤田医科大**

QLifePro 医療ニュース - 2024/9/12

<https://www qlifepro.com/news/20240912/food-frequency.html>

▼関連リンク・藤田医科大学 プレスリリース

<https://www.fujita-hu.ac.jp/news/j93sdrv000000vm16.html>

### **性別などの影響を受ける「食事の嗜好」、日本人の特徴は？**

藤田医科大学は9月6日、同大職員の健康診断で聴取した食事頻度調査の結果を男女別に分け解析したと発表した。この研究は、同大臨床栄養学講座の飯塚勝美教授と健康管理部の成瀬寛之教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nutrients」でオンライン版に掲載されて-----

## **匂いをかいだときの脳活動をMRIで観察できるサルモデルを開発—実中研ほか**

QLifePro 医療ニュース - 2024/9/12

<https://www qlifepro.com/news/20240912/olfactory-stimulation-mri.html>

▼関連リンク・実中研 プレスリリース <https://www.ciea.or.jp/>

### **MRI装置内で、短時間で明瞭な匂い刺激をすることは困難**

実中研は8月1日、コモンマーモセット（以下、マーモセット）が匂いを嗅いだときの脳の活動をMRIで観察するための装置を開発したと発表した。この研究は、同所マーモセッ

ト医学生物学研究部の坂本晃海主任、関布美子主任、佐々木えりか部長、旭川医科大学の井上雄介准教授、東北大学の岡島淳之介准教授、公立小松大学の山田昭博准教授らの研究グループによるもの。研究成果は「Scientific Reports」オンライン版に掲載されて-----

## **培養小腸モデルでマイクロナノプラスチックの人体への取り込みを検証** **—東大**

QLifePro 医療ニュース - 2024/9/18 <https://www.qlifepro.com/news/20240918/mnp.html>

▼関連リンク・東京大学工学部 プレスリリース

<https://www.t.u-tokyo.ac.jp/press/pr2024-09-10-001>

### **人体への MNP 取り込みメカニズム・影響は不明だった**

東京大学は9月10日、生体を模した高度な培養小腸モデルを用いてマイクロナノプラスチック（MNP）の人体取り込み評価を実施し、その結果を発表した。この研究は、同大学院工学系研究科の酒井康行教授、チェヒュンジン特任助教、金子昌平大学院生らによる研究グループによるもの。研究成果は、「Nanomaterials」にオンライン掲載されて-----

—日本食品科学工学会第71回大会で発表—

## **高齢長寿地域において「豆類」の摂取がフレイルリスクの低下と関連**

フジッコ株式会社 - 2024/9/18 [https://www.fujicco.co.jp/corp/upload/pr\\_240918.pdf](https://www.fujicco.co.jp/corp/upload/pr_240918.pdf)

京都府立医科大学 生体免疫栄養学講座（フジッコ株式会社（本社：神戸市中央区／代表取締役社長執行役員：福井正一）が参画する寄附講座）、内藤裕二教授、渡辺真通研究員らの研究グループは、高齢長寿地域において「豆類」の摂取がフレイルリスクの低下と関連することを明らかにしました。この研究成果は、日本食品科学工学会第71回大会（会期：2024年8月29日（木）～31日（土））において発表しま-----

## **霊芝の孢子油に脳の神経幹細胞を増やす効果を発見**

### **サンザシ、キキョウと組み合わせることで認知機能の向上効果を確認**

PR TIMES - 2024/9/10 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000070.000048666.html>

日本メナード化粧品株式会社（愛知県名古屋市中区丸の内3-18-15、代表取締役社長：野々川 純一）は、長年研究を続けてきた生薬の一つ「霊芝」の孢子から抽出した油（霊芝孢子油）に、神経幹細胞を増やす効果があることを発見しました。さらに、霊芝孢子油に古くから知られている生薬であるサンザシとキキョウの抽出物を組み合わせると、神経幹細胞からの神経新生が促進されることが分かりました。これらの結果から、この3種の生薬抽出物により脳における神経新生を促進させることで、認知機能を高める効果につながると期待されました。そこで今回、この3種の生薬抽出物を3か月間飲用してみたところ、認知機能が高まることを確認しま-----

## 大妻女子大学の青江教授らによる研究で、昆布の連続摂取に体脂肪量や体脂肪率・収縮時血圧の低下等の効果があることが明らかに

大学プレスセンター - 2024/9/19 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-54310.html>

大妻女子大学家政学部食物学科の青江誠一郎教授は北海道昆布漁業振興協会（事務局：北海道漁業協同組合連合会）との共同研究を2014年から行っている。日本人を対象とした加工昆布の連続摂取による研究から、「体脂肪量、体脂肪率を低下させる効果」「収縮時血圧を低下させる効果」「腸内細菌叢を改善する効果」が示されま-----

## 「舌」にある苦味受容体が「皮膚」にも存在する 岡山理科大学が発見

大学ジャーナルオンライン - 2024/9/17 <https://univ-journal.jp/248461/>

岡山理科大学の中村元直教授の研究グループが、皮膚の角化細胞内にも舌と同一の苦味受容体が存在し、侵入した有害物質の感知、排出に重要な働きをすることを世界で初めて発見-----

## 眠状態が悪くなると肌からのニンニク臭が増加する、コーセーなどが発見

マイナビニュース - 2024/9/6 <https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240906-3020305/>

## 京大、腸内細菌叢が幼児の気質と関連を持つことを発見

マイナビニュース - 2024/9/9

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240909-3021934/>

## 天然由来のサプリメントが高齢者の睡眠の質改善に役立つことを発見 シンガポール

アジア科学技術ニュース（科学技術振興機構 - 2024/9/13）

[https://spap.jst.go.jp/asean/news/240902/topic\\_na\\_06.html](https://spap.jst.go.jp/asean/news/240902/topic_na_06.html)

**以下の4件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2024年9月6日～19日）から選定したものです。**

## ビタミンD サプリでアスリートの筋力を高められるか？ これまでの研究報告のメタ解析

<https://sndj-web.jp/news/002966.php> (2024/9/12)

ビタミンD 補給によるアスリートへの筋力への影響を検討したこれまでの研究のデータを統合して解析した結果が報告された。全体的な傾向として有意な変化は認められないが、大腿四頭筋の収縮力に関しては有意な効果が観察されたという。中国の研究の-----

## タンパク質の摂取タイミングと筋力などへの影響を調査 トレーニング「直前・直後」と「3時間前・後」を比較

<https://sndj-web.jp/news/002967.php> (2024/9/13)

高用量のタンパク質を、摂取タイミングを重視してトレーニングにあわせて摂取した場合と、そうでない場合とで、筋力などへの影響に差が生じるかを検討した研究結果が報告された。どちらのケースでも筋力や生化学マーカーは有意に変化し、その変化幅に群間差はみられなかったと-----

## ベジタリアン、ビーガン、低炭水化物食の微量栄養素の充足率はサプリでどのくらい高まるか

<https://sndj-web.jp/news/002968.php> (2024/9/14)

ベジタリアン食や低炭水化物食を実践している人の微量栄養素の摂取が、サプリメントを摂ることでどの程度、補うことができているのかという実態を調査した研究結果が報告された。サプリ摂取にもかかわらず、なお充足率が低い栄養素や、許容上限摂取量を超過している栄養素も認められたという。スロベニアからの報告。著者らは、適切な栄養教育の必要性を指摘して-----

## クレアチン摂取による体組成への影響 用量や形態、筋トレの有無による違い

<https://sndj-web.jp/news/002970.php> (2024/9/18)

クレアチンの摂取による体組成への影響に関する、包括的なシステマティックレビューとメタ解析の結果が報告された。摂取用量やクレアチンの形態などによる違い、筋力トレーニングを行う場合と行わない場合の違いなどが明らかにされて-----

## ■ その他の食品関連科学・技術情報

### 日本人は培養肉の受け入れに消極的？ 国際調査で明らかになった培養肉に対するイメージの違い 弘前大学

スポーツ栄養 WEB - 2024/9/17 <https://sndj-web.jp/news/002965.php>

動物の個体からではなく、細胞を体外で組織培養することによって得られる培養肉について、一般市民がどのように捉えているかを国際間で比較した調査結果が報告された。弘前大学と東京大学の研究グループの調査結果であり、「第6回細胞農業会議（8月29日・東京）」ならびに「日本社会心理学会第65回大会（8月31日・東京）」で発表されるとともに、大学のサイトにプレスリリースが発表され……

### 「脂質ゼロの油」「脂質・糖類ゼロのクリーム」の生成装置を明治大学が開発

大学ジャーナルオンライン - 2024/9/6 <https://univ-journal.jp/248250/>

明治大学総合数理学部先端メディアサイエンス学科の宮下芳明教授らは、脂質ゼロの油を生成する「Virtual Oil Generator」、脂質・糖類ゼロのクリームを生成する「Virtual Cream Generator」を発表……

### 日清オイリオグループと農研機構の共同研究 フライ食品のおいしさを表現する用語の体系化 ～日本食品科学工学会第71回大会にて発表～

日清オイリオグループ株式会社 - 2024/9/13

[https://www.nisshin-oillio.com/company/news/down2.php?attach\\_id=1745&uid=9124](https://www.nisshin-oillio.com/company/news/down2.php?attach_id=1745&uid=9124)

日清オイリオグループ株式会社（社長：久野 貴久、以下日清オイリオ）と国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（理事長：久間 和生、以下農研機構）の研究グループは、「食品のおいしさ」を官能評価の観点から追及し、それを活用したおいしい食品や新しいおいしさを持った食品の提供を通じて、人々のより豊かな生活を提案・創造するための共同研究を進めています。

おいしさの評価に重要な官能評価の精度向上を目指し、農研機構の官能評価系構築（評価用語の体系化）に関する技術と日清オイリオの油脂・油調食品に関する研究開発技術を掛け合わせ、コロツケの官能評価用語を体系化しました。この評価用語体系の活用は、フライ食品の特性のより正確な評価や、さらなる品質向上につながると考えられ……

～世界初、経皮電気刺激を活用して減塩食品の味を調整～

## 味の素(株)、東京大学、お茶の水女子大学との共同研究で「電気調味料」の技術を開発 ウェアラブルデバイスを使用したおいしい減塩の実現へ

味の素株式会社 - 2024/9/10

[https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/presscenter/press/detail/2024\\_09\\_10.html](https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/presscenter/press/detail/2024_09_10.html)

## キリン、免疫細胞のマクロファージを組み込んだ 3D 培養ヒト皮膚モデルを開発

マイナビニュース - 2024/9/12

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240912-3023886/>

## ■ その他の科学・技術情報

### 単一タンパク質の温度による微細な構造状態の変化を解析する技術を開発

MONOist - 2024/9/11 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2409/11/news035.html>

東北大学、長岡技術科学大学、東京大学は 2024 年 8 月 26 日、単一タンパク質の温度による微細な構造状態の変化を解析する新しい一分子計測技術を開発したと発表した。直径数 nm の微細な孔（ナノポア）を加工する技術とレーザー照射による温度調整技術の組み合わせにより、1 つの分子ごとのレベルで詳細な構造情報を得ら……

### 化粧品のオンラインカウンセリングにおいてお客さまの気分をリアルタイムに推定する数理モデルを開発

株式会社コーセー - 2024/9/18 <https://corp.kose.co.jp/ja/news/8815/>

株式会社コーセー（本社：東京都中央区、代表取締役社長：小林 一俊）は、関西大学 総合情報学部 瀬島 吉裕 教授との共同研究により、化粧品のオンラインカウンセリングにおいてお客さまの気分を推定する数理モデル（気分推定モデル）を開発しました。本技術はオンラインカウンセリングの音声からお客さまの気分の高まりや落ち込みをリアルタイムで察知することができ、これを応用することで、より一人ひとりに寄り添ったカウンセリングサービスの提供が期待できます。本研究成果の一部は、国内最大級の化粧品技術の発表会である第 2 回日本化粧品技術者会(SCCJ)学術大会（2024 年 11 月 18 日～20 日、兵庫県）にて発表予定……

## 理研ジェネシスと日立、説明可能 AI と生成 AI の活用によりタンパク質 定量解析サービスを高度化

IoT NEWS - 2024/9/12 <https://iotnews.jp/medical-healthcare/254983/>

## パイナップルの葉を高濃度で樹脂に複合したタンブラーを開発

MONOist - 2024/9/9 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2409/09/news060.html>

パナソニック プロダクションエンジニアリング（PPE）は 2024 年 9 月 6 日、植物由来のセルロースファイバーを 55%以上の高濃度で樹脂に混ぜ込む成形材料複合技術「kinari」を用いて、フードリボンが沖縄県で生産したパイナップルの葉の残渣を高濃度で樹脂に複合し、成形加工する「新素材タンブラー」を共同開発したと発表……

## ■ その他

英文情報サイト *Foodnavigator-asia* に、9 月 9 日付けで英文記事の和訳版が掲載されましたのでご紹介いたします。タイトルのクリックで記事本文が閲覧できます。

[さあ、乾杯：Healthy Beverages APAC 編集部主催ウェビナーがオンデマンドで無料視聴可能に](#)

[ANZ フォーカス：Starward whiskey、Vow 培養肉、Zespri フルーツと野菜研究、その他](#)

[チャイナ フォーカス：アボカドオイル、Shiny Meadow、Three Squirrels など](#)

[安全第一：シンガポールの昆虫を利用した食品の規制、安全な食品格付けのための AI、韓国の抗菌物質使用動物輸出、その他](#)

以上

## 健康食品等に関する

### 記事情報（日本語サイトより）2024 年 10 月号 No.1

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

(例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等)

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

## ○ 記事一覧

**基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。**

## ■ 安全性関連情報

### 母親の血中 PFAS 濃度と子どもの染色体異常との関連性 信州大学が調査

大学ジャーナルオンライン - 2024/9/23 <https://univ-journal.jp/248587/>

エコチル調査甲信ユニットセンターの信州大学の研究チームは、エコチル調査のデータを用い、妊娠中の母親の血中 PFAS 濃度が高いと子どもの染色体異常の発生が多い傾向を認めたと発表。ただし、PFAS と染色体異常の確かな関連性については、今後さらに研究が必要と性として-----

### 食品安全情報（化学物質）No.20（2024.10.02）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202420c.pdf>

別添（アクリルアミド関連）

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202420ca.pdf>

#### 全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

**気になった見出しは以下の通りです。**

【EC】欧州委員会

1. 欧州委員会は、人の健康と環境を守るため、PFAS 化学物質のサブグループの使用を制限する

【BfR】ドイツ連邦リスク評価研究所

1. アシュワガンダ：潜在的な健康リスクのあるフードサプリメント 特に子供、妊婦、授乳中の母親、肝臓疾患のある人は避けるべきである

## ■ 海外公的機関情報

以下は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報の中から、気になったものを選定しました。確認日：10/3

[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

12. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品添加物としてのカードランの安全性評価に関する科学的意見書を公表](#)
25. [米国環境保護庁\(EPA\)、農業における PFAS ばく露及び低減に関する研究に 1,500 万ドルの資金提供を行うと公表](#)
31. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのヒトと同一のミルクオリゴ糖の評価に関する科学的・技術的支援報告書をテクニカルレポートとして公表 \(前半 1/2\)](#)
32. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのヒトと同一のミルクオリゴ糖の評価に関する科学的・技術的支援報告書をテクニカルレポートとして公表 \(後半 2/2\)](#)
51. [英国毒性委員会\(COT\)、食品添加物としての二酸化チタン\(E171\)の安全性に関する声明\(要旨\)を公表 \(1/3\)](#)
52. [英国毒性委員会\(COT\)、食品添加物としての二酸化チタン\(E171\)の安全性に関する声明\(要旨\)を公表 \(2/3\)](#)
53. [英国毒性委員会\(COT\)、食品添加物としての二酸化チタン\(E171\)の安全性に関する声明\(要旨\)を公表 \(3/3\)](#)

## ■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

[食品、添加物等の規格基準の一部を改正する告示案（食品用器具・容器包装関係）に関する意見募集の結果について](#)

e-Gov パブリック・コメント- 2024/9/27

<https://public-comment.e>

[gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=235110001&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=235110001&Mode=1)

## 「大麻草中の $\Delta$ 9-THCの標準的な分析法（案）」に関する御意見の募集について

e-Gov パブリック・コメント- 2024/10/3

<https://public-comment.e>

[gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495240177&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495240177&Mode=0)

### ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は特に見当たりませんでした。

### ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）

#### 【快眠サポート】植物由来原料の上市続く

健康メディア.com - 2024/9/30

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19560](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19560)

睡眠課題の取組は経済的、身体的な利益をもたらすことから様々な業界が参入し一大マーケットを築いている。健食分野でも、大手ドラッグストアでは、サポート商品の陳列が定番に。機能性表示食品や、新原料を配合したサプリメントなどが並ぶ。また、コンビニでもリラックゼーションドリンクは定着しており、若い層の睡眠課題のニーズに応えている。機能性表示食品の分野では、「睡眠の質向上」だけでなく「女性の睡眠の質」「睡眠・起床のリズムを整える」など+ $\alpha$ のヘルスクレームで差別化した原料提案を行う企業も見られる。飽和状態と思われていた睡眠サプリメント市場だが新規参入・新製品上市により今後も市場拡大が-----

#### 【納豆由来・機能性素材】欧米で需要増

健康メディア.com - 2024/9/30

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19558](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19558)

納豆菌由来の機能性素材では、ナットウキナーゼを筆頭に、納豆菌、ビタミン K2、ポリアミンなどがサプリメントに利用されている。ナットウキナーゼは、血栓溶解の他に血流改

善や免疫賦活、脳機能改善などの機能性研究が進展。ビタミン K2 は骨サポート素材としての利用が広がっている。納豆菌は腸活はじめ免疫機能の研究が始まり、ポストバイオティクスとしての役割に期待が掛かる。市場は、一時紅麹問題の影響を受けたものの、徐々に落ち着きを取り戻しつつある。海外市場は、中国からアセアン、欧米へと需要がシフトしつつある。今後も日本の伝統食素材の利用が増えそう……

## **【北海道】エビデンス備わり、強固な道産ブランドに**

健康メディア.com - 2024/9/30

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19554](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19554)

北海道の基幹産業である食関連産業。産官学がスクラムを組み、食の高付加価値化を推進している。北海道ブランドに依存することなく、長年にわたり、エビデンスデータの蓄積を進めてきた地道な活動が実を結んでいる。「安全・安心・おいしい」に「健康機能」が加わった北海道独自の食品機能性表示制度「ヘルシーDo」は運用 12 年目に突入。利用されている道産機能性素材は 30 成分にのぼり、累計認定商品は 160 品を超えた。累計売上金額も 400 億円規模がみえてきた。乳酸菌、タモギタケ、米ヌカ、タマネギ、パプリカなど、道産素材を活用した機能性表示食品も増加。また、アップサイクル原料が多く、国内のみならず、海外ニーズも高まって……

## **【スピルリナ】フィコシアニンの肌バリア機能で再脚光**

健康メディア.com - 2024/9/30

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19523](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19523)

フィコシアニンがもつ美肌の機能性が再び注目されている。美容家などのインフルエンサーがシワ・ハリ改善などに関するヒト臨床試験を YouTube で発信したことを受け、美肌素材としての認知度が一段と高まった。肌のバリア機能（保湿力）を訴求する機能性表示食品『フィコナ スキン モイストリフティング タブレット』（DIC）の売上也好調に推移している。食品用途では、スピルリナを配合する青汁などの商品化が進み、コンビニチャネルではスピルリナ配合スムージーも定着した。スピルリナ青色素による「着色」用途は冷菓需要のほか、飲食店のキャラクターメニューなどに利用の裾野が広がって……

## **【β-グルカン】アフターコロナでも“イミューンヘルス”に需要**

健康メディア.com - 2024/9/30

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19521](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19521)

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大によって大きく注目を集めた免疫機能。アフターコロナに入っても“イミューンヘルス”は世界的な関心事として注目を集めている。特に欧米では、日々摂取する食品やサプリメントの活用により免疫賦活を期待する声は大きく、免

疫に関するヘルスクレームサプリメントの売上が好調な伸びをみせている。そのひとつがβ-グルカン。免疫へ働きかける実力派素材として海外ではサプリメントの利用が定着している。調査会社の発表によると、β-グルカンの世界市場は現在4億ドル程度で形成されており、2026年には6億ドル規模に拡大すると分析。成長が見込める次世代型素材として引き続き高い関心が寄せられている。こうした流れを受け、国内でもβ-グルカンの利用が徐々に進む。免疫領域をはじめ、疲労対策、抗メタボ、腸内環境改善、美肌など、多様な機能性が評価されて-----

## **【慢性炎症対策】 老化と切り離せない重要なテーマ**

健康メディア.com - 2024/9/30

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19519](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19519)

近年の研究でメタボリックシンドロームをはじめとした生活習慣病や、認知症などの疾患に共通する基盤病態として慢性的な炎症が発生していることが知られるようになった。慢性炎症は全身のあらゆる部位や臓器で長期間にわたって“くすぶり” 続け、痛みなど自覚症状がないまま重篤疾患の発症や促進に影響する。「疲れやすい」といった日々の疲労の蓄積も慢性炎症と深い関わりがあると指摘されており、最近ではメンタルや女性特有の健康課題の領域にも影響を及ぼすといわれている。健康寿命延伸の実現に向け、慢性炎症の対策は重要なファクターとなって-----

## **■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報**

今回は特に見当たりませんでした。

## **■ 消費者意識等の調査・分析**

### **矢野経済研究所、国内における加工食品の栄養成分表示に関する消費者アンケート、栄養・健康視点での食品消費の広がりが見込まれる**

マイライフニュース - 2024/9/19 <https://www.mylifenews.net/drink-food/65814/>

矢野経済研究所は、国内における加工食品の栄養成分表示に関する消費者アンケート調査を実施した。栄養成分表示の確認状況や購買判断状況、購入要件などについて調査し、機械学習（AI分析）と統計的分析手法を用いて消費者の潜在需要を考察した。ここでは、「包装前面栄養表示」による食生活や食意識、購買行動の変化や、「包装前面栄養表示」をスマホカメラで記録できるなら欲しいスマホアプリの機能について、調査結果を公表-----

## サンスターグループ、オーラルフレイルに関する意識調査、40代でも3人に1人がオーラルフレイル予備軍に該当

マイライフニュース - 2024/9/20 <https://www.mylifenews.net/health-medical/65933/>

サンスターグループ（以下サンスター）は、「サンスター オーラルフレイルケア プロジェクト」の一環として、40歳から70歳以上の一般男女800名を対象に「オーラルフレイルに関する意識調査」を実施した。その結果、オーラルフレイルの認知率は過去4年間で約17%向上したが、実際に予防・対策をしている人は21.4%にとどまっ……

## 顔の多くの部位が シワができるとは思われていないことが明らかに

シワを気にしている男女の意識調査

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス - 2024/10/3

ポーラ化成工業株式会社

[https://www.pola-rm.co.jp/pdf/release\\_20241003\\_1.pdf](https://www.pola-rm.co.jp/pdf/release_20241003_1.pdf)

ポーラ・オルビスグループの研究・開発・生産を担うポーラ化成工業株式会社（本社：神奈川県横浜市、社長：片桐崇行）は、顔のシワを気にしている全国の男女にアンケートを行いました。顔の中でシワができることが広く認識されているのはほうれい線、額、目尻の3カ所だけで、それ以外の部位はシワができる部位としてあまり認識されていないことが明らかとなり……

## [31303] 砂糖・糖分に関するアンケート調査（第5回）

マイボイスコム [https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product\\_id=31303](https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=31303)

## **■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報**

### ビタミンB代謝、亜鉛栄養状態を適切に保つことが重要—京大ほか

Qlife 医療ニュース - 2024/9/27

<https://www.qlifepro.com/news/20240927/b-vitamins.html>

▼関連リンク・京都大学 プレスリリース

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2024-09-17>

### リン酸エステル加水分解過程に亜鉛依存性酵素関与が示唆、正確な作用機序は？

京都大学は9月17日、培養細胞とラットを用いて、ビタミンBのリン酸エステル加水分解に4つの亜鉛依存性酵素が重要な役割を果たすこと、さらに、この加水分解活性が亜鉛栄養状態によって大きく影響されることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院生命科学研究科の神戸大朋准教授、湯浅花修士課程学生（研究当時）、西野勝俊助教（現：

東京工科大学講師)、永尾雅哉教授、東京慈恵会医科大学の木戸尊将講師、須賀万智教授、滋賀県立大学の福渡努教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「The FASEB Journal」にオンライン掲載されて----

## 大腸の脂質代謝酵素による肥満の新規調節メカニズムをマウスで解明—東大ほか

Qlife 医療ニュース- 2024/10/1

<https://www qlifepro.com/news/20241001/spla2-x.html>

▼関連リンク・東京大学 プレスリリース

<https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400247708.pdf>

**なぜ、大腸に限局して発現している分泌性の脂質分解酵素が肥満に影響を与えるのか？**

東京大学は9月25日、大腸に発現している脂質代謝酵素であるX型分泌性ホスホリパーゼA2 (sPLA2-X) が、腸内細菌叢の調節を介して全身の代謝に影響を及ぼすことを世界に先駆けて解明したと発表した。この研究は、同大大学院医学系研究科の村上誠教授と佐藤弘泰助教、医薬基盤研究所 (NIBIO) の國澤純副所長、慶應大学薬学部の有田誠教授らとの共同研究によるもの。研究成果は、「Cell Reports」オンライン版に掲載されて----

## ビタミンD 欠乏リスク判定ツール開発、若年女性特化／非侵襲・低コスト—大阪公立大

Qlife 医療ニュース- 2024/10/3 <https://www qlifepro.com/news/20241003/viddpres.html>

▼関連リンク・大阪公立大学 プレスリリース

[https://www.omu.ac.jp/info/research\\_news/entry-13543.html](https://www.omu.ac.jp/info/research_news/entry-13543.html)

**従来のビタミンD 評価は採血必要・費用高額**

大阪公立大学は9月30日、調査によりビタミンD 欠乏の実態と要因を明らかにし、若年女性に特化した新しいビタミンD 欠乏リスク判定ツール ViDDPreS (Vitamin D Deficiency Predicting Scoring) を開発したと発表した。この研究は、同大大学院生活科学研究科の栗原晶子教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Public Health Nutrition」のオンライン速報版に掲載されて----

## 18種の菌を混ぜた腸内細菌カクテル投与で「炎症性腸疾患」改善の可能性—慶大ほか

Qlife 医療ニュース- 2024/10/3 <https://www qlifepro.com/news/20241003/gntr.html>

▼関連リンク・慶應義塾大学 プレスリリース

<https://www.keio.ac.jp/ja/press-releases/2024/9/27/28-161929/>

**便移植は使用する便による効果の差・安全性の問題があるため、広く行われていない**

慶應義塾大学は9月27日、健常者の腸内常在細菌の中から、腸管内でクレブシエラや大腸菌の抑制に重要な働きをしている18種類の菌を同定し、この18種類の菌を混ぜ合わせて一緒に投与することで、腸管内のクレブシエラや大腸菌を1,000分の1以下に減少させる効果があることをマウス実験で確認したと発表した。この研究は、同大医学部微生物学・免疫学教室の本田賢也教授を中心とする共同研究グループによるもの。研究成果は、「Nature」オンライン版に掲載されて-----

## **【芝浦工業大学】ポリフェノールの苦味刺激が肥満や糖尿病を予防することを発見**

大学プレスセンター - 2024/9/24 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-54374.html>

芝浦工業大学（東京都江東区／学長 山田純）システム理工学部生命科学科・越阪部 奈緒美教授らの研究チームは、ポリフェノールの苦味刺激が耐糖能を改善し、肥満・糖尿病リスクを低減させる可能性のあることを見出しました。

ポリフェノールは植物性食品に豊富に含まれる生理活性物質で、長年にわたりその健康効果は関心を集めてきました。しかしながらポリフェノールは体内に吸収されないため、そのメカニズムは不明でした。今回の論文では、ポリフェノールが消化管全体に発現する苦味受容体に結合し、脳とコミュニケーションを取るホルモンの分泌を促し、血糖値や満腹感を調整することが示唆されました。今後、本研究の成果を用いた安全性が高い新たな肥満・糖尿病の予防・治療法の開発が期待され-----

**補足：芝浦工業大学プレスリリース**

[https://www.shibaura-it.ac.jp/assets/20240924\\_PressRelease.pdf](https://www.shibaura-it.ac.jp/assets/20240924_PressRelease.pdf)

## **漢方薬やハーブティーの素材に認知症予防や脳の若返り作用を確認 大阪公立大学**

大学ジャーナルオンライン - 2024/9/29 <https://univ-journal.jp/248714/>

大阪公立大学の富山貴美特任教授らは、漢方薬やハーブティーの素材から、認知症を予防し脳を若返らせる食材を独自の製法で開発-----

## **玉ねぎに含まれるケルセチン、二日酔い改善 アルコールの病気を予防 岡山大**

財形新聞 - 2024/10/8 <https://www.zaikei.co.jp/article/20241008/785412.html>

岡山大学は、玉ねぎをはじめとした野菜や果物に含まれるポリフェノール的一种「ケルセチン」が、肝細胞をアルコールから守る働きを持つことと、そのメカニズムを解明したと発表した。今後、二日酔い症状やアルコールによる様々な疾患を予防する、サプリメントや機能性食品の開発につながる事が期待され-----

## コラーゲンペプチドの継続摂取は、疲労感を軽減し、活力感を高め、睡眠休養感を上げる

株式会社ニッピ - 2024/9/25

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000017.000083625.html>

株式会社ニッピは、コラーゲンペプチドの継続的な摂取が、日常生活における疲労感や活力感と言った気分状態を改善し、睡眠休養感も高める可能性があることをヒト試験で確認しました。この研究成果が、ダイエタリーサプリメントの国際的な専門誌である Journal of Dietary Supplements にて、原著論文としてオープンアクセスで公開され-----

## シワ原因「好中球エラスターゼ」の新知見 線維芽細胞への悪影響が判明

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス - 2024/10/3

ポーラ化成工業株式会社

[https://www.pola-rm.co.jp/pdf/release\\_20241003\\_2.pdf](https://www.pola-rm.co.jp/pdf/release_20241003_2.pdf)

ポーラ・オルビスグループの研究・開発・生産を担うポーラ化成工業株式会社（本社：神奈川県横浜市、社長：片桐崇行）は、好中球から分泌され、シワの原因となるタンパク質分解酵素「好中球エラスターゼ」が、真皮を構成するコラーゲンやエラスチンを分解するだけでなく、真皮の維持に重要な線維芽細胞そのものにも悪影響を与えることを発見しま-----

## 線維芽細胞での亜鉛トランスポーター発現増加作用を発見 コウキエキスとシナノキエキスの混合物

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス - 2024/10/3

ポーラ化成工業株式会社

[https://www.pola-rm.co.jp/pdf/release\\_20241003\\_3.pdf](https://www.pola-rm.co.jp/pdf/release_20241003_3.pdf)

ポーラ・オルビスグループの研究・開発・生産を担うポーラ化成工業株式会社（本社：神奈川県横浜市、社長：片桐崇行）は、コウキエキスとシナノキエキスの混合物に真皮線維芽細胞の亜鉛トランスポーターの遺伝子発現量を増加させる作用を発見しま-----

## 皮ふの免疫細胞が老化細胞を除去する新たなメカニズムを明らかに

～皮ふの免疫機能が老化を予防している可能性を発見、Cell 誌へ掲載～

株式会社資生堂 - 2024/10/8

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003896>

資生堂とマサチューセッツ総合病院皮膚科学研究所（以下：CBRC）は、共同研究により新たな皮ふの免疫細胞の機能として、老化した線維芽細胞（老化細胞）を除去することと、そのメカニズムを発見しました。これまで老化細胞は、年齢とともに蓄積すると考えられていましたが、老齢の皮ふにおいても必ずしも老化細胞が多いわけではなく、免疫細胞の一種である Cytotoxic CD4+ T 細胞（以下：CD4 CTL）が老化細胞の蓄積抑制に強く関わっていることを明らかにしました。また、CD4 CTL が老化細胞の蓄積を抑えるメカニズムとして、老化細胞内で活性化したヒトサイトメガロウイルス（以下：HCMV）の一部（抗原）が老化細胞の表面に出現することで、それを CD4 CTL が認識し、老化細胞を選択的に除去していることを世界で初めて発見しました。

**以下の一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事は、2024年9月20日～10月8日掲載分から選定したものです。**

## 自転車競技におけるカフェイン摂取量は4～6mg/kgがおすすめ？タイムやパワーが有意に上昇

<https://sndj-web.jp/news/002976.php> (2024/9/25)

自転車競技のタイムトライアルにおけるカフェインの影響を、これまでの研究を基に摂取量別に解析した結果が報告された。4～6mg/kg を摂取した場合には、タイムの短縮と平均出力の上昇という有意な影響が認められ、1～3mg/kg では非有意だったと----

## パフォーマンス向上と体組成改善のためのケトン食に関する国際スポーツ栄養学会 ISSN のステートメント

<https://sndj-web.jp/news/002983.php> (2024/9/27)

国際スポーツ栄養学会（ISSN）は6月27日、ケトン食に関する同学会の見解を学会誌「Journal of the International Society of Sports Nutrition（JISSN）」に論文掲載した。アスリートにおけるケトジェニックダイエットの理論的な根拠を整理し、文献レビューに基づくエビデンスの総括を行ったうえで、7項目からなる‘Position statement’を示している。一部の章の要旨を紹介-----

## **カフェインの急性効果は午前中に高い？ カフェイン摂取の量と時間帯について効果と有害事象を比較研究**

<https://sndj-web.jp/news/002985.php> (2024/10/2)

女性アスリートを対象に、カフェインの摂取量と摂取時間帯を変えた6パターンで、急性効果と有害事象を比較検討した研究結果が報告された。パフォーマンス上の急性効果は午後よりも午前中に摂取した場合に高いこと、午後の摂取は摂取量の多寡にかかわらず有意な効果が認められないうえに、有害事象が生じやすいことなどが明らかに-----

## **高齢者栄養評価指標（GNRI）は、急性心筋梗塞後の予後予測の最適なツールである可能性**

<https://sndj-web.jp/news/002990.php> (2024/10/3)

日本人の急性心筋梗塞（AMI）患者の全死亡や主要心血管イベント（MACE）の予測における、高齢者栄養評価指標（GNRI）の最適なカットオフ値が報告された。時間依存性 ROC 解析により、すべての時点の AUC が 0.8 を上回り、ほぼ一貫して他の評価指標よりも高い予測能を示したという。東京慈恵会医科大学付属病院循環器内科の伊東哲史氏らの研究によるもので、「Heart and Vessels」に論文が掲載された。著者らは、「GNRI は AMI の重要な予後予測因子と考えられる」と述べて-----

## **「断食」に関する 24 用語の定義が国際的に合意 断食の意味が曖昧な研究報告などの明確化に期待**

<https://sndj-web.jp/news/002991.php> (2024/10/4)

「断食」という用語の定義に関する国際的な合意についての論文が、「Cell metabolism」に掲載された。5 大陸、38 人のエキスパートによるデルファイ法により、食事制限、カロリー制限、治療的断食、予防的断食、断続的断食など、計 24 の用語が定義づけられて-----

## **コラーゲンペプチド摂取と運動介入を並行して行くと、腱や除脂肪量などに有意な変化 メタ解析**

<https://sndj-web.jp/news/002994.php> (2024/10/5)

コラーゲンペプチドの摂取をトレーニングと並行して行くと、アキレス腱や膝蓋腱の断面積や除脂肪体重、筋力などに有意な影響が現れることが、システマティックレビューとメタ

解析の結果として報告された。著者らは、スポーツに伴う腱損傷に対して予防的に働くのではないかと述べて-----

## ■ その他の食品関連科学・技術情報

### ウイスキー製造工程の CO2 を 99.5% の高純度で回収、サントリーや東京ガスなど

MONOist - 2024/9/25 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2409/25/news086.html>

サントリーホールディングス、東京ガス、東京ガスエンジニアリングソリューションズは、サントリー白州蒸溜所において、固体吸収法を用いた CO2 回収実証試験を行い、蒸溜工程で発生する低濃度の CO2 を 99.5% 以上の高純度で分離、回収することに成功-----

## ■ その他の科学・技術情報

### 頭皮用エアゾールとマッサージによる気持ちよさの見える化に成功

MONOist - 2024/9/26 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2409/26/news071.html>

大正製薬は、頭皮用エアゾールスプレーの使用と頭皮マッサージによる気持ちよさを、唾液バイオマーカーにより可視化できることを発見した。気持ちよさと、オキシトシン増加およびコルチゾール減少が相関して-----

### 規格外ココナッツのオイルからバイオマス SAF の製造に成功

MONOist - 2024/9/30 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2409/30/news039.html>

新エネルギー・産業技術総合開発機構は、食用に適していないココナッツオイルから、100%バイオマス由来の SAF の製造に成功した。多機能触媒を用いて、規格外ココナッツを絞ったオイルから、ニート SAF を製造-----

### 溶液中の生体高分子の構造と動きを直接観察できる技術を開発

MONOist - 2024/9/20 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2409/20/news056.html>

リガクは、溶液中の生体高分子の構造と動きを明らかにする新技術「Electron Density Topography」を開発した。体内環境に近い溶液中で、生体高分子の構造や動的特性を直接電子密度像として観察でき-----

## 資生堂、アクセンチュアと共同で独自のアルゴリズムを用いた処方開発 AI 機能を開発

IOT NEWS-2024/9/26 <https://iotnews.jp/ai/255739/>

株式会社資生堂は、アクセンチュア株式会社と共同で、独自のアルゴリズムを用いた処方開発 AI 機能を開発した。

なお、この処方開発 AI 機能は、資生堂の化粧品開発デジタルプラットフォーム「VOYAGER（ヴォイジャー）」に搭載され、2024年2月より本格稼働している。

今回発表された処方開発 AI 機能は、これまで研究員の間で受け継がれ、データ化が困難であった50万を超える知見や、各研究領域の垣根を超えたノウハウなどの研究開発力をデータベース化し、イングリディエント・インフォマティクス（※）を駆使して開発されたもの……

## 東大など、皮膚に貼り体内の生化学情報を連続で取得可能なセンサを開発

マイナビニュース - 2024/9/24

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240924-3030973/>

## ■ その他

### ネスレ、「再生農業」への移行で貧困と気候変動に挑む

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」（無断転載を禁じます） - 2024/10/1

<https://www.alterna.co.jp/135568/>

世界最大のコーヒーブランド「ネスカフェ」は10億スイスフラン(約1700億円)を投じて、ビジネスモデルの大変革に取り組む。コーヒー農家の貧困や気候変動による農地の減少などでコーヒーの持続可能性が問われている。「再生農業」を通して、貧困と気候変動に挑む、同社のトランジション戦略を追った。（オルタナ副編集長＝池田 真隆）

……

英文情報サイト *Foodnavigator-asia* に、10月7日付けで各地域関連記事を紹介する日本語版ハイライトが掲載されていましてご紹介いたします。タイトルのクリックで本文が閲覧できます。

[インド フォーカス : Unilever India のコーヒーと紅茶のプレミアム化、Swizzle の拡大、ラベリング政策のギャップなどを総まとめ](#)

[チャイナ フォーカス : BYHEALTH、EastRoc、中国の植物食計画など](#)

[スタートアップ スポットライト : ベトナムの Sokfarm、韓国の SUUL SUUP、シンガポールの Hey!Chips など、注目のスタートアップ](#)

[ブランド ニュー : Kraft Heinz、CJ Cheiljedang、Carlsberg Malaysia など](#)

以上

## 健康食品等に関する

### 記事情報（日本語サイトより）2024 年 10 月号 No.2

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

## ○ 記事一覧

**基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。**

## ■ ピックアップ情報

**スルーして頂きたい記事情報を、編者の見識・感性（多少の思い入れ）に基づきピックアップしたセクションとご理解下さい。**

### **6 人に 1 人が非エシカル商品の購入控える、10 代 20 代で顕著に**

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」（無断転載を禁じます） - 2024/10/18  
<https://www.alterna.co.jp/136937/>

エシカル市場規模調査実行委員会はこのほど、日本初のエシカル市場規模調査を行った。その結果、日本人の6人に1人が非エシカルな商品の購入を控えていたことが明らかになった。年代別で見ると、10代（15～19歳）が28.2%、20代が17.3%と若い層にその傾向が多かった。（オルタナ副編集長＝池田 真隆）

-----

## 「ウェルビーイング×食事」マーケティングの発想転換&腸と個人差を見る精密栄養学

ウェルネス総研レポート online <https://wellnesslab-report.jp/3467/>

2019年以降、機能性表示食品の売上は伸び悩み、人々は新しい食と健康の価値を求めてその市場動向が変化しています。それは、おいしさや楽しさなどを包括し、総合的かつ中長期的に健康へ資するこれまでとは違う新しい世界観です。こうしたウェルビーイングの視点はいま、マーケティング戦略において避けて通ることは出来ません。加えて、生活者が抱く製品への期待値のコントロールや訴求の順番、食事の背景でその効果を左右する腸内環境と、個人差が生じるメカニズムを考慮した精密栄養学の観点も重要です。

今回、「腸から考えるウェルビーイングを実現するための食事とは？」をテーマに開催された、株式会社インテグレート代表取締役 CEO 藤田康人氏、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 國澤純氏の講演と、パネルディスカッションについてレポート----

### ■ 安全性関連情報

#### 厚生科学審議会食品衛生監視部会機能性表示食品等の健康被害情報への対応に関する小委員会第2回紅麹関連製品に係る事案の健康被害情報への対応に関するワーキンググループ（持ち回り開催）資料

厚生労働省 - 2024/10/24 [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_44337.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_44337.html)

#### 食品安全情報（化学物質）No.21（2024.10.16）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202421c.pdf>

別添 <https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202421ca.pdf>

**気になった見出しは以下の通りです。**

#### 【EFSA】 欧州食品安全機関

1. 新規食品をナビゲートする：EFSA の更新ガイダンスは安全性評価において何を意味するのか

### 【FSA】 英国食品基準庁

2. FSA と FSS がフードサプリメント中のカフェインに関するガイダンスを発行する

### 【EPA】 米国環境保護庁

4. EPA、100 種類以上の PFAS「永遠の化学物質」に関する情報の一般公開を拡大し、必要な汚染防止活動を支援することを提案

### 【NIH】 米国国立衛生研究所

1. ODS 更新情報：最新のダイエタリーサプリメント科学の発展

### 全リスト

<http://www.nihs.gov/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

## ■ 海外公的機関情報

以下は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報の中から、気になったものを選定しました。更新確認日：2024年10月17日

[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

6. [ドイツ連邦消費者保護・食品安全庁\(BVL\)、カンナビノイドは製菓分野でますます一般的になっていることを公表](#)
7. [英国食品基準庁\(FSA\)、食品サプリメントにおけるカフェインに関するガイダンスを公表](#)
20. [欧州委員会\(EC\)、パーフルオロヘキサン酸\(PFHxA\)及び PFHxA 関連物質の使用を制限する新たな措置を採択した旨を公表](#)
34. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、「食品・飼料部門におけるナノ粒子のリスク評価への適用に向けた新アプローチ方法論のレビュー：現状及び課題」に関する外部機関による科学的報告書を公表 \(1/3\)](#)
35. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、「食品・飼料部門における新アプローチ方法論に対する適格性認定システムの提案：ナノ材料リスク評価に対する実装例」に関する外部機関による科学的報告書を公表 \(1/3\)](#)
36. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、「食品・飼料部門におけるナノ粒子のリスク評価への適用に向けた新アプローチ方法論のレビュー：現状及び課題」に関する外部機関による科学的報告書を公表 \(2/3\)](#)
37. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、「食品・飼料部門におけるナノ粒子のリスク評価への適用に向けた新アプローチ方法論のレビュー：現状及び課題」に関する外部機関による科学的報告書を公表 \(3/3\)](#)

38. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、「食品・飼料部門における新アプローチ方法論に対する適格性認定システムの提案：ナノ材料リスク評価に対する実装例」に関する外部機関による科学的報告書を公表 \(2/3\)](#)
41. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、「食品・飼料部門における新アプローチ方法論に対する適格性認定システムの提案：ナノ材料リスク評価に対する実装例」に関する外部機関による科学的報告書を公表 \(3/3\)](#)
42. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2024年9月16日~9月20日\)](#)
44. [ドイツリスク評価研究所\(BfR\)、多様な特性を持つ微小粒子であるナノマテリアルに関する Q&A を更新 \(2/3\)](#)
46. [ドイツリスク評価研究所\(BfR\)、多様な特性を持つ微小粒子であるナノマテリアルに関する Q&A を更新 \(1/3\)](#)
47. [ドイツリスク評価研究所\(BfR\)、多様な特性を持つ微小粒子であるナノマテリアルに関する Q&A を更新 \(3/3\)](#)
48. [国際がん研究機関\(IARC\)、「IARC モノグラフ 134 巻: アスパルテーム、メチルオイゲノール、イソオイゲノール」が現在オンラインで利用可能である旨を公表](#)
49. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品及び食品材料の製造における抽出溶媒として使用されるヘキサンの安全性の再評価の必要性に関するテクニカルレポートを公表](#)

## ■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

### [食事による栄養摂取量の基準の一部を改正する件（案）に関する意見募集](#)

e-Gov パブリック・コメント - 2024/10/11

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495240200&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495240200&Mode=0)

### [「マーガリン類の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について](#)

e-Gov パブリック・コメント - 2024/10/18

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003779&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003779&Mode=1)

### 「ショートニングの日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/10/18

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003780&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003780&Mode=1)

### 「精製ラードの日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/10/18

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003781&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003781&Mode=1)

### 「食用精製加工油脂の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/10/18

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003773&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003773&Mode=1)

### 「食用植物油の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/10/18

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003938&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003938&Mode=1)

### 「第 114 回コーデックス連絡協議会」の開催及び一般傍聴について

消費者庁 - 2024/10/17 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/039660/>

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

### 富士経済、菓子・スナック菓子、デザート、育児用食品などの国内市場、2025年予測ではポテトチップスが1480億円に

マイライフニュース - 2024/10/17 <https://www.mylifenews.net/drink-food/68298/>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、割安感やコスパの高い商品が好調な菓子・スナック菓子、猛暑・残暑の影響で需要が高まる期間が伸びているアイスなどのデザート、値上げによって廉価品への需要シフトが目立つ乳油製品、簡便性が高い商品が伸びている育児用食品、主食として節約志向が反映されるなか低価格やコスパの良い商品が好調なステープルの5カテゴリ93品目の市場を調査した。その結果を「2025年 食品マーケティング便覧 No.1」にまとめた。2025年予測（2023年比）では、物価高で節約志向が高まるなかコスパの良いおつまみや間食として需要が増加するポテトチップスが1480億円（7.6%増）を見込む。また、たんぱく質補給だけでなく濃厚な味わいや食べ応えが需要を獲得し市場が拡大するギリシャヨーグルトは……

## ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

### 【人参素材】免疫・フェムなど新分野や副材利用で

健康メディア.com - 2024/10/11

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19602](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19602)

高麗人参、アメリカンジンセン、田七人参はいずれも健康食品市場でロングランの定番素材だ。コロナ禍における免疫対策から、近年話題のフェムケア分野に至るまで、その機能性が再評価されている。各素材の特徴や新たなエビデンスなどをレポートす……

### 【サラシア】機能性表示+@で需要拡大

健康メディア.com - 2024/10/10

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19595](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19595)

サラシア由来サラシノールを関与成分とする機能性表示食品は、114品が届出受理（9月20日現在）され、サプリ形状から一般食品まで、バリエーションに富んだ商品化が進んでいる。業界団体であるサラシア属植物普及協会では、PRISMA 声明 2020 に準拠したSRも作成済み。さらなる商品開発に弾みをつけている。原料サプライヤーでは、機能性表示対応のほか、除菌や包摂化といった差別化提案も。体感素材としての提案が活発化し……

## **【ショウガ】 冷え・ロコモ・抗メタボ対策で提案活発**

健康メディア.com - 2024/10/10

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19593](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19593)

香辛野菜のみならず民間薬としても古くから利用されてきたショウガ。国内では健康食品から一般食品に至るまで、幅広い商品に応用されている。機能性表示食品は、6-ショウガオールや6-ジンゲロール、黒ショウガ由来（5,7-ジメトキシフラボン、5-ヒドロキシ-7-メトキシフラボン）、ブラックジンジャー由来ポリメトキシフラボンを関与成分とする機能性表示食品が続々登場。受理数は392件となった。（9月20日現在）。手足の冷えや抗メタボ、抗ロコモをテーマとする商品開発が進んで……

## **■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報**

今回は特に見当たりませんでした。

## **■ 消費者意識等の調査・分析**

### **ロート製薬、アイフレイルに関する調査、40代の78%が目の健康状態の低下を実感、52%がアイフレイルの可能性**

マイライフニュース - 2024/10/8 <https://www.mylifenews.net/health-medical/67487/>

ロート製薬は、10月10日の「目の愛護デー」を前に、近年注目されている加齢による目の機能低下「アイフレイル」に関するアンケート調査を実施した。その結果、加齢による目の健康状態の低下を感じる人は40代から急増し、40代の78.2%が感じていることがわかった。40代を含む広い年代で、PCやスマホが使いにくい、読書がしにくい、頭痛や肩こり、ストレスを感じるなど、79.5%の人が生活や仕事、心身の健康の変化を感じている……

### **[31407] 健康食品の利用に関するアンケート調査（第6回）**

マイボイスコム株式会社

[https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product\\_id=31407](https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=31407)

### **[31404] 低糖質食品に関するアンケート調査（第4回）**

マイボイスコム株式会社

[https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product\\_id=31404](https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=31404)

## [31408] 健康によい成分に関するアンケート調査（第7回）

マイボイスコム株式会社

[https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product\\_id=31408](https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=31408)

### ■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

#### 運動機能評価「Koji Awareness テスト」、加齢に伴うスコア変化を示すー科学大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2024/10/18

<https://www qlifepro.com/news/20241018/koji-awareness.html>

▼関連リンク・早稲田大学 プレスリリース

<https://www.waseda.jp/inst/research/news/78635>

#### 11 項目で構成される、特別な道具不使用の運動機能評価法

早稲田大学は 10 月 10 日、身体運動機能の自己評価法である「Koji Awareness (KA) テスト」のスコアが加齢に伴い低下することを明らかにしたと発表した。この研究は、東京科学大学（旧 東京医科歯科大学）の室伏広治特命教授、獨協医科大学埼玉医療センター、早稲田大学スポーツ科学学術院の金岡恒治教授、苑田会苑田第三病院との共同研究によるもの。研究成果は「Scientific Reports」に掲載され-----

#### 健康経営が従業員のメンタルヘルス改善・離職率低下に重要な可能性ー順大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2024/10/17

<https://www qlifepro.com/news/20241017/kenko-investment-for-health.html>

▼関連リンク・順天堂大学 プレスリリース <https://www.juntendo.ac.jp/news/20434.html>

#### 従業員の健康状態や企業の利益率向上などに健康経営の取り組みは関連しているのか

順天堂大学は 10 月 9 日、日本企業における従業員のライフスタイルとメンタルヘルス関連欠勤率および離職率との関連を調査し、その結果を発表した。この研究は、同大医学部総合診療科学講座の矢野裕一郎教授と健康長寿産業連合会、JST 共創の場形成支援プログラム「若者の生きづらさを解消し高いウェルビーイングを実現するメタケアシティ共創拠点」が、経済産業省主導の健康経営度調査データを用いて行った共同研究によるもの。研究成果は、「Epidemiology and Health」に掲載されて-----

## 大豆成分が腸内細菌叢の変化に介入し、モデルマウスの心不全進行を抑制—名大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2024/10/23

<https://www qlifepro.com/news/20241023/conglycinin.html>

▼関連リンク・名古屋大学 プレスリリース

<https://www.nagoya-u.ac.jp/researchinfo/result/2024/10/post-736.html>

### 大豆タンパク質β-CGの循環器疾患への効果は？

名古屋大学は10月16日、機能性大豆タンパク質であるβ-コングリシニン（β-CG）をタンパク質源とした餌を心不全モデルマウスに投与することで、いくつかの短鎖脂肪酸を産生する菌および主要短鎖脂肪酸（酢酸・酪酸・プロピオン酸）を増加させ、心機能低下・心肥大・心筋の線維化といった心不全の病態進行を抑制することを新たに発見したと発表した。この研究は、同大学院医学系研究科 総合保健学専攻 オミックス医療科学の古川希助教、医学系研究科 神経遺伝情報学 伊藤美佳子講師、医学系研究科 総合保健学専攻 オミックス医療科学 上山純准教授の研究グループと、中部大学生命健康科学部・平山正昭教授、名古屋学芸大学管理栄養学部・大野欽司教授との共同研究によるもの。研究成果は、「Clinical Nutrition」に掲載されて……

## 資生堂、世界初、ツバキ種子発酵抽出液に 老化細胞を除去する免疫細胞を誘引する因子の発現促進効果を発見

～皮ふの老化予防に関わるCD4 CTL（メモリーT細胞）とそのメカニズムに着目～

株式会社資生堂 - 2024/10/8

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003899>

資生堂は、世界で初めてツバキ種子発酵抽出液が、皮ふの老化細胞を除去する機能をもつ免疫細胞CD4 CTL（メモリーT細胞）を誘引するCXCL9の発現を高めることを発見しました。つまり、ツバキ種子発酵抽出液によって皮ふの免疫細胞による老化細胞除去効果が高まることが期待され……

### 同日発表の関連プレスリリース（前号で紹介済み）

「皮ふの免疫細胞が老化細胞を除去する新たなメカニズムを明らかに ～皮ふの免疫機能が老化を予防している可能性を発見、Cell誌へ掲載～」

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003899>

以下の一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事は、2024年10月9日～10月24日掲載分から選定したものです。

## プロテインサプリメント摂取と心血管の健康状態に関連は見られずも、体重増加や持久力低下の可能性あり

<https://sndj-web.jp/news/003004.php> (2024/10/11)

プロテインサプリメントを摂取している若年男性の心血管の健康状態を、年齢の一致するサプリを摂取していない人と比較した研究結果が報告された。ハーバードステップテストによる運動負荷前後の心電図所見については群間に差がないものの、ステップの持続時間はサプリ摂取群のほうが短かったという。インドの研究者の……

## 運動の効果やパフォーマンス向上における「プラセボ効果」や「ノセボ効果」の影響

<https://sndj-web.jp/news/003002.php> (2024/10/12)

今回は、スポーツパフォーマンスや運動の効果におけるプラセボ効果とノセボ効果に関するレビュー論文を紹介する。2019年以降に発表された研究論文のレビューから、スポーツや運動ではプラセボ効果やノセボ効果は従来考えられていた以上の影響力があること、ノセボ効果はプラセボ効果の約2倍の影響力がある可能性などが記されて……

## 若い女性に特化したビタミンD不足がわかるチェックツールを開発 大阪公立大学

<https://sndj-web.jp/news/003008.php> (2024/10/14)

健康な日本人女性583人のデータを基に、ビタミンD欠乏のリスク判定ツールが開発された。大阪公立大学の研究グループの研究成果であり、「Public Health Nutrition」に論文が掲載されるとともに、大学のサイトにプレスリリースが発表された。ビタミンD欠乏高リスク者の迅速な判定や、適切なサプリメントの使用促進に役立つと期待されると……

## 栄養食品やサプリメントなど健康食品を利用している人の栄養摂取量調査の結果を公表 東邦大学

<https://sndj-web.jp/news/003009.php> (2024/10/15)

日本人の食事摂取量データの分析から、栄養強化食品やサプリメントという、いわゆる「健康食品」が、栄養素の摂取量にどのくらい寄与しているのかが明らかになった。東邦大学の研究グループの研究成果であり、「BMC Nutrition」に論文が掲載されるとともに、大学のサイトにプレスリリースが発表された。栄養強化食品やサプリメントの利用者は、それらを含まない通常の食事において、非利用者と比べビタミンやミネラルの摂取量が多く、ま

た、食事摂取基準で示されている適切な摂取量を満たしている者の割合が高い一方で、利用者の2%ではビタミン B6 の過剰摂取の恐れが認められたと-----

## 日本高血圧学会が日本人のための「尿ナトカリ比」の目標値と適切な評価方法を提唱

<https://sndj-web.jp/news/003012.php> (2024/10/17)

日本高血圧学会は、10月8日、日本人のための尿ナトカリ比の目標値と適切な評価方法を提唱するため、同学会の学会誌「Hypertension Research」にコンセンサスステートメントを掲載するとともに、学会サイト内にニュースリリースを発表した。尿ナトカリ比は低コストかつ簡便に測定でき、高血圧の予防と管理、および高血圧合併症の予防に活用されることを期待するとして-----

## β-アラニンと重曹を一緒に摂取すると運動パフォーマンスが向上する可能性

<https://sndj-web.jp/news/003005.php> (2024/10/18)

β-アラニンと重炭酸ナトリウム（重曹）を、それぞれ単独で摂取した場合と、両者を併用した場合とで、パフォーマンスへの影響が異なるのかどうかを、システマティックレビューにより検討した結果が報告された。メタ解析では、両者を併用した場合にのみ、有意な効果が現れる可能性が示された-----

## 厚生労働省「日本人の食事摂取基準（2025年版）」報告書を公表 食物繊維の目標量など主な変更点

<https://sndj-web.jp/news/003031.php> (2024/10/23)

厚生労働省は10月11日、「日本人の食事摂取基準（2025年版）」策定検討会報告書を取りまとめて公表した。新たに、骨粗鬆症とエネルギー・栄養素との関連についての解説が加えられたほか、食品中の食物繊維含有量の測定法が近年変更されたことに触れ、その目標量がやや変更された。また、鉄の耐容上限量が削除され-----

## ヒトの上皮組織モデルで、シワ形成メカニズムを明らかに 韓国 POSTECH

アジア科学技術ニュース（科学技術振興機構） - 2024/10/24

[https://spap.jst.go.jp/korea/news/241004/topic\\_nk\\_02.html](https://spap.jst.go.jp/korea/news/241004/topic_nk_02.html)

## ■ その他の食品関連科学・技術情報

### ピザハット、味を数値化・チャート化する AI とピザ職人によりピザ全品のチーズを 130%増量

IoT NEWS - 2024/10/17 <https://iotnews.jp/ai/257038/>

日本ピザハット株式会社は、同社が展開するピザチェーン「ピザハット」において、AI とピザ職人であるピザハットの商品開発員により、全ピザのモツアレチーズ量を 130% に増量することを決定し、2024 年 10 月 21 日より全国の店舗で発売を開始する。

今回の新たな商品は、味を数値化・チャート化して評価できる AI 味覚センサー「レオ」と、ピザハットの開発ユニットの知識と経験を融合させて開発したも-----

### 電子レンジで加熱でき開封後に食器となるパウチを開発

MONOist - 2024/10/17

<https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2410/17/news058.html>

大日本印刷（DNP）は 2024 年 10 月 16 日、電子レンジで加熱調理でき開封後にそのまま食器として使えるパウチ「アンタッチスルー 喫食タイプ」を開発したと発表した。

このパウチは、加熱時に発生する水蒸気を自動的に逃がす機能によって、電子レンジでそのまま加熱調理できるパウチ「DNP 電子レンジ包材 アンタッチスルー」シリーズのピロータイプで、本体の一部に紙を使用することで、食器として使えるようにしている。

今後、DNP は、冷凍食品／チルド食品、電子レンジ対応食品などを製造／販売する企業にアンタッチスルー 喫食タイプを提供して-----

## ■ その他の科学・技術情報

### 千葉大学 新しい作用機構を有する不斉有機触媒を植物の種子から発見

大学ジャーナルオンライン - 2024/10/10 <https://univ-journal.jp/249085/>

千葉大学の研究グループが、園芸品種の一つである蠟梅（ロウバイ）の種子から新しい作用機構を持つ不斉有機分子触媒を発見した。

有機分子触媒とは、金属元素を含まず、炭素、水素、窒素、酸素などの元素で構成された化合物を指す。有機分子触媒を、医薬品の合成などに重要な光学活性分子を合成するための

不斉反応に応用する研究が注目されているが、これまで開発されてきた不斉有機分子触媒は、人工的に設計・合成されたものが-----

## **ポーラ化成工業、世界的に権威ある化粧品技術者学会にて発表 化粧品の感覚変容ツールとしての可能性を発見**

化粧品を使うことで五感で感じる日常体験を魅力的に

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス - 2024/10/10

ポーラ化成工業株式会社

[https://ir.po-holdings.co.jp/news/news/news-3809379985549002549/main/0/link/20241010\\_IFSCC\\_kankaku.pdf](https://ir.po-holdings.co.jp/news/news/news-3809379985549002549/main/0/link/20241010_IFSCC_kankaku.pdf)

ポーラ・オルビスグループの研究・開発・生産を担うポーラ化成工業株式会社（本社：神奈川県横浜市、社長：片桐崇行）は、2024年10月14日～17日にブラジル・イグアスで開催される第34回国際化粧品技術者会連盟（以下 IFSCC）世界大会の口頭発表部門において、日常体験を魅力的にする「化粧品の感覚変容ツールとしての新たな可能性」に関する新知見を発表し-----

ポーラ化成工業、世界的に権威ある化粧品技術者学会にて発表

## **iPS 細胞から一人ひとりの個性を反映した皮膚を作製することに成功 究極のテーラーメイド化粧品の創出を目指す**

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス - 2024/10/10

ポーラ化成工業株式会社

[https://www.pola-rm.co.jp/pdf/release\\_20241010\\_1.pdf](https://www.pola-rm.co.jp/pdf/release_20241010_1.pdf)

ポーラ・オルビスグループの研究・開発・生産を担うポーラ化成工業株式会社（本社：神奈川県横浜市、社長：片桐崇行）は、2024年10月14日～17日にブラジル・イグアスで開催される第34回国際化粧品技術者会連盟（以下 IFSCC）世界大会のポスター発表部門において、尿中の細胞から iPS 細胞を作り、さらに iPS 細胞から皮膚組織を作製することに成功した研究成果を発表し-----

## **生きた細胞内のタンパク質発現量を推定する AI 技術を開発**

株式会社ファンケル - 2024/10/24

[https://www.fancl.jp/news/20240091/news\\_20240091.html](https://www.fancl.jp/news/20240091/news_20240091.html)

株式会社ファンケルは、サイトロニクス株式会社（所在地：神奈川県川崎市／代表取締役 CEO 今井快多 <https://cytoronix.com/>）と共同で、培養した細胞の画像を撮影するだけ

で、生きた細胞内に含まれる複数種のタンパク質を推定できる AI 技術の開発に成功しましたことをお知らせします。

なお、本研究は学術雑誌 Bioengineering of the Machine Learning and Artificial Intelligence for Biomedical Applications, 2nd Edition ※1 に掲載されました。

本成果は、培養した細胞を用いた研究に幅広く応用が可能であり、成分の有効性や安全性評価、老化のメカニズムなどの研究に生かしてまいり-----

## ■ その他

### 中小上場企業が取り組むべきサステナ情報開示とは

#### ■時価総額 1000 億円以下のプライム企業だからこそサステナ情報開示の課題がある①

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」（無断転載を禁じます） - 2024/9/19

<https://www.alterna.co.jp/134509/>

#### 記事のポイント

1. サステナ開示基準のプライム企業への適用義務化や第三者保証の議論が進む
2. その一方で、サステナ開示領域の専門家は不足している
3. 義務化されても多くの企業は対応できず、社会問題化することは明白だ

-----

### サステナ情報開示、中小上場企業が今すぐやるべきことは

#### ■時価総額 1,000 億円以下のプライム企業が直面するサステナ情報開示の課題②

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」（無断転載を禁じます） - 2024/10/8

<https://www.alterna.co.jp/136249/>

#### 記事のポイント

1. 世界各国でサステナ情報開示に関するルールが整備されてきた
2. 時価総額 5000 億円未満の企業は 2030 年 3 月期以降に義務化が適用される
3. では、時価総額 1000 億円以下のプライム企業は何をするべきか

-----

### 細胞農業研究機構、日本の「培養肉」への対応明確化に向け提言を作成 官民連携を呼びかけ

日経バイオテク ONLINE - 2024/10/23

<https://bio.nikkeibp.co.jp/atcl/release/24/10/23/22093/>

以上

## 健康食品等に関する

### 記事情報（日本語サイトより）2024年11月号 No.1

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

## ○ 記事一覧

**基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。**

## ■ ピックアップ情報

**スルーして頂きたい記事情報を、編者の見識・感性（多少の思い入れ）に基づきピックアップしたセクションとご理解下さい。**

### 日本の食文化や栄養課題に特化した栄養プロファイルモデルを開発 医薬基盤・健康・栄養研究所

スポーツ栄養 WEB - 2024/10/28 <https://sndj-web.jp/news/003034.php>

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所はこのほど、日本の食文化や栄養課題を踏まえた加工食品や料理の栄養評価法「日本版栄養プロファイルモデル」を開発した。

「Nutrients」に2報の論文が掲載されるとともに、同研究所のサイトにプレスリリースが掲載され……

## ■ 安全性関連情報

### 食品安全情報（化学物質）No.22（2024.10.30）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfo/news/2024/foodinfo202422c.pdf>

別添 <https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202422ca.pdf>

## 全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった見出しは以下の通りです。

### 【EFSA】 欧州食品安全機関

2. 食品中の臭素化フェノールとその誘導体のリスク評価の更新
3. 第三国由来伝統食品の認可のための通知と申請の科学的要件に関するガイダンス
4. 新しい微量栄養素源の安全性と相対的生物学的利用能の評価のための科学的原則とデータ要件に関するガイダンス
5. 食品・飼料のリスク評価において新しいタンパク質の毒性を予測する in silico 方法の開発
6. 明日の潮流をナビゲートする：海洋資源の未来と食品・飼料の安全性への影響を調査
7. 欧州の食事における代替タンパク源－健康リスク・ベネフィットと持続可能性

### 【BfR】 ドイツ連邦リスク評価研究所

1. 植物ベース飲料のマイコトキシン類：詳細なデータが必要 マックス・ルブナー研究所による研究結果とリスク評価への関連性

## ■ 海外公的機関情報

今回は、特に見当たりませんでした。

## ■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は、特に見当たりませんでした。

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

### 健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ オープンフォーラム

2024 ～産学官等連携で取り組む日本発の食環境づくり～ 開催のお知らせ

厚生労働省 - 2024/11/11 [https://sustainable-nutrition.mhlw.go.jp/241211\\_meeting](https://sustainable-nutrition.mhlw.go.jp/241211_meeting)

健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブでは、栄養・食生活の課題に関する世界的な動向と、本イニシアチブのこれまでの取組内容や、本イニシアチブが目指す社会像を広く伝え、健康的で持続可能な食環境づくりが一層推進することを目的に、オープンフォーラム2024を開催いたします。本イニシアチブへの参画の有無にかかわらず、様々な事業者や自

治体関係者、報道関係者等の皆様に広くご参加（対面又はオンライン）いただくことが可能  
-----

## 「コーデックス委員会を理解する-食品衛生基準行政の移管を機に」

消費者庁 - 2024/11/1 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/039907/>

消費者庁は、食品衛生基準行政推進調査事業「食品行政における国際整合性の確保と食品分野の国際動向に関する研究」研究班等との共催で、シンポジウム「コーデックス委員会を理解する-食品衛生基準行政の移管を機に」を開催し-----

## 「食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（案）」（添加物（シクロデキストリン等3品目）に係る規格基準の設定及び改正）に関する御意見の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/10/28

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235110005&Mode=0>

## 「乾めん類の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/10/29

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003827&Mode=1>

## 「手延べ干しめんの日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/10/29

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003828&Mode=1>

## 「食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（案）」（添加物（二炭酸ジメチル及びメチルセルロース）に係る改正）に関する意見募集の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/11/5

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=235110003&Mode=1>

## 食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（案）（器具・容器包装関係）に関する御意見の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/11/8

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235110007&Mode=0>

## 遺伝毒性試験ガイドラインの一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/11/8

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550004011&Mode=0>

## 生殖毒性試験ガイドラインの一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/11/8

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550004012&Mode=0>

## 「マカロニ類の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/11/12

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003771&Mode=1>

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

### 矢野経済研究所、フェムケア&フェムテック市場に関する調査、2023年の市場規模は前年比 108.0%の 750 億 5400 万円に

マイライフニュース - 2024/11/1 <https://www.mylifenews.net/drink-food/69889/>

矢野経済研究所は、フェムケア&フェムテック（消費財・サービス）市場を調査し、国内の参入企業の現況や動向、市場の課題と展望を明らかにした。その結果、2023年のフェムケア&フェムテック（消費財・サービス）市場規模は前年比108.0%の750億5400万円に達した。市場は継続して好調に推移し、更年期ケア分野とセクシャルウェルネス分野の注目度がさらに高ま-----

## アジア地域のヘルスケア市場、最新動向をキャッチアップ

ウーマンズラボ - 2024/11/1 <https://womanslabo.com/market-241101-2>

市場の開拓先を、人口減少で縮小する日本市場から国外へと移すなら、どこが自社にとって有望なのか――？これまでにウーマンズラボで公開した海外動向の中でも、特に読まれた記事をご紹介します-----

## ミンテルが2025年の世界の美容・化粧品トレンドを予測―各企業が抑えておくべき消費者がこれから美容・化粧品に求めるものとは？

ミンテルジャパン - 2024/11/5

<https://japan.mintel.com/blog/2025-global-bpc-trends-press-release>

―技術革新による各個人向け美容製品の提供、サステナビリティへの期待、快適さ・感情に訴えかける美容など―

予測される将来の美容・化粧品の消費者像をミンテルアナリストが具体的に提示

ロンドン本社を含め13か国にオフィスを構える市場調査会社「Mintel Group」の日本法人であり、美容やライフスタイル、食品・飲料分野におけるグローバル調査に強みを持つ、株式会社ミンテルジャパン（東京都千代田区）は、2024年11月5日（火）に「2025年：世界のビューティー&パーソナルケアトレンド」の日本語版、無料ダウンロードレポートを発売しました。

## ミンテルが2025年の世界の食品・飲料トレンドを発表

ミンテルジャパン - 2024/10/28

<https://japan.mintel.com/blog/2025-global-food-and-drink-trends-press-release>

―変わる食に対する概念と世界情勢の影響を受ける消費者の食卓、技術革新が生むハイブリッドな農業とは？―

ロンドン本社を含め13か国にオフィスを構える市場調査会社「Mintel Group」の日本法人であり、美容やライフスタイル、食品・飲料分野におけるグローバル調査に強みを持つ、

株式会社ミンテルジャパン（東京都千代田区）は、2024年10月28日（月）に「2025年：世界の食品・飲料トレンド」の日本語版、無料ダウンロードレポートを発売しました。

## **【市場調査会社ミンテル】食品開発展 2024 講演「2025年の機能性食品・飲料トレンド予測」シニアだけでなく、子どもから共働き世代まで、各世代のニーズに適した製品開発の重要性についてアナリストが語る**

— プロテインをもっと摂取すべきシニア世代・中年女性向けのエナジードリンクやフェムケア製品開発の余地・メンタルヘルスサポートを欲している若年層 —

ミンテルジャパン - 2024/11/7

<https://japan.mintel.com/blog/hijapan-2024-seminar-press-release>

ロンドン本社を含め13か国にオフィスを構える市場調査会社「Mintel Group」の日本法人であり、食品・飲料や美容、ライフスタイル分野におけるグローバル調査に強みを持つ、株式会社ミンテルジャパン（東京都千代田区）は、2024年10月23日から3日間に渡り開催された、食品開発展 2024に出展し、食品・飲料部門ディレクター（南アジア担当）、ミーガン・スタントンが「2025年 機能性食品・飲料トレンド・健康寿命の延伸をサポートする機能性成分 - 海外の事例から日本での流行を予測」と題した講演を行いました。

## **■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）**

### **【乳酸菌・ビフィズス菌・乳酸菌生産物質】**

健康メディア.com - 2024/11/6 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19737](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19737)

#### **乳酸菌関連、機能性表示食品受理750品突破 紅麹問題はねのけ、勢い止まらず**

乳酸菌やビフィズス菌を機能性関与成分とした機能性表示食品の受理品総数750品を突破。761品となり、総受理数8000品を超えた機能性表示食品の約10%を引き続き関連商品が占めている（10月4日時点）。表示テーマは「腸内環境改善」「便秘改善」などの整腸作用領域を筆頭に、「体脂肪低減」、「内臓脂肪低減」、「BMI改善」など抗肥満・抗メタボ領域での届出も増加し、存在感をみせる。さらに、「肌の潤い維持」や「鼻の不快感軽減」、「ストレスの軽減」に加え、「食後の胃の負担を和らげる」、「歩行機能の向上」、「記憶機能の維持」など、バリエーションに富んだ表示が行われている。大ヒットした『Yakult1000』の「睡眠の質向上」も引き続き堅調に推移して……

### **【”冷え”対策～温活サポート～】**

健康メディア.com - 2024/11/6

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19732](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19732)

“冷え”対策はもちろん、健康・美容のために日常的に身体を温めるライフスタイル「温活」の有用性に注目が集まっている。最近では“温活+腸活”や“温活+眠活”など、温活と〇活との組み合わせもトレンドになりつつある。話題のフェムケア分野では、妊活との組み合わせや、女性特有の不定愁訴軽減に温活を組み合わせるケースが増えている。未病対策や介護予防に温活を取り入れるクリニックや高齢者施設も見られる。現代人の多くが内臓冷えを抱える中、冷え対策・温活は健康的な生活を送る上での一丁目一番地と……

## **【南米・機能性素材】フェムケアでマカ台頭、女性層の獲得進む**

健康メディア.com - 2024/11/6

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19729](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19729)

南米原産の機能性素材が身近な存在に——。「天然由来」「希少性」「ストーリー性」といった南米原産の持つイメージの良さに加え、安全性・有効性に関するエビデンスデータの蓄積が進み、利用分野が拡大。最近では、アグロフォレストリー、アップサイクルなどに関わる素材も多く、SDGsの観点からも関心が高まっている。活力系ハーブのマカは、体感の高さから男性ユーザーの支持を受け、健康食品の定番アイテム……

## **【アクティブシニアサポート】“筋活” “骨活” が浸透、市場は活発に**

健康メディア.com - 2024/11/6

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19719](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19719)

高齢者人口率が高い日本では、国や自治体が健康寿命の延伸に向け、フレイルやロコモ対策などを推進。運動と共に、未病領域における食事改善や健康食品の活用が広がっている。近年は、筋肉維持や骨強化における理解が進み、“筋活” “骨活” といったワードも身近に。商品開発に拍車がかかっている。「筋肉・筋力サポート」分野では、HMB、GABAなどの機能性表示食品が増加。エビデンスデータをもとに、プロテインとの組み合わせも目立つ。「骨サポート」分野では、カルシウム、ビタミンDといったメジャー素材に以外にも、特色ある機能性素材が……

## **【CBD（カンナビジオール）】市場再構築へ 一歩前進**

健康メディア.com - 2024/11/6

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19723](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19723)

ここ半年話題の尽きることのなかった CBD 製品はいよいよ市場形成の準備が整った。長年議論されていた大麻草由来の THC 残留限度値が決まり、大麻取締法関連を一部改正する

法律が12月12日に施行される。これまでの基準値より厳しい設定に、大半の企業は対応に追われ、現行品の売り尽くしなどを進める一方、商機と捉え、新たに参入する大手企業も。法律施行と共に、国内でTHCの分析も可能と-----

## ■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

### キリンとアサヒ、2つのAIで輸送量の平準化を実現するPSI情報プラットフォーム「MOVO PSI」を導入

IoT NEWS-2024/10/30 <https://iotnews.jp/ai/257644/>

キリンビバレッジ株式会社（以下、キリン）は、株式会社 Hacobu が提供する、輸送量平準化を実現するための生産・販売・在庫管理の情報プラットフォーム「MOVO PSI」を、2024年11月1日より導入すると発表した。

「MOVO PSI」は、「メーカー」「卸売業」「小売業」の企業間をつなぎ、PSI（※）情報を管理・共有・分析するプラットフォーム-----

### アマゾン、サステナブルな商品の見つけやすさを日本でも

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」（無断転載を禁じます） - 2024/10/31

<https://www.alterna.co.jp/138014/>

アマゾンは、サステナブルな商品を見つけやすい仕組みを日本でも導入した。背景には、オンラインショッピングの際に、環境や社会への負荷が少ない商品を優先する消費者が日本でも増えていることがある。顧客は、リサイクル素材や有機素材を使用した商品、類似商品と比較してエネルギー効率の良い商品など、第三者機関が認証したサステナブルな商品を選択しやすくなる。（オルタナ副編集長＝北村佳代子）

-----

### キューピー、2030年までに「ケージフリー卵」の割合20%へ

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」（無断転載を禁じます） - 2024/10/31

<https://www.alterna.co.jp/138162/>

キューピーはこのほど、2030年までにキューピーマヨネーズに使う卵の20%をケージフリーで飼育した鶏から調達すると公表した。鶏を狭い檻に入れるケージ飼育は、採卵鶏にストレスを与えることに加えて、骨折や脱臼の原因になっていた。日本のケージフリー飼育の割合は1%だが、同社は今後10年間で5%に引き上げることを狙う。（オルタナ副編集長＝池田 真隆）

-----

## 無印良品が無糖茶の容器を再生 PET ボトルに切り替え

MONOist - 2024/11/12

<https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2411/12/news049.html>

無印良品を展開する良品計画は 2024 年 11 月 11 日、同月 13 日から、無糖茶のボトルをアルミ缶から再生原料を 100%使用した PET ボトルへリニューアルし、全国の無印良品の店舗とネットストアで順次発売すると発表……

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### キューピー、卵に関する意識やトレンドの分析調査「たまご白書 2024」、卵の消費量は減少も日本人にとって欠かせない存在

マイライフニュース - 2024/10/30 <https://www.mylifenews.net/drink-food/69600/>

キューピーは、グループ会社のキューピータマゴとともに、「いいたまごの日（卵という食材の素晴らしさを再認識するために、2010 年に日本養鶏協会が制定）」（11 月 5 日）に向けて、キューピータマゴ公式サイト内で「たまご白書 2024」を公表する。「たまご白書」は、卵に対する意識や食べ方、トレンドを分析した調査報告。2017 年に 1 回目の調査結果を公表し、今年で 8 回目になる。その結果、卵の消費量は減少するも、日本人にとって卵はこれまでと変わらぬ愛される存在であることがわかった。

### ロッテ、全国「噛む力調査」2024、「噛む力」第 1 位は群馬県で第 2 位は宮崎県・第 3 位は沖縄

マイライフニュース - 2024/11/5 <https://www.mylifenews.net/drink-food/70021/>

ロッテは、食事や噛むことに対する意識や行動の実態を明らかにするため、47 都道府県ごとに 20 代～60 代の各 100 名ずつを対象とした、全国「噛む力」調査を実施した。20～60 代を対象にした調査は 3 年ぶりとなる。調査の結果、3 年前の調査で 20 位だった群馬県が「噛む力」1 位となっ……

### デジタル化を期待する分野は「健康・医療」、女性より男性・若年層より高齢層に顕著

ウーマンズラボ - 2024/10/29 <https://womanslabo.com/marketing-research-241029-1>

政サービスや教育、スポーツ、健康・医療など、社会のあらゆる場面でデジタル化が進められているが、生活者が特に期待を寄せている分野はどこなのか？電通総研による調査「クオリティ・オブ・ソサエティ指標 2024」の中で明らかに-----

## 2030年の消費生活はこうなる、キーワードは「健康」「自律性」「倫理」「効率性・利便性」

ウーマンズラボ - 2024/10/29 <https://womanslabo.com/trend-240620-1>

人口減少社会、鈍化する経済成長、気候変動による気温上昇――。日本を待ち受ける未来は暗い話ばかりだが、AIの急速な発展をはじめとした society5.0 の実現で、誰もが先進テクノロジーの恩恵を受けられる明るい時代は、もう目前だ。それに伴い人々の消費スタイルは大きく変化するものとみられ、2030～2040年を見据えた消費者研究が各所で進められている。消費者庁が今年4月に公開した調査報告書「The Future of Consumer Lifestyle」も、その一つ。消費生活の未来予想に関する国内外の情報をデスクトップリサーチで分析し、今後10年に起きる未来の消費トレンドを以下4つの視点で整理-----

## シニア世代が健康維持のために最も重視しているのは「栄養バランス」ニッスイ調査

スポーツ栄養 WEB - 2024/11/6 <https://sndj-web.jp/news/003055.php>

株式会社ニッスイは、食欲・スポーツの秋に向けて、全国のシニア層（50～70歳代）を対象に食生活の実態に関する調査を実施した。食生活で重視するのは「栄養バランス」であり、「味・おいしさ」、「価格の安さ・コスパ」を上回ることなどが明らかになった。また、“要介護予備群”と位置づけられているフレイルの予防のために行っていることなどの調査もされて-----

## ■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

### 精神的に健康な状態で生きる長さを推計、全般的に延伸示すも高齢男性は限定的―上智大

QLifePro 医療ニュース - 2024/10/29

<https://www.qlifepro.com/news/20241029/distress.html>

▼関連リンク・上智大学 プレスリリース

<https://www.sophia.ac.jp/jpn/article/news/release/20241022/>

精神疾患を抱える患者数は年々増加、メンタルヘルス改善の取り組みが必要

上智大学は10月22日、心の健康状態に着目して、精神的に健康な状態で生きる人生の長さを推計し、調査対象期間（2010～2022年）においては、精神的に健康な状態な生きられる人生の長さは全般として著しく延伸した一方、高齢者、特に高齢男性では改善が限定的であることがわかったと発表した。この研究は、同大国際教養学部国際教養学科の皆川友香准教授によるもの。研究成果は、「Asian Social Work and Policy Review」に掲載されて-----

## **【麻布大学】ヤエヤマクロレラの摂取が、マイコトキシンの一種であるデオキシニバレノールにより増悪する皮膚アレルギー症状を軽減する可能性を示す研究結果を確認**

大学プレスセンター - 2024/11/1 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-54831.html>

麻布大学獣医学部の福山朋季准教授と株式会社ユーグレナ（本社：東京都港区、代表取締役社長：出雲充、以下「ユーグレナ社」）は、共同研究により、ヤエヤマクロレラの摂取が、マイコトキシンの一種であるデオキシニバレノールにより増悪する皮膚アレルギー症状を軽減することを示す研究結果を確認したことをお知らせします。なお、今回の研究結果は、2024年9月8日～11日に開催された「EUROTOX 2024（欧州毒性学会）」で発表し-----

## **VRと運動の組み合わせが気分と脳機能をともに向上させる 新潟医療福祉大学と筑波大学**

大学ジャーナルオンライン - 2024/10/24 <https://univ-journal.jp/249434/>

新潟医療福祉大学の越智元太講師（健康スポーツ学科）と大野健講師（診療放射線学科）、筑波大学体育系の桑水隆多助教らの研究グループは、仮想現実環境（VR）と運動を組み合わせることで気分が高まり、脳の実行機能（ワーキングメモリ）が向上することを明らかに-----

## **老化の進行は「ノンリニア」。起点の40代と60代で配慮すべき食とは？**

ウェルネス総研レポート online - 2024/10/31 <https://wellnesslab-report.jp/3499/>

世界中でペースオブエイジング（PoA、老化速度）の研究が進行するなか、見た目と内面の若さは相関し、その老化するスピードには個人差があることも認知されつつあります。さらに最近、ヒトの老化には44歳と60歳という、2つの時期に大幅な調節不全が発生するという研究論文も発表されました。この研究結果を受け、その解釈の仕方や注意点、40代と60

代で気を付けたい食の内容や健康食品の役割について、一般社団法人 国際予防医学協会理事  
長でお茶の水健康長寿クリニック院長の白澤卓二先生に伺い

## 東京農工大、生命の脂質多様性を紐解く精製技術を開発 一分画と濃縮 により未知の脂質分子の発見を加速

日経バイオテク ONLINE - 2024/10/28

<https://bio.nikkeibp.co.jp/atcl/release/24/10/28/22143/>

## 6000 株超の乳酸菌データベースを公開、発酵産業の支援基盤に 農研 機構

サイエンスポータル（科学技術振興機構） - 2024/10/30

[https://scienceportal.jst.go.jp/newsflash/20241030\\_n01/index.html](https://scienceportal.jst.go.jp/newsflash/20241030_n01/index.html)

## 皮脂の酸化が頭皮のかゆみを引き起こすメカニズム、第一三共ヘルスケ アが解明

マイナビニュース - 2024/11/6

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20241106-3059737/>

*以下の一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事  
は、2024 年 10 月 25 日～11 月 12 日掲載分から選定したものです。*

## 活動的なシニアのほうが 30 代よりも運動習慣が良好 DM 三井製糖 「シニアの運動習慣」調査結果

<https://sndj-web.jp/news/003032.php> (2024/10/25)

天然の糖質「パラチノース®」を展開する DM 三井製糖株式会社は、10 月 14 日の「スポ  
ーツの日」にあわせて、60～80 代のシニア世代と 30 代の「運動習慣」に関するアンケート  
調査の結果を発表した。アクティブなシニアの方が働き盛りの 30 代よりも体を動かす習慣  
や意識、満足度が高いと……

## 炭水化物の摂取増加が体タンパク質の増加に寄与する ただし筋力はア ップせず 若年日本人男性 RCT

<https://sndj-web.jp/news/003044.php> (2024/10/29)

炭水化物の摂取量を増やしエネルギー過剰状態にすることで、体内のタンパク質量が増加することが、若年日本人男性を対象とする無作為化比較試験（RCT）の結果として示された。（株）明治と福岡大学身体活動研究所を中心とした共同研究グループ（筆頭著者：畑本陽一氏、責任著者：川中健太郎氏）によるもので、「Clinical Nutrition」に論文が掲載された。この機序として、体脂肪量の増加に伴うアディポカイン分泌の変化が関与している可能性が-----

## **筋力と筋持久力に対するカフェインの効果をアンブレラレビューで検証**

<https://sndj-web.jp/news/003038.php> (2024/10/30)

カフェインの筋力と筋持久力に対する影響を調査した研究報告のメタ解析のメタ解析、いわゆるアンブレラレビューによる解析結果が報告された。いずれに対しても正の有意な影響が確認されたとい-----

## **グリコーゲン枯渇後の低炭水化物食と高炭水化物食とで生じる 1500m タイムトライアルの差は？**

<https://sndj-web.jp/news/003039.php> (2024/10/31)

グリコーゲンを枯渇させた状態から高炭水化物食としてグリコーゲン貯蓄量の増大を図る「グリコーゲン超回復」を行った場合と、低炭水化物食を続けた場合とで、1500m タイムトライアルのパフォーマンスや体重などに、どのような差が生じるかを検討した結果が報告された。高炭水化物食にすることで体重が有意に重くなるものの、タイムトライアルは有意に向上すると-----

## **日本人の食品の摂取頻度・嗜好と生活習慣病関連の一部に性差があることが判明 藤田医科大学**

<https://sndj-web.jp/news/003040.php> (2024/11/3)

日本人において、男性と女性の食品の摂取頻度・嗜好の違いがみられ、男性は肉、魚、清涼飲料水、アルコールを、女性は大豆、乳製品、野菜、果物、スナック菓子を摂取する傾向が強いこと、また、HbA1c、eGFR、non-HDL-Cについては、性別によって食品の摂取頻度・嗜好との関連が異なることが明らかになった。藤田医科大学の研究グループの研究成果であり、「Nutrients」に論文が掲載されるとともに、大学のサイトにプレスリリースが発表され-----

## 高用量β-アラニンで世界トップレベルの自転車ロードレース選手の上り坂パフォーマンスが向上

<https://sndj-web.jp/news/003053.php> (2024/11/7)

1回5gを1日に4回、計20gという高用量のβ-アラニンを摂取すると、ワールドツアー参加クラスのサイクリストのパフォーマンスが向上することを示すデータが報告された。著者らは、高用量を複数回に分けて摂取することが副作用を抑制し、ハイレベルのアスリートでも有用性を期待できる可能性を述べて……

## 書誌分析で明らかになった2000年以降のスポーツ・運動におけるサプリメント研究の傾向

<https://sndj-web.jp/news/003054.php> (2024/11/8)

スポーツ・運動領域でのサプリメントに関する研究の傾向についての書誌分析の結果が報告された。中国の研究者らによる論文で、国別では米国、研究機関ではオーストラリアスポーツ研究所発の論文が最多であり、掲載ジャーナルは「Nutrients」が最多であって、インスリン抵抗性、スポーツ栄養、炎症、α-リノレン酸、女性、腸内細菌叢などが現在の主要なトピックだと……

## アーモンドによる運動後の回復促進の可能性 一般成人で筋肉痛、最大トルク、CKに有意差

<https://sndj-web.jp/news/003052.php> (2024/11/11)

心血管代謝の健康に対する効果のエビデンスのあるアーモンドが、運動後の回復にも役立つことを示唆する研究結果が報告された。一般成人を対象とするクロスオーバー研究で、プラセボ条件に比べて運動負荷後の疼痛やクレアチンキナーゼの低下が速やかで、膝関節の最大トルクは高いという有意差が認められたと……

## ■ その他の食品関連科学・技術情報

### サントリーグループが廃食油由来のパラキシレンを用いたPETボトルを採用

MONOist - 2024/10/29

<https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2410/29/news065.html>

サントリーグループは 2024 年 10 月 28 日、使用済み食用油（廃食油）由来のパラキシレン（以下、バイオパラキシレン）を用いてマスバランス方式で製造した PET ボトルを、一部商品に同年 11 月以降に順次導入すると発表した。導入本数は約 4500 万本分で、280ml と 285ml の飲料用で利用-----

## 大阪ガスと Google Cloud、製造業向け「成分推定 AI システム」の共同実証を開始

IoT NEWS - 2024/10/25 <https://iotnews.jp/manufacturing/257427/>

大阪ガス株式会社と、グーグル・クラウド・ジャパン合同会社（以下、Google Cloud）は、大阪ガスのセンシング技術に、Google Cloud の AI 基盤技術を活用した、物質内の成分を推定する AI システムの開発に向けた共同実証を開始した。

これまで大阪ガスは、ガスセンシング技術、画像解析技術、非接触温度計測技術、近赤外分光分析技術などの独自のセンシング技術を開発し、食品製造時の食材の成分変化（水分、発生ガスなど）や状態変化（構造、温度など）などを、数値化・可視化する取り組みを進めて-----

## 低～高の湿度に対応する BVOH のガスバリアコーティング剤を開発、生分解にも対応

MONOist - 2024/11/7 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2411/07/news080.html>

三菱ケミカルグループは、「第 15 回 高機能素材 Week」（2024 年 10 月 29～31 日、幕張メッセ）内の「第 4 回 サステナブル マテリアル展」に出展し、開発品としてガスバリアコーティング剤「ニチゴーG ポリマー OKS-8294（以下、OKS-8294）」を披露-----

## ビールの副産物を紙コップの原料にアップサイクル

MONOist - 2024/11/6 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2411/06/news054.html>

サッポロホールディングスのグループ企業であるサッポロビールは 2024 年 11 月 1 日、静岡県のプラス産業と共同で、ビール類の製造過程で生成される副産物のモルトフィードを原料の一部に取り入れアップサイクルした紙コップ「もるたん（maltum）」を開発したと発表-----

## メルカリやヤフオクユーザー待望の「中身がぬれない紙」開発、宅配袋に加工可能

MONOist - 2024/11/1 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2411/01/news079.html>

リンテックは、「第 15 回 高機能素材 Week」で包装用の紙素材として、自然な色合いの撥水紙「未晒（みざらし）撥水ラップ CoC」や特殊機能紙「SUKEKAKE（すけかけ）ラップ CoC」、フッ素樹脂不使用の耐油紙「非フッ素耐油紙」、軟包材の紙化が可能な「ヒートシール紙（高透明タイプ）」、バイオマス素材由来のヒートシール樹脂を用いた「バイオマスヒートシール紙」を披露……

## 食品が腐ると色が変わる、持続可能な抗菌食品包装材を開発 シンガポール

サイエンスポータルアジアパシフィック（科学技術振興機構） - 2024/10/28

[https://spap.jst.go.jp/asean/news/241005/topic\\_na\\_01.html](https://spap.jst.go.jp/asean/news/241005/topic_na_01.html)

## 気温と塩分の上昇で、タマネギの根にマイクロプラスチックが蓄積 インド

サイエンスポータルアジアパシフィック（科学技術振興機構） - 2024/10/31

[https://spap.jst.go.jp/india/news/241005/topic\\_ni\\_04.html](https://spap.jst.go.jp/india/news/241005/topic_ni_04.html)

## ■ その他の科学・技術情報

### アイレットと理研、Google Cloud の AI 技術を活用した医科学研究向けデータ駆動型解析基盤を構築

IoT NEWS—2024/10/23 <https://iotnews.jp/medical-healthcare/257320/>

アイレット株式会社は、国立研究開発法人理化学研究所と共同研究契約を締結し、AI 技術とクラウドを組み合わせた、医科学研究向けのデータ駆動型解析基盤を構築したことを発表した。

この研究では、医科学研究向けの解析基盤を構築し、さまざまな種類のデータを一元管理しながら解析する環境を整え……

## ■ その他

### 医療・健康分野でも注目のメタバース、国内外の動向をまとめた報告書 2030 年のユーザー数は世界で 26 億人へ

総務省は先月末、「安心・安全なメタバースの実現に関する研究会 報告書 2024」を公表した。有識者による研究会が健全な普及に向け取りまとめたもので、メタバースの定義や用語解説などの基本情報をはじめ、市場動向、政府動向、業界団体の動向、ユーザー動向、海外動向、技術動向、利活用事例などの市場概況や、これまでに国内で公開されたセキュリティガイドラインや、メタバースのリテラシー向上を目的としたガイドブックについても概説して-----

**英文情報サイト Foodnavigator-asia に、11月11日付けで各地域関連記事を紹介する日本語版ハイライトが掲載されていましてご紹介いたします。タイトルのクリックで本文が閲覧できます。**

[代替プロテイン ウォッチ：大手の APAC における植物ベースの可能性、Swees の米ベースチーズスティック、微生物酵母タンパク質の可能性など](#)

[ポリシー ピック：EUDR の混乱と延期、WHO 乳児栄養ガイドライン、インドネシアのニュートリレベル表示などの特集を掲載](#)

[ヘルシーな選択：鮮やかな色合いの子供向け機能性飲料、韓国の酵素スティックがトレンド、減塩醤油代替品など](#)

[サイエンス ショート：Danone の技術的アクセシビリティ、PepsiCo の熱エネルギー共同研究、Pernod Ricard のデジタルラベルなど](#)

[ジャパンフォーカス：明治、エビス、台湾の食品輸出規制緩和など](#)

以上

## 健康食品等に関する

### 記事情報（日本語サイトより）2024 年 11 月号 No.2

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介いたします。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

## ○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

### ■ ピックアップ情報

「錠剤、カプセル剤等食品の原材料の安全性に関する自主点検及び製品設計に関する指針（ガイドライン）」及び「錠剤、カプセル剤等食品の製造管理及び品質管理（GMP）に関する指針（ガイドライン）」についての一部を改正する件（案）に関する御意見の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/11/22

[https://public-comment.e-](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235110008&Mode=0)

[gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235110008&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235110008&Mode=0)

### ■ 安全性関連情報

厚生科学審議会食品衛生監視部会機能性表示食品等の健康被害情報への対応に関する小委員会第3回紅麹関連製品に係る事案の健康被害情報への対応に関するワーキンググループ（持ち回り開催）資料

厚生労働省 - 2024/11/20 [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_44817.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_44817.html)

### 食品安全情報（化学物質）No. 23/ 2024（2024. 11. 13）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202423c.pdf>

別添 <https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202423ca.pdf>

（【BfR】 ナノマテリアル：微粒子が多様な特性を仲介する）

#### 全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった見出しは以下の通りです。

#### 【EFSA】 欧州食品安全機関

2. ビタミンと必須ミネラルの耐容上限摂取量の設定と適用のためのガイダンス

3. EFSA の包括的食品摂取量データベースを用いた栄養摂取量推定値に非常に影響のある、摂取頻度の低い食品を考慮することの課題：プレフォームドビタミン A の例

#### 【COT】英国毒性委員会

1. 二酸化チタンの in vitro 及び in vivo 遺伝毒性に関する COM の評価に関する声明

#### 【BfR】ドイツ連邦リスク評価研究所

1. 高濃度カフェインパウダーは少量でも重篤な中毒を引き起こす可能性がある 予想外の過剰摂取も簡単に起こりうる
2. 15 種類のパー及びポリフルオロアルキル化合物(PFAS)混合物の単回経口投与後のキネティクス—男性のボランティアにおけるパイロット研究
3. PFAS：全ての「forever chemicals（永遠の化学物質）」が体内に残留するわけではない

#### 【FDA】米食品医薬品局

3. 食品包装及び食品接触用途におけるフタル酸エステル類に関する FDA の最新情報
4. FDA はスコンプロトキシン(ヒスタミン)を産生する魚及び水産物に関するコンプライアンスポリシーガイドの最終版を発表する
5. FDA はナトリウム削減の次の段階の取り組みを開始する

## ■ 海外公的機関情報

以下は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fscis/>) の更新情報の中から、気になったものを選定しました。確認日：2024 年 11 月 15 日**

**[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)**

18. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品中の臭素化フェノール類及びそれらの誘導体類のリスク評価の更新に関する科学的意見書を公表](#)
38. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2024 年 10 月 14 日~10 月 18 日\)](#)
43. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品及び飼料のリスク評価の文脈における新たなタンパク質の毒性予測に向けた in silico 手法の開発に関する外部機関による科学的報告書を公表 \(前半 1/2\)](#)
44. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品及び飼料のリスク評価の文脈における新たなタンパク質の毒性予測に向けた in silico 手法の開発に関する外部機関による科学的報告書を公表 \(後半 2/2\)](#)
49. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、高純度のカフェイン粉末は少量でも重度の中毒を引き起こす可能性があるとの情報を公表](#)

50. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、ハチミツ中のフロニカミドに対する現行の最大残留基準値\(MRL\)の改正に関する理由を付した意見書を公表](#)
52. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、蒸留酒中の望ましくない副産物であるメタノールに関する情報を更新](#)
53. [英国毒性委員会\(COT\)、母体の食事に含有されるシトリニンに起因する潜在的リスクに関するディスカッション・ペーパーを公表 \(後半 2/2\)](#)
54. [英国毒性委員会\(COT\)、母体の食事に含有されるシトリニンに起因する潜在的リスクに関するディスカッション・ペーパーを公表 \(前半 1/2\)](#)
57. [英国毒性委員会\(COT\)、二酸化チタンの in vitro 及び in vivo における遺伝毒性に関する COM による評価についての声明を公表](#)
64. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、ビューベリシンの遺伝毒性に関する科学的意見書を公表 \(後半 2/2\)](#)
65. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、ビューベリシンの遺伝毒性に関する科学的意見書を公表 \(前半 1/2\)](#)
66. [米国環境保護庁\(EPA\)、国家検査戦略に基づき製造業で使用される PFAS についての検査命令を公表](#)
70. [スペイン食品安全栄養庁\(AESAN\)、科学委員会ジャーナルにおいて「クレアチンを成分として含む食品サプリメントの摂取に関連するリスクに関する報告書」を公表](#)
86. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2024年10月7日~10月11日\)\(前半 1/2\)](#)
87. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2024年10月7日~10月11日\)\(後半 2/2\)](#)
90. [世界保健機関\(WHO\)、食品安全に関するファクトシートを更新](#)
98. [英国食品基準庁\(FSA\)、2020年及び2021年に小売販売された食品におけるアクリルアミド及びフラン類の濃度に関する外部機関による調査報告書を公表](#)
99. [英国毒性委員会\(COT\)、食品添加物としての二酸化チタン\(E171\)の安全性に関する声明\(最終版\)を公表 \(2/3\)](#)
100. [英国毒性委員会\(COT\)、食品添加物としての二酸化チタン\(E171\)の安全性に関する声明\(最終版\)を公表 \(3/3\)](#)
101. [英国毒性委員会\(COT\)、食品添加物としての二酸化チタン\(E171\)の安全性に関する声明\(最終版\)を公表 \(1/3\)](#)

109. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、規則\(EU\) 2015/2283 の文脈における第三国由来伝統食品の認可に向けた通知及び申請に対する科学的要件に関するガイダンスを公表](#)

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

### 「大麻由来製品に含まれるΔ9-THC の標準的な分析法（案）」に関する御意見の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/11/12

<https://public-comment.e>

[gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=495240037&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=495240037&Mode=1)

### 「風味調味料の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/11/15

<https://public-comment.e>

[gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003776&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003776&Mode=1)

### 日本農林規格等に関する法律施行規則の一部を改正する省令案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/11/19

<https://public-comment.e>

[gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCM1040&id=550004017&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCM1040&id=550004017&Mode=0)

### 「日本農林規格等に関する法律施行規則の一部を改正する省令案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/11/19

<https://public-comment.e>

[gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003999&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003999&Mode=1)

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

## **富士経済、冷凍食品・農畜水産加工品などの国内市場調査、2025年予測では冷凍食品が1兆3617億円・冷凍ギョーザが704億円に**

マイライフニュース - 2024/11/13

<https://www.mylifenews.net/drink-food/70857/>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、時短・簡便性ニーズにマッチし好調が続く冷凍食品、消費者の節約志向の高まりでコスパの良い商品が伸びている一方、高付加価値商品の需要が増えているチルド調理済食品、割安感を訴求する大容量サイズから食べきりサイズへの需要シフトが進む農産加工品など6カテゴリー98品目の市場を調査した。その結果を「2025年食品マーケティング便覧 No.2」にまとめた。トピックスとして、2025年予測（2023年比）では、時短・簡便性ニーズの高まりでワンプレート型商品や簡便性を訴求した商品の需要が増加し、冷凍食品が1兆3617億円（4.4%増）を見込む。また、業務用では人手不足に対応した焼き目付きの加熱済み商品などが伸長が見込まれる冷凍ギョーザが704億円（4.3%増）に達する見通し……

## **■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)**

### **【オーガニック&ナチュラル】有機農業拡大、世界的潮流に**

健康メディア.com - 2024/11/20

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19830](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19830)

#### **有機農業拡大、世界的潮流に**

オーガニック食品の売上高は約22兆円に拡大——。世界の有機農地が拡大傾向を示している。22年は前年比26.6%増の9,640万haに。有機農家数も450万人に到達した。スイスでは一人当たり年間約7万1千円消費するのとデータも示された。こうした中、日本は市場成長率で世界2位にランクイン、今後のポテンシャルに期待が集まっている。オーガニックに対する理念の共有や転換期間中農作物の普及などが市場拡大のカギに……

### **【ウコン】関節ケア・抗疲労・美容市場にアプローチ**

健康メディア.com - 2024/11/20

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19844](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19844)

**関節ケア・抗疲労・美容市場にアプローチ、市場拡大の兆し** ドリンク製品、V字回復顕著に

関節ケア・疲労感軽減・認知機能対応・美容 —— ウコンが新たな市場形成に向けて動き出している。関節・膝ケア、疲労感軽減、記憶力・注意力の維持等については、機能性表示食品での受理実績を積み上げており、エビデンスの充実化と抜群の素材認知度が、新たな市場形成を強く後押しする。市場の中核を担う二日酔い対策、肝機能対応のドリンク製品は、コロナ禍に大きなダメージを受けたが、2022年以降、回復基調……

## **【抗糖化】海外からの視線熱く 糖化ストレスの新たな概念も**

健康メディア.com - 2024/11/20

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/19819](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/19819)

国内で「抗糖化」の関連商品が登場してから10年以上が経過し、一定の認知を獲得した糖化対策。大手では第一三共ヘルスケアダイレクトが販売する「リゲイン トリプルフォー」(指定医薬部外品)など、糖化に着目した商品開発も進む。その一方で日本以上に糖化に感心を寄せているのが海外。ここ数年は中国や台湾をはじめとしたアジア圏で抗糖化商品のニーズが広がりをみせている。先日開催された食品開発展では、台湾、韓国、中国からの来場者がブースに押しかけ、熱心に原料の話聞いていたという。海外向けに展開するメーカーによると、「日本では薬機法の観点から抗糖化を伝えるのが難しいが、中国ではもう少し踏み込んだ説明ができるので消費者が理解……

## **■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報**

**体の状態を可視化！ 「免疫チェック」を展開している明治「見える化」サービスより第二弾 腸内細菌を測定し、腸内タイプに おすすめの商品を提供「Inner Garden (インナーガーデン)」2024年12月12日から ECにて販売**

株式会社 明治 - 2024/11/21

[https://www.meiji.co.jp/corporate/pressrelease/2024/1121\\_01/index.html](https://www.meiji.co.jp/corporate/pressrelease/2024/1121_01/index.html)

株式会社 明治(代表取締役社長:松田 克也)は、明治「見える化」サービスとして、株式会社メタジェン監修(代表取締役社長 CEO:福田真嗣)による、腸内細菌を測定し腸内タイプに おすすめの素材を配合した商品を提供する、腸内タイプ別パーソナルケア「Inner Garden (インナーガーデン)」を2024年12月12日より ECにて販売し……

**NewsPicks × パナソニック、不老長寿「ロンジェビティ」の最前線を問うプロジェクト始動**

ウーマンズラボ - 2024/11/13 <https://womanslabo.com/news-women-241113-1>

経済メディアのNewsPicks とパナソニックは毎月 11 日、ロンジェビティの最前線と可能性を探るプロジェクト「ハイパーハイプト ロンジェビティ リポート」を開始した。世界の生命科学の先端研究や美容業界を中心に盛り上がりを見せている「ロンジェビティ（長寿/Longevity）」をテーマにした 2 ヶ月限定のメディアプロジェクトで、科学的かつジャーナリスト的な特集記事と、海外メディアを含めたキュレーション記事を掲載して-----

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### ユーロモニター、2025 年に注目すべき世界の消費者トレンドを公表

Euromonitor International Limited - 2024/11/14

[2025 年に注目すべき世界の消費者トレンドを公表 - Euromonitor.com](#)

東京】英国の市場調査会社ユーロモニターインターナショナル（以下、当社）は、本日、毎年世界的に大きな注目を浴びているレポート『世界の消費者トレンド』の 2025 年版を発表しました。5 つのキートrend からなる本レポートは、異なる世代の消費者層が新しい商機を生み出し、ビジネス・ダイナミクスにどのような影響をもたらしているか、そして企業が変化し続ける消費者習慣にどのように適応しているかを説明して-----

## ■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

### RCT「因果効果の異質性」検討における機械学習の利用状況を明らかに - 京大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2024/11/13 <https://www qlifepro.com/news/20241113/rct.html>

▼関連リンク・京都大学 最新の研究成果を知る

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2024-10-30-1>

特定のグループや年齢などによる因果効果の異質性検討、機械学習を多く用いる分野等は？

京都大学は 10 月 30 日、これまでに出版された医学論文情報を検索し、因果効果の異質性を調べるためにどのような機械学習手法が使われているのかを明らかにしたと発表した。この研究は、同大学院医学研究科の井上浩輔准教授（社会疫学、白眉センター）、近藤尚己教授、同大成長戦略本部の古川壽亮教授、ハーバード大学公衆衛生大学院の安富元彦博士課程学生らの研究グループによるもの。研究成果は、「Journal of Clinical Epidemiology」にオンライン掲載されて-----

### ロートグループ独自素材「グロビン蛋白分解物（メタップ®）」に飲酒する方、中性脂肪が高めの方の「肝臓保護効果」があることを確認

ロート製薬株式会社 - 2024/11/8

[https://www.rohto.co.jp/research/researchnews/technologyrelease/2024/1107\\_01/](https://www.rohto.co.jp/research/researchnews/technologyrelease/2024/1107_01/)

ロート製薬株式会社（本社：大阪市、社長：杉本雅史）は、ロートグループ経営総合ビジョン「Connect for Well-being」の実現に向けて、機能性食品の研究を進めています。今回、ロートグループであるエムジーファーマ株式会社（本社：茨木市、社長：墨田康男、以下「エムジーファーマ」）の独自素材であるグロビン蛋白分解物（メタップ®）の研究を進めた結果、臨床試験において新たに中性脂肪が高めの方、飲酒する方の肝臓保護効果があることを確認しました。本研究成果は、「診療と新薬（2024年9月28日付）」に掲載され---

## **トラネキサム酸が皮膚の角層水分量を増加することを確認**

MONOist - 2024/11/14 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2411/14/news011.html>

第一三共ヘルスケアは2024年10月28日、トラネキサム酸の新たな作用を調査する臨床試験を実施し、トラネキサム酸が皮膚の角層水分量を増加させることを確認したと発表した。臨床試験は、40～60代の健常な日本人女性を対象に実施した。被験者の顔の左右に、トラネキサム酸を配合した製剤またはトラネキサム酸の代わりに水を配合したプラセボ製剤をそれぞれ12週間塗布し、角層水分量の変化を比較-----

## **マクニカとJR東海、新幹線運転士の脳波を測定・解析し運転士の集中度・覚醒度計測する実証実験を実施**

IoT NEWS - 2024/11/20 <https://iotnews.jp/medical-healthcare/258302/>

株式会社マクニカは、東海旅客鉄道株式会社（以下、以下JR東海）と共に、脳波解析による運転士の集中度・覚醒度計測の実証実験を実施したことを発表した。この実証実験の目的は二つある。一つ目は、脳波測定結果を用いて新幹線運転士の集中度や覚醒度を可視化することだ。二つ目は、得られたデータを基に、安全な運行に求められる集中度や覚醒度のメカニズムを解明するとともに、状態を改善する効果的な手法を確立すること-----

## **新たな「筋質」指標から見る骨格筋老化の実態**

早稲田大学 - 2024/11/18 <https://www.waseda.jp/fsp/rcsports/news/2024/11/18/1924/>

### **概要**

高齢者と若者の間では、大腿中央部に存在する筋内非収縮要素の割合に顕著な差が見られた一方で、収縮要素（筋組織）自体の力発揮能力に差はないことが明らかとなり-----

## 新たな肥満や糖尿病治療法の開発に期待、熊本大が肝臓由来のタンパクに褐色脂肪組織の活性化作用を発見

マイナビニュース - 2024/11/13

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20241113-3063730/>

以下の一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事は、2024年11月13日～11月22日掲載分から選定したものです。

## 「隠れ肥満」の人への栄養・運動介入の効果を比較してわかったこと システマティックレビュー

<https://sndj-web.jp/news/003061.php> (2024/11/13)

顕著な肥満ではないにもかかわらず健康への悪影響が生じ得る人に対する栄養・運動介入の効果に関する、システマティックレビューの結果が報告された。体脂肪を減らすという点では高強度インターバルトレーニングと高タンパク食が最も有効であり、摂取エネルギー制限は体重が減るものの除脂肪量も減少しやすいと-----

## 筋トレと時間制限食を並行すると、筋トレだけに比べて体重や代謝面でプラス効果を得られる

<https://sndj-web.jp/news/003063.php> (2024/11/15)

手軽な食事療法として人気の時間制限食を筋トレと並行すると、ふつうの食事スタイルのまま筋トレをするのに比べて、体重や脂肪量が大きく減り、糖・脂質代謝にも良い影響が現れることを示す、メタ解析の結果が報告された。一方、筋肉量や筋力には、有意な差はみられないと-----

## 十代の体力低下は「加糖飲料」「スクリーンタイム」が関連か 中国で8千人超の13～18歳を横断研究

<https://sndj-web.jp/news/003065.php> (2024/11/18)

加糖飲料の摂取頻度が高いこととスクリーンタイムが長いことが、十代の未成年の体力に対して、相加的に負の影響を及ぼしていることを示すデータが報告された。中国で行われた横断研究の結果であり、体力テストの結果が下位に属するオッズ比が、男子では最大で約3倍になると-----

## 蜂蜜で甘くした飲み物が女性ボディービルダーの運動後の筋肉痛とパフォーマンスの回復を促進

<https://sndj-web.jp/news/003068.php> (2024/11/19)

蜂蜜で甘くした飲料が、運動誘発性筋損傷による筋肉痛を軽減し、パフォーマンスの回復を促すことを示唆するデータが報告された。ヨルダンとイランの研究者による、女性ボディービルダー対象二重盲検試験による……

## 筋肉増強には炭水化物が大切？ 国内大学サッカー選手のプロテインサプリメント利用調査からの知見

<https://sndj-web.jp/news/003073.php> (2024/11/20)

国内の大学サッカー選手のプロテインサプリメントの利用と、除脂肪体重指数（FFMI）や栄養素摂取量との関連を調査した結果が報告された。サプリ利用者は運動によるエネルギー消費が有意に多いことや、FFMIが高い選手は炭水化物摂取量が多い傾向のあることなどが示されている。京都府立大学大学院生命環境科学研究科の小林ゆき子氏らの研究によるもので、「Physical Activity and Nutrition」に論文が掲載され……

## ■ その他の食品関連科学・技術情報

### シノプス、食品製造業向け需要予測型自動発注サービス「sinops-CLOUD M」の提供を開始

IoT NEWS - 2024/11/15 <https://iotnews.jp/manufacturing/258200/>

食品製造の工程では、食材に加え、パックやバランなどの包装資材が必要となるため、それらが生産計画に対してどれくらい必要かを考え、適切に準備する必要がある。

さらに、複数の種類の商品を取り扱う場合には、各商品ごとに原材料や包装資材の必要数を把握し、過不足なく発注や在庫管理を行う必要がある。

しかし、「発注」と「在庫」は今でも FAX 注文や、手書き伝票が使用されるなど、人の経験と勘に頼って行われるケースも多く、結果、過剰在庫や機会ロス、廃棄ロスの発生などの課題が……

### 白いイチゴの精度を非破壊で推定可能に！ - 名大が高精度推定技術を確立

マイナビニュース - 2024/11/19

## ■ その他

### 国内初の活動量計を用いた調査、推奨身体活動量の達成率は男性より女性が低く 4.5 割

ウーマンズラボ - 20224/11/13 <https://womanslabo.com/news-women-241114-2>

国が推奨する身体活動量の達成率は、男性より女性が低いことが「活動量計による身体活動・スポーツの実態把握調査」の報告書で明らかになった。笹川スポーツ財団と明治安田厚生事業団が共同実施した調査によるもので、活動量計を用いた身体活動量の実測と合わせ、質問票によるアンケートでスポーツ実施状況等を調べ-----

### ユニリーバなど 10 社「プラ生産・使用に世界共通ルールを」

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」（無断転載を禁じます） - 2024/11/18  
<https://www.alterna.co.jp/139252/>

#### 記事のポイント

1. プラ条約の制定に向けた政府間交渉委員会第 5 回会合韓国・釜山で開かれる
  2. それに先立ち、日本の企業連合が小泉進次郎・衆議院議員らと意見交換を行った
  3. 企業はプラの生産や使用制限に関して、世界共通のルールづくりを進めるように求めた
- 以上

## 健康食品等に関する

### 記事情報（日本語サイトより）2024 年 12 月号 No.1

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

## ○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

## ■ ピックアップ情報

スルーして頂きたい記事情報を、編者の見識・感性（多少の思い入れ）に基づきピックアップしたセクションとご理解下さい。

### 「健康的な食事とは何か？」国連食糧農業機関（FAO）と世界保健機関（WHO）が共同声明を発表

スポーツ栄養 Web - 2024/12/3 <https://sndj-web.jp/news/003089.php>

国連食糧農業機関（FAO）と世界保健機関（WHO）は10月24日、「健康的な食事とは何か？（What are healthy diets?）」というタイトルの共同声明を発表した。「適切（Adequate）」、「バランスがとれている（Balanced）」、「適度（Moderate）」、「多様（Diverse）」という四つの視点で、健康的な食事を定義している。内容を抜粋して紹介...

### 食品事業の既存商品において、おいしさを追究しながら塩分量見直しに取り組む「塩分過多解決への挑戦」を宣言

～麻布「和敬」竹村竜二氏を迎え

“塩分調整とおいしさの極意”を探究する試食会を開催～

江崎グリコ株式会社 - 2024/11/29

<https://www.glico.com/jp/newscenter/pressrelease/46736/>

江崎グリコ株式会社は、現代社会における栄養課題の一つ「塩分過多」の解決に向けた取り組みとして、塩分調整対応したシリーズ商品を新たに発売するのではなく、食品事業の既存商品すべてにおいて、おいしさを追究しながら食塩相当量をWHO基準の「1日5.0g未満」をベースに、「1食1.5g以下」に見直す宣言をしま-----

## ■ 安全性関連情報

### [COT]ターメリックとクルクミンサプリメントのヒト健康リスクの可能性についての声明

野良猫 食情報研究所 2024年12月10日掲載分より

<https://foodnews.hatenadiary.com/entry/2024/12/10/114931>

## 追記

**COT：英国毒性委員会**

**野良猫 食情報研究所：畝山智香子氏が国立医薬品食品衛生研究所安全情報部長を退任後に運営。**

## 食品安全情報（化学物質）No. 24/ 2024（2024. 11. 27）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202424c.pdf>

## 全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

**気になった見出しは以下の通りです。**

### 【FAO】国際連合食糧農業機関

1. 不健康な食事パターンが、世界の農業食料システムに年間 8 兆ドルの隠れたコストをもたらす

### 【EFSA】欧州食品安全機関

1. サッカリン：許容一日摂取量の引き上げ
2. 食品及び飼料のリスク評価における新規タンパク質の評価を支援する技術的工程の調査

### 【COT】英国毒性委員会

1. 食品添加物としての二酸化チタン（E171）の安全性に関する声明

### 【FDA】米国食品医薬品局

2. FDA が任意適格輸入業者プログラム（VQIP）のガイダンスを更新する

## ■ 海外公的機関情報

以下は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム** (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報の中から、気になったものを選定しました。確認日：11月28日

**見出しのクリックで内容をご覧ください。**

12. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、ビタミン類及び必須ミネラル類に関する耐容上限摂取量の設定及び適用に用いるガイダンスに関する科学的意見書を公表](#)
14. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品及び飼料のリスク評価の文脈における\(新たな\)タンパク質に向けた in vitro 毒性学的試験手法の特定に関する外部機関による科学的報告書を公表 \(前半 1/2\)](#)

16. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品及び飼料のリスク評価の文脈における\(新たな\)タンパク質に向けた in vitro 毒性学的試験手法の特定に関する外部機関による科学的報告書を公表 \(後半 2/2\)](#)
23. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品添加物ステビオール配糖体\(E 960a-d\)の用途認可の拡張、及びステビオールに関する許容一日摂取量\(ADI\)の変更に関する科学的意見書を公表](#)

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

### 食品関連企業の海外展開に関するセミナーを開催します！

農林水産省 - 2024/11/28

[https://www.maff.go.jp/j/press/yusyutu\\_kokusai\\_chiiki/241128.html](https://www.maff.go.jp/j/press/yusyutu_kokusai_chiiki/241128.html)

～環境規制に関する国際的な動向や対応事例をご紹介～

農林水産省は、12月12日（木曜日）に、食産業の海外展開に関するセミナーを開催します。今回のセミナーでは、近年の環境規制をめぐる状況をテーマとして、国際的な動向について有識者にご講演をいただくとともに、これらの規制に対応した海外現地でのビジネス展開の事例等について食品関係企業等から発表していただき……

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

### 2025年問題に向け「シニア」カテゴリーを新設、未来の市場をつくる100社（2025年版）発表

ウーマンズラボ - 2024/12/3 <https://womanslabo.com/market-241203-1>

マーケティング&イノベーション専門メディアの『日経クロストrend』が、「未来の市場をつくる100社（2025年版）」を発表した。2019年より毎年12月に実施する恒例企画で、ベンチャーキャピタルをはじめとした各界の識者への取材や、『日経トレンドィ』が11月に特集する「スタートアップ大賞2024」の登場企業を含めリストアップした約300社の中から、「新しい市場＝新規性」「売れる＝成長期待」「生活の変化＝社会インパクト」の3つの視点で評価し、100社を選出する……

### フェムテック&フェムケア市場は一服感も、前年比108%で750億円へ拡大 カテゴリー別の動向

ウーマンズラボ - 2024/12/2 <https://womanslabo.com/market-241201-1>

矢野経済研究所の先月の発表によると、2023年のフェムケア&フェムテックの市場規模は、前年比108%で750億5,400万円へ拡大。2020年の599億4,800万円から毎年順調に拡大しており今後も拡大基調の見込みではあるが一服感は否めず、この先の伸長率は落ち着いていくという。市場調査を担当した同社の清水由起氏と片岡杏子氏に、カテゴリー別の現況と今後の展望について話を聞いて……

## **【開催報告】健康食品市場の最新動向と今後の展望 2024~2025**

ウーマンズラボ - 2024/12/9 <https://womanslabo.com/news-women-241209-1-2>

当メディア運営のウーマンズは今日、「健康食品市場の最新動向と今後の展望」をテーマにした勉強会を開催しました。当日は医薬品メーカー、健康食品メーカー、BtoB支援サービス、総合商社、コンサルティング事業者、業界紙の方々にご参加いただきました。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。本稿では、開催報告として勉強会の概要をお伝え……

## **■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)**

### **【スポーツニュートリション】エビデンス素材が多数**

健康メディア.com - 2024/12/3 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/20128](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20128)

#### **定番から新規成分までエビデンス進み、スポーツ用途の提案活発**

アミノ酸をはじめとした定番素材から新規素材まで、スポーツ領域における素材開発、提案が活発だ。背景には、運動・健康意識の高まりから近年、アスリートだけでなく、スポーツ愛好家や健康美を望む女性、アクティブシニアなど、ユーザーの裾野が拡大していることが挙げられる。原料メーカー各社では、運動パフォーマンスの向上、筋力や持久力、集中力の維持・向上、疲労感軽減、関節・骨折ケア、運動継続のモチベーション向上など、様々なエビデンスデータをもとに、積極的な用途提案を展開。熱中対策や貧血予防などが期待できる素材もニーズが高まっ……

### **【プラセンタ】伝統素材に新たな風**

健康メディア.com - 2024/12/3 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/20125](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20125)

50年近く利用され続けるプラセンタは、安定的な市場形成を維持している。ブタ・ウマ由来以外にもエクソソーム含有プラセンタなど+αの要素が加わり、大手化粧品メーカーの採用やエステサロンの利用が進み市場拡大の兆しも見えてきた。体感性と美容素材として認知度の高さとで支持されているプラセンタは睡眠や更年期サポートなどのエビデンス研究が加

速し利用の幅も広がっている。海外では、国産ウマプラセンタが東南アジアで注目されるなど需要拡大が期待-----

## **【ペットサプリ】差別化進むペットケア**

健康メディア.com - 2024/12/3 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/20120](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20120)

コロナ過を経て犬・猫の新規飼育数が落ち着きを見せる一方、犬や猫のエイジングケア、QOL 向上に費用を掛ける飼い主は増えている。乳酸菌や冬虫夏草、グルコサミンなどの定番素材に加え、NMN や CBD など新規成分の利用も進む。ペット向けの BtoB の展示会は年々拡大傾向にある。また、犬・猫以外のエキゾチックアニマルの飼育数が増えており、新たな市場を形成する可能性も出てきた。新規参入が増える中、エビデンスや販売ルート、対象動物を絞った各社の提案が期待-----

## **■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報**

産官学民連携で健康長寿社会の実現を目指す

### **フレイル予防推進会議に参画し普及啓発活動を推進**

キューピー株式会社 - 2024/11/22 <https://www.kewpie.com/newsrelease/2024/3538/>

キューピー株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役 社長執行役員：高宮 満、以下キューピー）は、2024 年 7 月 24 日に設立された「フレイル予防推進会議」に参画し、自治体や産業界と連携してフレイル予防の普及啓発活動を推進していきます。本日「第 2 回フレイル予防推進会議総会・シンポジウム」が開催され、フレイル予防の普及啓発宣言が発信され-----

### **ヤクルトが「ISCC PLUS 認証」を活用したプラ製容器包装を導入**

MONOist - 2024/12/3 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2412/03/news047.html>

ヤクルト本社は 2024 年 11 月 29 日、持続可能な製品の国際的な認証制度の 1 つである「ISCC PLUS 認証」を活用し、マスバランス方式で持続可能性に配慮し製造されたプラスチック製容器包装（容器、ラベル、フィルム）の導入を同年 12 月以降に開始すると発表し-----

### **腸内環境検査ガイドライン策定による検査品質・業界の信頼性向上を目指し、業界団体「一般社団法人腸内環境ヘルスケア協会」を設立しました**

株式会社サイキンソー - 2024/12/5 [https://cykinso.co.jp/news/20241205\\_2](https://cykinso.co.jp/news/20241205_2)

サイキンソーは、腸内環境検査業界の発展と信頼性の向上を目的とする業界団体「一般社団法人腸内環境ヘルスケア協会」を2024年10月23日付けで設立しましたことをお知らせいたします。

代表理事兼発起人としてサイキンソーと株式会社メタジェンが、理事として株式会社テクノスルガ・ラボ、カルビー株式会社、株式会社ダイセルが参画し、業界の発展を目指して活動を本格的に開始いたします。

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### 女性の野菜の摂取量、過去最小に 厚労省の「国民健康・栄養調査」で明らかに 2024年発表

ウーマンズラボ - 2024/11/28 <https://womanslabo.com/news-women-241128-2>

厚生労働省が今月25日に公表した「2023年国民健康・栄養調査」で、野菜の摂取量が男女ともに過去最小になったことがわかった。

調査は2023年11月に6,014世帯を対象に実施。肥満や糖尿病などの身体状況、食塩摂取量や食習慣改善の意思など栄養・食生活に関する状況、運動習慣や睡眠、飲酒、喫煙、口腔の健康などについて性別・年代別に調べた。

野菜の摂取量は一日あたり350gが目標値として設定されているが、成人女性の野菜の摂取量の平均は250.6g、成人男性は262.2gだった。若年層の摂取不足が目立ち、女性の年代別では、20代が最も少なく211.8g。年齢の上昇とともに増加し、最多は70歳以上で279.6gで、全年代で目標値に達していない状況が明らかと-----

### [31603] プロテインに関するアンケート調査（第2回）

マイボイスコム - 2024年11月

[https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product\\_id=31603](https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=31603)

### [31601] 食用油に関するアンケート調査（第4回）

マイボイスコム - 2024年12月

[https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product\\_id=31601](https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=31601)

## ■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

## 生体外でヒト皮膚細菌叢を再現、培養法を開発—東京理科大

QLifePro 医療ニュース - 2024/11/27

<https://www qlifepro.com/news/20241128/tsbc.html>

▼関連リンク・東京理科大学 プレスリリース

[https://www.tus.ac.jp/today/archive/20241120\\_9578.html](https://www.tus.ac.jp/today/archive/20241120_9578.html)

### 生体外での皮膚常在細菌叢培養、人工的にバランスを維持しての再現は困難だった

東京理科大学は11月20日、皮膚常在細菌叢のバランスを維持したまま培養できる「東京理科大学皮膚常在細菌共培養培地（TSBC）」を開発したと発表した。この研究は、同大学院創域理工学研究科生命生物科学専攻の山元郁弥氏（2024年度修士課程2年）、同大学院創域理工学部生命生物科学科の倉持幸司教授、古山祐貴助教の研究グループによるもの。研究成果は、「Alternatives to Animal Testing and Experimentation」に掲載されて……

## サルコペニア肥満予備群、体成分で簡便にスクリーニングする方法開発—阪大

QLifePro 医療ニュース - 2024/12/3

<https://www qlifepro.com/news/20241203/sarcopenic-obesity.html>

▼関連リンク・大阪大学 ResOU

[https://resou.osaka-u.ac.jp/ja/research/2024/20241128\\_1](https://resou.osaka-u.ac.jp/ja/research/2024/20241128_1)

### 早期サルコペニア肥満、通常の健診ではリスクが見落とされる可能性

大阪大学は11月28日、サルコペニア肥満（sarcopenic obesity：SO）予備群のスクリーニング法を新たに見出したと発表した。この研究は、同大キャンパスライフ健康支援・相談センターの石橋千咲助教、中西香織准教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Scientific Reports」に掲載されて……

## 【名城大学】ニンニクやタマネギなどに含まれる成分が、調理過程でトランス脂肪酸の生成を促進する事実とその抑制方法を発見！

大学プレスセンター - 2024/12/6 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-55159.html>

株式会社ニッスイの小尾純志 研究員と名城大学大学院総合学術研究科の本田真己 准教授らのグループは、ニンニクやタマネギ、ブロッコリースプラウトなどに含まれる含硫化合物（ポリスルフィド類、イソチオシアネート類）が、加熱調理の過程で心疾患のリスクを増大するトランス脂肪酸の生成を促進することを発見しました。そして、このトランス脂肪酸の生成は、調理の工夫（抗酸化成分を多く含む油脂の使用や低温調理）で抑制できることを明らかにしま……

## 緊張時の腹痛 殺菌乳酸菌摂取で予防 東京農工大学と摂南大学・コンビが発見

大学ジャーナルオンライン - 2024/11/22 <https://univ-journal.jp/250036/>

東京農工大学大学院農学研究院の永岡謙太郎教授と摂南大学農学部の井上亮教授、ベビー用品のコンビは、緊張時に腹痛を起こす人が1週間前からパラプロバイオティクス(殺菌乳酸菌 EC-12)を飲むと、腹痛を予防できることを発見……

## 【東京医科大学】炎症性腸疾患のヒト腸内細菌・ファージ・真菌の同定と世界共通性を発見

大学プレスセンター - 2024/11/29 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-55088.html>

東京医科大学（学長：宮澤啓介／東京都新宿区）消化器内視鏡学分野の永田尚義 准教授、河合隆 主任教授、筑波大学 医学医療系消化器内科の秋山慎太郎 講師（筑波大学附属病院 IBD センター副部長）、土屋輝一郎 教授（筑波大学附属病院 IBD センター部長）、および国立国際医療研究センター 消化器内科の小島康志 医長、大杉満 糖尿病情報センター長、植木浩二郎 糖尿病研究センター長、上村直実 国府台病院名誉院長らの研究グループは、潰瘍性大腸炎およびクローン病患者に特有の腸内細菌叢、機能代謝遺伝子叢、抗生剤耐性遺伝子叢、腸内ファージ叢、腸内真菌叢（これらを総称してマルチバイオームと呼ぶ）を同定し……

## 児童期は年齢や季節によって皮膚のバリア機能が成人より低下することを確認 特に幼児～学童期は抗酸化機能が低下してストレスを受けやすい状態に — 児童期の肌状態を独自の角層中タンパク質測定技術を用いて調査 —

株式会社ファンケル - 2024/11/26

[https://www.fancl.jp/news/20240103/news\\_20240103.html](https://www.fancl.jp/news/20240103/news_20240103.html)

株式会社ファンケルは、児童期の肌状態と年齢やスキンケアの習慣による肌変化を確認するため、3歳から18歳の子どもとその親（成人）を対象に、肌の機器測定や独自の角層中タンパク質測定、アンケート調査を実施しました。

その結果、児童期は年齢や季節によってバリア機能が成人より低下していること、特に、3～12歳の幼児～学童期は抗酸化機能も低いことが分かり、酸化ストレスを受けやすいことが示唆されました。また、13～18歳では、ホルモンバランスの崩れによる皮脂量の増加だけでなく、ニキビに関わる角層中のタンパク質の指標も増加していることを見だし、さらに発生リスクはスキンケア習慣で軽減できる可能性まで確認しましたので、それらをお知らせします。

なお、本研究結果は、第 88 回 日本皮膚科学会東部支部学術大会（2024 年 9 月開催／  
於：宮城県仙台市）にて発表し-----

## 生体内の酸化還元反応における"電子の運び屋"役のタンパク質エネルギー獲得のための生物共通の電位制御の仕組みを解明—水素原子 1 つが司る"ナノスイッチ機構"の発見—

大学プレスセンター - 2024/12/2 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-55096.html>

茨城大学応用理工学野の海野昌喜 教授、宮崎大学医学部の和田啓 教授、大阪大学大学院基礎工学研究科の北河康隆 教授を中心とする東京薬科大学・久留米大学・CROSS・JASRI の研究者らとの共同研究グループは、すべての生物がエネルギー獲得のために必要な酸化還元反応における「電子の運び屋」タンパク質の電位コントロールの仕組みを明らかにしました。大強度陽子加速器施設（J-PARC）内の物質・生命科学実験施設（MLF）の茨城県生命物質構造解析装置（iBIX）を使った実験を基に水素原子を含めた精密な立体構造を決定し、そのデータを使った理論計算により鉄硫黄クラスターの電子状態を可視化しました。その結果、鉄硫黄クラスターの電位は、水素原子一つの有無によって劇的に変化する、いわば“ナノスイッチ”機構があることを初めて明らかにしました。

本研究成果は 2024 年 11 月 15 日に国際科学誌『eLife』（オンライン）に Preprint 版が掲載され-----

**以下の一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事は、2024 年 11 月 22 日～12 月 10 日掲載分から選定したものです。**

## 睡眠に影響を及ぼさないカフェインの摂り方 無作為化交差試験によるエビデンス

<https://sndj-web.jp/news/003072.php> (2024/11/27)

カフェインは、日常生活において眠気を抑えたり、集中力を高めたりする目的で広く用いられており、さらにアスリートではスポーツパフォーマンスを高めるために多用されている。しかし、カフェインの覚醒作用が夜間には負の影響となり、眠りたいのに眠れないということが起こる。そのようなリスクを最小限に抑えるためのカフェインの上手な摂り方を検討した研究結果が発表-----

## 緑茶を飲んで運動すると減量の効率が上がる可能性 体重、BMI、体脂肪量で有意差

<https://sndj-web.jp/news/003085.php> (2024/12/5)

減量目的で運動をするなら緑茶を飲みながらしたほうが、わずかながらもより高い効果を期待できるかもしれない。システマティックレビューとメタ解析の結果、体重やBMI、体脂肪量に関して有意な差が認められたという。一方、脂質関連プロファイルには有意差がみられないとのこと-----

## コラーゲンペプチドは筋損傷や疲労の回復にどのくらい有効なのか？ システマティックレビュー

<https://sndj-web.jp/news/003086.php> (2024/12/6)

コラーゲンのサプリメントによる筋損傷や疲労からの回復を促進するのかという疑問に関する、システマティックレビューの結果が報告された。メタ解析はされていないが、有効性は支持されると著者らは述べている。ブラジルの研究者の-----

## ■ その他の食品関連科学・技術情報

食べなくてもマーガリンの食感がわかる！

### マーガリンの食感を左右する乳化状態などの微細構造を定量的に評価する解析技術の開発

雪印メグミルク株式会社 - 2024/11/26 <https://www.meg-snow.com/news/2024/24847/>

国立研究開発法人 産業技術総合研究所（以下「産総研」という）先端フォトニクス・バイオセンシングオープンイノベーションラボラトリ テイラー ジェームス 主任研究員、畔堂 一樹 招聘研究員、藤田 聡史 副ラボ長、大阪大学大学院工学研究科 藤田 克昌 教授、雪印メグミルク株式会社 塚越 詩織 研究員、田中 礼央 主査は、ラマンイメージングと機械学習でマーガリンの品質や乳化状態を化学的な定量性に基づき評価する解析技術を開発しました。

今回開発した解析手法は、マーガリンの口どけなどの制御だけでなく、品質管理、商品改良などを行う際の実用的な品質評価技術として利用することが期待されます。また、マーガリンのみならず、一般に液体成分が多く含まれる食品の検査や、製薬やその他の分野でも強力なツールになると考えられます。

なお、この技術の詳細は、2024年11月20日に「Food Chemistry」に掲載され-----

### 米麴から作る砂糖代替甘味料「オリゼソース」に難消化性タンパク質が高濃度に含有。「罪悪感のない"甘いしあわせ"」に加え、「腸活や角質

## 水分量を高める効果」も期待。株式会社オリゼと金沢工業大学尾関研究室との共同研究で

大学プレスセンター - 2024/12/6 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-55135.html>

## 農研機構など、湯戻し時間を5分まで短縮した米粉即席麺の開発に成功

マイナビニュース - 2024/12/6 <https://news.mynavi.jp/techplus/article/20241205-3078497/>

## ■ その他の科学・技術情報

### PETを高効率で分解するケミカルリサイクル技術を開発、廃繊維中のPETも循環可能に ～混紡繊維中のPET分解率が世界最高値の90%、ペットボトルのPET 分解量が28倍に向上～

キリンホールディングス株式会社 - 2024/11/25

[https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/release/2024/1125\\_03.html](https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/release/2024/1125_03.html)

キリンホールディングス株式会社（社長 COO 南方健志、以下キリン）のキリン中央研究所（所長 矢島宏昭）、国立大学法人静岡大学（学長 日詰一幸）農学部（以下静岡大学）、大学共同利用機関法人 自然科学研究機構（機構長 川合眞紀）分子科学研究所（以下NINS）および国立大学法人大阪大学（総長 西尾章治郎）蛋白質研究所（以下大阪大学）は共同で、ケミカルリサイクル技術の一つである「酵素分解法」で用いる「PET分解酵素」を改変し、PETを高効率で分解できる酵素の開発に成功-----

### 細胞の老化を高感度に可視化する画期的なラマン顕微画像化法を開発— 変性タンパク質を指標とした、新たな非染色可視化法—

2024/12/6

慶應義塾大学 <https://www.keio.ac.jp/ja/press-releases/2024/12/6/28-163814/>

愛知医科大学

国立大学法人筑波大学

慶應義塾大学理工学部の加納英明教授、愛知医科大学医学部の猪子誠人講師、筑波大学大学院応用理工学学位プログラム博士後期課程3年次の石橋茂雄らを中心とする医理工複合研究チームは、ラマン散乱と呼ばれる特殊な光学現象を用いて、細胞の老化を標識物質なしで可視化する顕微観察方法を共同開発し-----

## ■ その他

## 環境省がグリーンウォッシュ対策強化、来年度予算要求へ

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」（無断転載を禁じます） - 2024/11/28

<https://www.alterna.co.jp/140322/>

### 記事のポイント

1. 環境省は2025年度の予算要求に「グリーンウォッシュ」対策を盛り込む
2. サービスの環境表示に関する「ガイドライン」を13年ぶりに改訂する
3. 「根拠のない環境表示」は景表法が禁止する「不当表示」になる可能性も

以上

## 健康食品等に関する

### 記事情報（日本語サイトより）2024年12月号 No.2

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介いたします。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

**記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。**

## ○ 記事一覧

**基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。**

## ■ 安全性関連情報

### 食品安全情報（化学物質）No.25（2024.12.11）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202425c.pdf>

別添（二酸化チタン：健康リスクはあるか？）

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202425ca.pdf>

## 全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった見出しは以下の通りです。

### 【FAO】国際連合食糧農業機関

2. 最近の新興食品包装代替品：化学的安全性リスク、現行規制、分析上の課題

### 【ECHA】欧州化学物質庁

1. ECHA と欧州 5 カ国、PFAS 規制に関する進捗状況を発表

### 【FSA】英国食品基準庁

1. 缶コーティングの安全性評価
2. ブログ：缶詰ツナの水銀について心配すべきか

### 【BfR】ドイツ連邦リスク評価研究所

1. 食品及び飼料に含まれる化学物質のリスク評価：国際的な取り組み
2. 単なる昆虫ではない：代替タンパク質源が従来の飼料や食品を補完する
6. フードサプリメントに含まれるメラトニン：「優しい睡眠補助薬」ではない

### 【FDA】米国食品医薬品局

1. FDA が魚介類に含まれる PFAS に関する情報提供を要請する
2. FDA は小売食品店及び食品サービス施設向けのアレルゲン表示に関するウェビナーを開催する
3. FDA は食品中の化学物質の市販後評価のための強化された体系的プロセスの開発に関するパブリックミーティングを開催

### 【EPA】米国環境保護庁

1. EPA は PFAS に取り組み、水に含まれる新興汚染物質を特定する新たなイニシアチブを立ち上げる

## ■ 海外公的機関情報

以下は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fscis/>) の更新情報の中から、気になったものを選定しました。確認日：2024年12月11日

[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

3. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、海産物中の PFAS に関する情報提供依頼\(RFI\)を公表](#)
4. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、従来の食品や飼料を補完する、昆虫以外の代替タンパク質源に関する国際会議の情報を公表](#)
5. [フランス食品環境労働衛生安全庁\(ANSES\)、細胞代謝を追跡して物質の毒性を評価する研究を紹介](#)

9. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、クレアチンと認知機能における改善・健康強調表示の評価に関する科学的意見書を公表](#)
19. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品添加物としてのサッカリン及びそのナトリウム塩、カリウム塩及びカルシウム塩の再評価に関する科学的意見書の平易な言葉による要約を公表](#)
20. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品添加物としてのサッカリン及びそのナトリウム塩、カリウム塩及びカルシウム塩\(E 954\)の評価に関する科学的意見書を公表](#)
28. [オーストリア保健・食品安全局\(AGES\)、優先活動「水産物及び魚介類に含まれる汚染物質」に関する最終報告書を公表](#)
31. [オーストリア保健・食品安全局\(AGES\)、優先活動「発芽種子及びスプラウトの微生物学」に関する最終報告書を公表](#)
43. [英国毒性委員会\(COT\)、母体の食事におけるラズベリー・リーフ茶の潜在的な健康影響に関する声明を公表](#)

## ■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

### インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示に対する改善指導について（令和6年7月～9月）

消費者庁 - 2024/12/13

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/extravagant\\_advertisement/assets/representation\\_cms213\\_241213\\_01.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/extravagant_advertisement/assets/representation_cms213_241213_01.pdf)

消費者庁は、令和6年7月から9月までの期間、インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示の監視を実施しました。

この結果、インターネットにおいて健康食品等を販売している127事業者による152商品の表示について、健康増進法第65条第1項の規定に違反するおそれのある文言等があったことから、これらの事業者に対し、表示の改善指導を行うとともに、当該事業者がショッピングモールに出店している場合には、出店するショッピングモール運営事業者に対しても、表示の適正化について協力を依頼しました。

-----

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

### 食品表示基準等の一部改正案に関する意見募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/12/24

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235080078&Mode=0>

## 健康増進法に規定する特別用途表示の許可等に関する内閣府令の一部を改正する内閣府令（案）等に関する意見募集の結果について（概要）

e-Gov パブリック・コメント - 2024/12/10

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=235080077&Mode=1>

## 「候補成分のスイッチ OTC 化に係る検討会議での議論」に関する御意見の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/12/13

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495240263&Mode=0>

## 持続可能性に配慮した鶏卵・鶏肉の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/12/17

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550004032&Mode=0>

## みその日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2024/12/17

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550004033&Mode=0>

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は、特に見当たりませんでした。

## ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）

### 【疲労対策】機能性表示 1,000 品超

健康メディア.com - 2024/12/18

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/20144](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20144)

約8割の人が疲れを感じているとする調査結果が示された。高頻度で疲れを感じる人は50%を越え、男女とも30代が最も高い割合に。疲労に深い関わりをもつ中途覚醒の割合も高まっている。こうした中、疲労をテーマとする機能性表示食品は「仕事や勉強などによる一時的な精神的ストレスや疲労感緩和」「良質な睡眠（起床時の疲労感・眠気軽減）」「日常生活で自覚するストレスの減少」など、今年は累計1,000品目を超え……

## **【健康茶】味・風味に+αで市場深耕**

健康メディア.com - 2024/12/19

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/20139](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20139)

今年の健康茶市場は、美容・ダイエット訴求の黒豆茶やあずき茶、ルイボスティー、腸活訴求のごぼう茶の需要が目立った。このほか、ハーブティーは、カフェインコントロールやナチュラル志向が需要を後押し。「ノンカフェイン」「人工甘味料不使用」を謳った商品も注目を集めている。ブランドオーナー各社からは、「機能性表示のできるティーバッグ商品を作りたい」「腸内環境や美容、抗糖化、肌弾力、関節テーマの原料をブレンドしたい」など、訴求ポイントを明確化した商品開発の要望が受託企業に寄せられ……

## **■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報**

今回は、特に見当たりませんでした。

## **■ 消費者意識、トレンド等の調査・分析**

### **2025年の世界の消費者トレンドは「健康寿命へのこだわり」、受身型から予防・専門的ソリューションへシフト**

ウーマンズラボ - 2024/12/13 <https://womanslabo.com/trend-241213-3>

市場調査会社の英ユーロモニターインターナショナルが、2025年の世界の消費者トレンドをまとめたレポートを公開した。世界16拠点に所属するアナリストチームが、市場調査で得た知見をもとに翌年の消費者トレンドを予測・分析するもので、2025年のトレンドとして5項目を挙げ……

### **異常気象が美容ニーズ・消費に影響、2025年上半期の美容トレンド**

ウーマンズラボ - 2024/12/16 <https://womanslabo.com/trend-241216-2>

コスメ・美容の総合サイト「アットコスメ」を運営するアイスタイルが、2025 年上半期の美容トレンドを発表した。アットコスメに投稿されたクチコミや、同社運営の実店舗での売り上げの分析、ユーザーアンケートなどから6つのトレンドを予測しキーワード化し----

## 2025年の食トレンドは、健康志向×コミュニケーション 「食トレンド予測 2025」発表

ウーマンズラボ - 2024/12/23 <https://womanslabo.com/trend-241223-3>

レシピサービスのクックパッドが、2024 年を象徴する料理・食材のトレンドと、2025 年の流行の兆しがある料理・食材を選出する「食トレンド大賞 2024」と「食トレンド予測 2025」を発表した。クックパッドの検索・アクセスデータ、ニュースメディアの「クックパッドニュース」、SNS や各種メディアで話題になったトピックス、有識者が注目する動向などを元にクックパッドが独自に選出するもので、発表は今年で8回-----

## 女性に評価されたヘルスケア商品は？ 223社・446商品がエントリー、70商品が受賞 からだにいいこと大賞

ウーマンズラボ - 2024/12/24 <https://womanslabo.com/trend-241224-1>

女性向け健康雑誌『からだにいいこと』は今月16日、本当にからだにいいと認定した商品を表彰する「からだにいいこと大賞」の結果を発表した。223社446商品がエントリーし、本誌の読者、編集部、有識者による審査を通過した70商品が受賞した。2024年は、どんな健康商品に女性たちの高評価が集まったのか？反対に、どんな商品が低評価を受けたのか？-----

## ■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

### 中強度の運動が長期記憶を強化、8週間後も効果持続—北教大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2024/12/13

<https://www qlifepro.com/news/20241213/movement-boosts-memory.html>

▼関連リンク・北海道教育大学 プレスリリース

[https://www.hokkyodai.ac.jp/info\\_topics\\_hue/iwa/detail/20134.html](https://www.hokkyodai.ac.jp/info_topics_hue/iwa/detail/20134.html)

### 学習前運動による長期記憶向上効果、最長1週間までしか示されておらず

北海道教育大学は12月4日、中強度の運動後に記憶学習をし、その後11か月後までの記憶保持に対する影響を調査した結果を発表した。この研究は、同大岩見沢校の森田憲輝教授、神戸大学の石原暢准教授、米 Northeastern University の Charles Hillman、中京大学

の紙上敬太氏らの研究グループによるもの。研究成果は、「The Journal of Science and Medicine in Sport」に掲載されて-----

## 「社会的孤独」による動脈硬化と脂質代謝異常、オキシトシンで抑制の可能性－慶大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2024/12/23

<https://www.qlifepro.com/news/20241223/oxytocin-4.html>

▼関連リンク・慶應義塾大学 プレスリリース

<https://www.keio.ac.jp/ja/press-releases/2024/12/16/28-163965/>

### 社会的孤独で動脈硬化が促進するメカニズムの詳細は不明だった

慶應義塾大学医学部は12月16日、社会的孤独が脳視床下部でのオキシトシン分泌を減少させ、肝臓における脂質代謝異常を招くことで動脈硬化を促進させる新たな分子機序を発見したと発表した。この研究は、同大大学医学部内科学教室（循環器）の高聖淵助教（研究当時）、安西淳専任講師、家田真樹教授らのグループと、同・内科学教室（腎内分泌代謝）の木内謙一郎准教授、林香教授、先端医科学研究所（脳科学）の田中謙二教授、および自治医科大学の尾仲達史教授らの共同研究グループによるもの。研究成果は、「Circulation Research」に掲載されて-----

## 生後1カ月の腸内細菌が食物アレルギー感作に関連

－日本の母子の腸内細菌叢データから解明－

2024年12月16日

理化学研究所 [https://www.riken.jp/press/2024/20241216\\_2/index.html](https://www.riken.jp/press/2024/20241216_2/index.html)

千葉大学

理化学研究所（理研）生命医科学研究センター 粘膜システム研究チームの大野 博司 チームリーダー、柴田 涼平 客員研究員、千葉大学 予防医学センターの下条 直樹 特任教授らの共同研究グループは、生後1カ月の子どもにおけるビフィドバクテリウム属優位の腸内細菌叢（さいきんそう）パターン（エンテロタイプ）が、将来の低い食物アレルギー感作（かんさ）および食物アレルギーの低い発症リスクに関連することを明らかにしま-----

## 大妻女子大学の青江教授らによる研究で、オーツミルクに含まれる水溶性食物繊維β-グルカンが低分子化により短時間で腸内細菌に作用することが明らかに

大学プレスセンター - 2024/12/20 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-55258.html>

大妻女子大学（所在地：東京都千代田区、学長：伊藤正直）家政学部 青江誠一郎教授と株式会社 明治（本社：東京都中央区、代表取締役社長：松田克也）は、オーツミルクに含まれる水溶性食物繊維β-グルカンの腸内細菌への作用（腸内発酵※1 特性）をβ-グルカン分子量、および個人ごとの腸内細菌叢の違いから検証し、β-グルカンの分子量の違いにより腸内発酵性が変化することを確認しました。なお、本研究成果は2024年11月30日・12月1日に開催された日本食物繊維学会 第29回学術集会以て発表しました。※1 腸内に生息する細菌が食物繊維などを分解してエネルギーや副産物を作り出すことで、さまざまな効果が期待されて-----

## **水溶性食物繊維 ” グアーガム分解物 ” のアルコール性脂肪肝の改善効果を解明 腸内環境の改善が肝疾患の予防に有用である可能性**

太陽化学株式会社 - 2024年12月12日

<https://www.taiyokagaku.com/uploads/2024/12/bcb32fb3b03c6538334ef90da6b96d27.pdf>

### **【概要】**

三重大学（学長：伊藤正明、所在地：三重県津市）、摂南大学（学長：久保康之、所在地：大阪府寝屋川市）、太陽化学株式会社（代表取締役社長：山崎長宏、本社：三重県四日市市）の研究グループは、腸内環境を改善する食品素材であるグアーガム分解物（PHGG）のアルコール性脂肪肝改善効果について評価し、その成果が学術誌『Journal of Gastroenterology and Hepatology』にオンライン掲載され-----

## **日本人におけるオリーブオイルポリフェノールの健康性が明らかに**

～オンライン国際科学雑誌「Nutrients」に掲載～

日清オイリオグループ株式会社 - 2024/12/13

[https://www.nisshin-oillio.com/company/news/down2.php?attach\\_id=1777&uid=9184](https://www.nisshin-oillio.com/company/news/down2.php?attach_id=1777&uid=9184)

日清オイリオグループ株式会社（社長：久野 貴久）は、「日清オイリオグループビジョン 2030」の6つの重点領域において「すべての人の健康」を掲げ、脂質栄養の知見を軸とした商品・サービスを提供することによって、人々の生涯にわたり、活力のある健康的な生活に貢献することを目指しています。このたび、これまで欧州を中心に認められていた、オリーブオイルに含まれるポリフェノール（オリーブオイルポリフェノール）の低密度リポタンパク（LDL）の酸化を抑制する機能が、日本人においても発揮されることを明らかにしました。LDLの酸化は、動脈硬化症を進行させる要因の一つであることが知られており、本研究結果はオリーブオイルポリフェノールの健康機能が日本人でも有効なことを示すものとなります。この成果は、2024年10月1日にオンライン国際科学雑誌「Nutrients」に掲載され-----

## **腸内細菌叢の構成が大麥摂取による抗肥満効果を左右する納豆との組み合わせによる酪酸産生の促進が示唆** -科学雑誌『Frontiers in Nutrition』掲載-

株式会社はくばく - 2024/12/19

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000152.000045708.html>

『主食改革』を提唱する株式会社はくばく(本社：山梨県中央市、代表取締役社長：長澤重俊)は、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所(「医薬健栄研」)ヘルス・メディカル微生物研究センターの國澤純センター長および山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座大岡忠生講師らの研究グループとの共同研究により、大麥の摂取量が多い非肥満者では納豆の摂取量および腸内の酪酸産生菌の存在量が多いことを明らかとし、これらの特徴が大麥摂取による抗肥満効果を特徴づける可能性があることを示しました。

本研究成果は科学雑誌『Frontiers in Nutrition』(2024, 31:1434150)に2024年10月31日に掲載され-----

## **【共同研究成果】GC/MSによる腸内機能性代謝物質同時定量法を確立！～化学的特性が異なる代謝物質を一斉に測定可能とし、腸内環境研究の前進に貢献～**

株式会社メタジェン - 2024/12/19 <https://metagen.co.jp/2024/12/19/20241219-0008/>

株式会社メタジェン(本社：山形県鶴岡市、代表取締役社長 CEO：福田真嗣、以下、「当社」)は、腸内環境研究をより加速させるべく、腸内細菌叢の機能評価に向けたGC/MS(ガスクロマトグラフ質量分析計)による腸内機能性代謝物質同時定量法をアジレント・テクノロジー株式会社、慶應義塾大学先端生命科学研究所と共同開発いたしました。その研究成果が科学雑誌「Gut Microbes Reports」に2024年12月9日付で掲載され-----

## **女性ホルモンと歯の関連をライフステージごとに分析、思春期・妊娠期・更年期における特有のリスクを明らかに**

ウーマンズラボ - 2024/12/23 <https://womanslabo.com/news-women-241223-1>

本稿は、東京西徳洲会病院小児医療センター小児神経科の秋谷進医師による寄稿記事です。歯周病が全身の健康に影響することは近年徐々に認知されてきましたが、実は、女性ホルモンも歯の健康に影響することがわかっています。女性特有の健康課題として、ライフステージ別の影響を分析した研究論文を解説し-----

## **【セミナーレポート】コーヒー第3の健康成分「トリゴネリン」が白色脂肪細胞をベージュ化して安静時のエネルギー消費を向上！**

ウェルネス総研レポート online - 2024/12/20 <https://wellnesslab-report.jp/3532/>

ミドルシニア世代に向けたアンケート調査では、体重や体型が維持しにくくなった理由として、男女ともに大半の人が「老化」や「運動不足」よりも「基礎代謝の低下」と回答していました。この基礎代謝と密接に関わっているのが脂肪細胞です。2種類ある脂肪細胞のうち、白色脂肪細胞をいかにベージュ化するかという部分が1日の代謝の7割を占める安静時エネルギー消費量を向上するための鍵となります。

2024年11月14日に、「池谷敏郎先生と考える！UCCの最新研究で見出したコーヒーの第3の健康成分『トリゴネリン』の効果とコーヒーの新しい楽しみ方」をテーマに掲げ、カフェインやクロロゲン酸に続くコーヒーの第3の健康成分トリゴネリンが白色脂肪細胞をベージュ化するという研究成果とともに、UCC上島珈琲株式会社がセミナーを開催しました。その中から、池谷医院 院長 池谷敏郎氏の登壇とUCC R&D本部 研究開発部 植田恵美氏、有木真吾氏によるトリゴネリンの研究成果についてレポートし……

**以下の一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事は、2024年12月11日～12月24日掲載分から選定したものです。**

## **野菜摂取量と1日の歩数は減少が続き、食塩摂取量は変化なし 令和5年国民健康・栄養調査**

<https://sndj-web.jp/news/003090.php> (2024年12月11日)

厚生労働省は11月25日、令和5年「国民健康・栄養調査」の結果の概要を発表した。栄養に関連する項目を中心に抜粋して紹介……

## **BCAA 摂取の影響に性差 筋力に関しては男性で効果が高く、筋肉痛と倦怠感に関しては女性も有効**

<https://sndj-web.jp/news/003096.php> (2024/12/17)

分岐鎖アミノ酸（BCAA）の効果には性差があり、筋力増強は男性で顕著であり、遅発性筋肉痛や倦怠感の抑制効果については女性でも高いことを示すデータが報告された。介入期間6カ月のRCTの結果であり、イタリアの研究者らによる論文。

……

## **クレアチンの筋力増強効果に影響を与える因子が明らかに 系統的レビューとメタ解析**

<https://sndj-web.jp/news/003112.php> (2024/11/23)

筋力増強を期待してクレアチンを摂取しているアスリートは少なくないが、その効果に影響を及ぼし得る因子が、システマティックレビューとメタ解析から示された。性別と摂取量という二つの因子が、効果の違いを生じさせる可能性がある-----

## ■ その他の食品関連科学・技術情報

### アルカリ度が高い水は緑茶やコーヒーの香りを強くする

MONOist - 2024/12/20 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2412/11/news051.html>

LIXILは2024年11月27日、水道水中のアルカリ度が緑茶やコーヒーなどの香りと味に及ぼす影響を調査し、アルカリ度が高いと香りが強くなることを確認したと発表した。京都大学大学院との共同研究の成果-----

## ■ その他の科学・技術情報

### 約1分で粒子径分布測定と粒子形状解析を実行、半導体や医療業界など向け

MONOist - 2024/12/20 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2412/20/news107.html>

堀場製作所は2024年12月10日、粒子径分布測定と粒子形状解析を同時に実行できる装置「Partica（パーティカ）」を発表した。エネルギーや環境、バイオ、ヘルスケア、先端材料、半導体業界に向け、2025年1月6日に販売を開始-----

以上